

2004⇄2006

研究グループ交換

GROUP STUDY EXCHANGE REPORT

報告書



かけ橋の年

行動するロータリー

●2004～2005 THEMA

ロータリーを祝おう

●2005～2006 THEMA

超我の奉仕

R.I.D.2650 ⇄ R.I.D.1850

受入 2004年10月25日～11月25日

派遣 2006年5月15日～6月16日

研究グループ交換報告書

2004⇄2006

目次

Celebrate Rotary “ロータリーを祝おう” 100周年年度のG.S.E.	
R.I.D.2650 2004-2005年度ガバナー 神谷 保男	2
日本とドイツに友情の「かけ橋」を！	
R.I.D.2650 2005-2006年度ガバナー 大久保 昇	3
「100周年記念GSE チーム」の来日！	
R.I.D.2650 2004-2005sw 年度G.S.E.委員長 木村 憲一.....	4
“超我の奉仕” 社会人の国際交流プログラム “G.S.E.”	
R.I.D.2650 2005-2006年度G.S.E.委員長 荒木 一寿	5
ドイツ派遣団報告書	7
受入報告書（ドイツG.S.E.チーム）	39
R.I.D.2650研究グループ交換プログラム実施年表	118
2004～2006年度R.I.D.2650 G.S.E.委員会名簿	124

Celebrate Rotary “ロータリーを祝おう” 100周年年度のG.S.E.

●R.I.D.2650

2004－2005年度ガバナー

敦賀ロータリークラブ **神谷 保男**



G.S.E.はロータリー財団の国際交流プログラムで、1965年に発足しました。ロータリーの異なる国に二地区間で事業及び専門職務に携わる優秀な人物をお互いに交換し、4週間から6週間の範囲で行うプログラムです。

その目的は、他の国の国民と諸施設及び事業研究、並びに国際理解と親善を深めることにあります。第2650地区としては、1971～72年度からはじまり、今回は第22回目を迎えたのですが、諸般の事情によりこれまでは1年間で交換していたのを、今回は2年間かけて交換することになりました。そして、今年度はドイツ北部のブレーメン市を中心とした第1850地区からチームリーダーのピーター・ミュラー氏以下5名が10月25日関西国際空港着で来日し、奈良東RC・舞鶴RC・京都朱雀RC・福井フェニックスRC・大津唐橋RCの地区内5クラブのホストにより実施されました。その間の11月5日～6日にはG.S.E委員会より広島へ泊エクスカーションを行い、平和記念原爆資料館見学などをして貰いました。また11月20日～21日は地区大会参加のため、敦賀へも一泊で来られました。私はまだ公式訪問の最中の地区大会であったので、殆どこのドイツからのG.S.E.メンバーと接する機会が無く、残念な思いがしておりましたが、彼等が帰国後に木村憲一G.S.E.委員長に寄せられたレポートを読ませて頂くことにより、この度の日本訪問・滞在中にどのような感想を抱いて帰国していかれたかを知ることが出来ました。

それによると「日本が私たちに提供するであろうことを予想して準備し過ぎではないかと思うくらい1年かけて準備しました。しかしそれは杞憂に過ぎず、私たちは旅行で見た何百万もの新しい印象に絶対的に圧倒された。」と書かれています。この18枚にわたるレポートは大変興味深く、彼等が旅行中に遭遇する場面の至る所で感動を与えています。随所で笑ったり、喜んだり、悲しんだりの印象が語られ、たとえ国は異なっているも人間の心は同じ、人類は共通であり、だからこそ平和な地球への希望を持つことが出来ると、今更ながら感じました。

G.S.E.の持つ意義を改めて教えられる思いと共に、精一杯ホストを務めて下さった5つのRCの皆さまと木村憲一地区委員長ほか、委員の皆さまに深甚なる敬意と感謝を表します。

日本とドイツに友情の「かけ橋」を！

●R.I.D.2650

2005～2006年度ガバナー

京都西南ロータリークラブ

大久保 昇



GSEは、異なる国にある2つのロータリー地区の間で、若い事業主や専門職業人からなるチームを相互に訪問（4～6週間）して、自己啓発並びに国際間の理解と友好の増進を目的とした奉仕活動です。

当地区は、2004～05年度に受け入れを行い2005～06年度に派遣を行なうという、16年ぶりの2年にわたるGSEをドイツRI 1850地区（ニーダーザクセン州・ブレーメン）と行なうことになりました。

昨年の受入れ事業は、RI 1850地区からチームリーダーのピーター・ミューラー氏以下5名の素晴らしいメンバーが2004年10月25日～11月25日まで当地区を訪問されました。

本年度、2650地区のGSE派遣団は、一般の方々から幅広い募集活動を行ないました。選考に残られた4名が田中文夫団長（福井南RC）と共に、2006年5月15日～6月15日までドイツに派遣されました。

この5名の派遣団が歴史あるドイツの文化、教育、音楽に接し交流の機会を得、そして異国の多彩な産業、施設などを直に訪問し勉強ができましたことは、団員にとりまして今後の人生、職業に生かしていける得がたい経験として特別な記憶に残る思い出になったことだと思います。

また他の国のことを学ぶことの他に親善大使としての役目としまして団員は、その訪問先の地域社会で受入れ側のホスト役のロータリアン、その他現地の人達に、日本のことを色々説明されたことかと思います。

このような国際親善活動を通して日本とドイツに友情の「かけ橋」をかけることができました。地区GSE委員長の荒木一寿様、団長の田中文夫様はじめ関係者の皆さまには、ひとかたならぬ、ご尽力に厚くお礼を申し上げるとともに、深い敬意を表したいと存じます。

「100周年記念 G S E チーム」の来日！



●R.I.D.2650

2004－2005年度G.S.E.委員長

福井ロータリークラブ **木村 憲一**

研究グループ交換（G.S.E.）は、ロータリー財団の教育プログラムの一つであり、異なる国の2つの地区が組み合わされ、ロータリアンではない4～6名のチーム・メンバーおよび1名のロータリアン・チーム・リーダーからなる専門職業の研究グループを、互いに派遣し、受入れ合うものです。旅行期間は4～6週間で、チームは可能な限り地元のロータリアンの家に滞在します。本プログラムの目的は、地元社会のニーズや国際化の進む職場のニーズに対応できるよう、若い成人の専門的職能や指導力を磨くことです。さらに、G S Eは、研究チームを派遣し、受入れ、共にその教育体験を分かち合うことによって、ロータリーの世界的使命を高める機会をロータリアンに与えます。このG.S.E.は1965年に発足し、我が地区では1971-72年度から始まり、今年度のドイツで22回目のG S Eとなります。相手国の内訳は、アメリカ10回、オーストラリア3回、フィンランド・デンマーク・ドイツが各2回、フランス・ブラジル・台湾が各1回となっており、今までに計8カ国とG S Eを行なっています。

今年度のG S Eは、神谷ガバナーのたつての希望により、2004－05年度に受入を行ない2005－06年度に派遣を行なうという、16年ぶりの2年にわたるG S Eを、ドイツ北西部の町ブレーメンを中心とした第1850地区と行なうこととなりました。2004年2月アナハイムの国際協議会におけるG S E本会議ミッションで、神谷ガバナーが相手地区ドイツ第1850地区 Dr.Martin GutscheガバナーとG S Eの調印をして以降、相手地区G S E委員長Mr.Rolf Fleckstein氏及びチームリーダーのMr.Peter Moeller氏と、チームのプロフィールやスケジュールに関する打合せを幾度となく繰り返し、2004年10月25日に、今年度旅行するG S Eチームに付される「100周年記念G S Eチーム」であるドイツチームの来日が実現しました。

Mr.Peter Moeller団長をはじめ、Ms.Antje Bresnick・Ms.Heike Hansjuergens・Mr.Gerd Hachmoeller・Mr.Ansger Scherpの4名の団員は、僅か一ヶ月間という滞在期間でしたがその間精力的に地区内を廻り、たくさんの成果と思い出を胸に11月25日関西国際空港より無事帰国の途につきました。

受入をして頂いた奈良東RC・舞鶴RC・京都朱雀RC・福井フェニックスRC・大津唐橋RCの皆様及びホストファミリーの方々本当にご苦勞様でした。この貴重な体験を今後のロータリーの国際奉仕活動に生かしていただければ幸いです。2004年は台風や地震など災害の多い年で、被害に遭われた受入クラブの方もおられたにもかかわらず、立派に受け入れしていただき厚く御礼申し上げます。

最後に、次年度2005－06年度には、ドイツチームに負けないすばらしい日本チームを派遣できることを願いまして、私の挨拶とさせていただきます。

“超私の奉仕”

社会人の国際交流プログラム“G.S.E.”



●R.I.D.2650

2005 - 2006年度G.S.E.委員長

福井北ロータリークラブ 荒木 一寿

第22回事業の当地区とドイツ1850地区との研究グループ交換（G.S.E.）は隔年実施となりました。

この為、昨年度は2004年10月25日から1ヶ月間ドイツ派遣団が当地区を来訪し、本年度が派遣の年度となりました。昨年のドイツ派遣団受け入れに際しホストされた地区内ロータリークラブの方々のご協力に厚く御礼申し上げます。

2005～06年度は派遣年度ですので当地区から団長1名、社会人4名の派遣団を編成しドイツ1850地区への派遣を致しました。今回も団員は現地で大変暖かい歓迎で迎えられ、専門分野での職業研修や友情交換など一ヶ月間に亘る貴重な人生体験を経験し本年の6月16日に関西空港へ無事帰国して参りました。派遣団員のスポンサーとしてご協力頂いた各クラブの皆様そして引率の労を引き受けて頂いた田中文夫団長に感謝申し上げます。

研究グループ交換事業は参加年齢が25歳から40歳までと規定されております。若く比較的社会での職業経験の浅い社会人が異なる国へ訪問し相手地区のロータリーメンバー協力による職場案内やホームステイなど“生”の交流機会を与える事を目的とした事業です。現代は情報手段が今までに無く便利になり世界各地との情報交流もリアルタイムで可能となっていますがそれでも現場での“生の体験”には情報手段などを使っでは得られない深いものがある筈です。更に、現地での文化・職業・社会・の交流の機会の他にも現地のロータリーメンバーやホームステイに依る国際理解を通じ二国間の友情を育むことも目的とした事業であります。

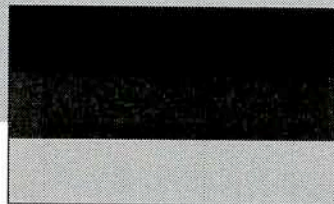
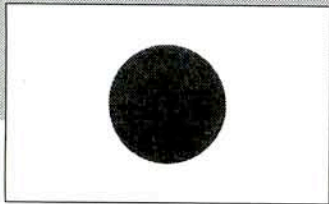
このGSEプログラムは国際ロータリーが設定している数ある教育事業の中でも意義あるもの、一つと位置付けられております。世界的なグローバル化が進む現在、皆様にはこのプログラムに今一度ご留意を頂き多くの方々がこの国際的な制度の活用に一層ご協力を頂きます様お願い申し上げます。

末尾になりましたが大久保 昇ガバナー様には極めてご繁忙にも拘わりませず再度に亘り私共委員会の行事にご出席下さり適切なアドバイスを頂きました、当紙面をお借りいたし衷心より御礼申し上げます。

研究グループ交換／G.S.E.

ドイツ派遣団報告書

R.I.D.2650 → R.I.D.1850



ドイツ派遣チームを 引率して

福井南ロータリークラブ／GSE 団長

田中 文夫

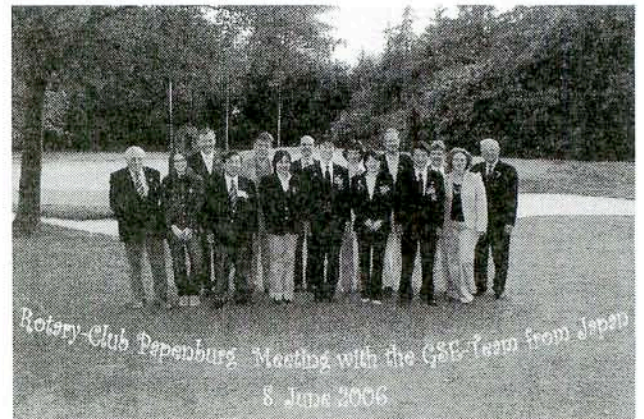


D1850 地区ドイツ（ブレーメン）地方に5月15日～6月15日迄GSEとして行って来ました。

GSEはロータリー財団の重要なプログラムのひとつです。自分の専門職業を広く見聞き友情の輪を広げることにあります。職業に携わる25才～40才の人達が異なる他の国の地区の人々と交流しホームステイをしながら自分の職業研修や他の国で生活した事の経験を帰国後自分の職業を通じて広く地域社会に貢献することです。GSE研修は基本的には団長も含めての全員の団体行動と個人個人が自分の職業に関して行うボケショナルスタディとの二つのスタイルで成り立っています。4、5日間で各ロータリークラブを移動するため日程はそれぞれ受け入れクラブが決定し各地区の特長を生かしたユニークな日程が組まれている。受け入れ地区の風俗習慣や伝統、しきたりを直接経験しそしてドイツの経済的、又は文化的な風習を体験することが出来ました。更に政府、教育、および産業から社会福祉、スポーツ、音楽レクリエーションに至る諸々の機関や施設を訪問することが出来た。メンバー自身の職業的な関心事についてより深く学ぶことが出来たと思います。

今年のドイツはサッカー開催国で沸いていました。いい気候の日本を出発ドイツのブレーメン地方は氷雨が降り雷がそして霰が朝雨そして曇り2日間程寒い日が続いていた。メンバー達もドイツと云うのは寒くてやりきれないところと思われると思うながらも、6月の5日頃から今度は暑い晴れた日が続き安心しました。各自が定められたボケショナルを私は特に年齢的に気になる老人施設の訪問をしました。余り日本と変わりがありませんが個室が多いのには少々おどろきました。ある人は自分の家を売却し夫婦で施設入りした人もいました。

親善と理解を推進するための特使としてこのGSE交換は興味深く参加の価値があり実り多きものであったと確信いたしております。全チームメンバーの元気で安全で健やかに帰って来られた事を感謝すると共にすばらしいチームだった事を御報告いたします。



メンバーは次の方々でした。

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 賀 川 夕 子 | （湖南RC推薦）
甲賀高分子(株) 勤務 |
| 津 田 浩 信 | （京都紫竹RC推薦）
(株)関西総合鑑定所 勤務 |
| 東 川 景 子 | （福井南RC推薦）
学校法人金井学園 勤務 |
| 森 井 裕 | （福井北RC推薦）
ネットトヨタ福井(株) 勤務 |

また、ドイツ・カンマー・フィル公演最後のリハーサルにも身近に見学出来ました。世界最高のベートーヴェンを演奏するこのフィルは日本公演から帰って来たばかりでした。明日からフランスにというこのリハーサルにもGSEだから立ち合えました。

次に訪問中良く使った日常挨拶文を御参考までにいくつか掲載します。

おぼえたドイツ語

Guten Abend !, (Guten Tag !) Meine Madam und Herrm,

Wir sind Mitglied von G.S.E., das aus Japan kommt.

Unsere 2650. Bereiche werden dargestellt im historischen Kapital von Kyoto und von Nara, ist es die Stadt von sight-seeing.

94 dort ist die Zahl Pfostenvereinem.

Und, das Rotary Mitglieder sind 5300.

Ueber die Freundschaft, die zu homestay, moechten Wir fuer die Wirtschaft und die Lebensweise, erforschen und studieren Und moechten Wir gutes Gedaechnis nach Japan zurueck tragen.

Wie wir bitten, koennen

Danke sehr !

こんばんわ ! (こんにちわ !) みなさん、

私たちは、日本から来ました G S E のメンバーです。

私たち 2650 地区は京都や奈良の歴史的な都に代表される観光の都市です。

所属クラブ数は、94 あります。

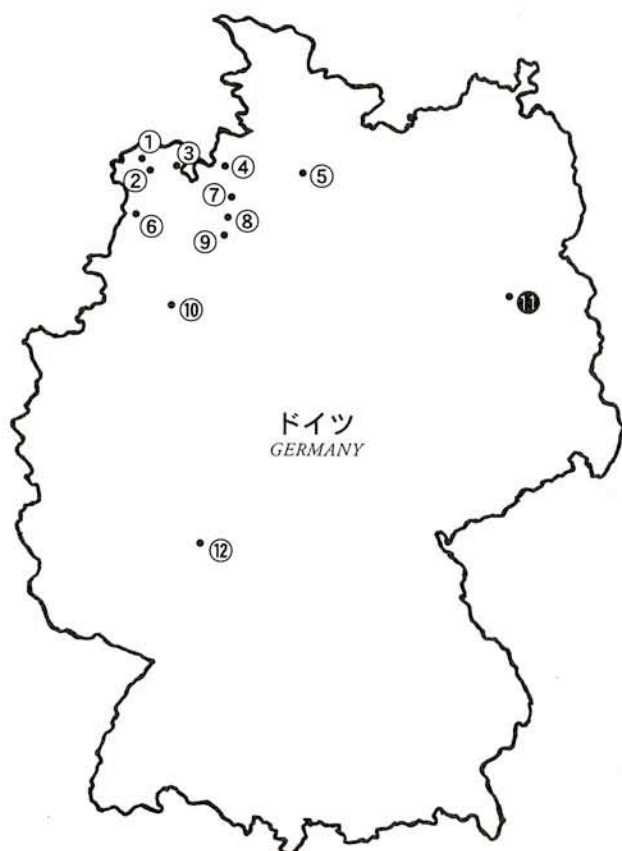
又、ロータリアンは 5300 人います。

私たちは、ホームステイによる親善をつうじ経済や生活様式の研究、勉強をし、いい思い出を日本に持ち帰りたいと思います。

どうか、宜しくお願いします。

有り難うございました。

GSE 研修訪問地域図



- ① エssen Esens
- ② ヴィットムント Wittmund
- ③ ヴィルヘルムスハーフェン Wilhelmshaven
- ④ ブレーマーハーフェン Bremerhaven
- ⑤ ハンブルグ Hamburg
- ⑥ パペンブルグ Papenburg
- ⑦ オスターホルツ Osterholz
- ⑧ ブレーメン Bremen
- ⑨ ニューエンランデ Neuenlande
- ⑩ オスナブルク Osnabrück
- ⑪ ベルリン Berlin
- ⑫ フランクフルトアムメイン Frankfurt am Main

2005～2006年度

R.I.D.2650地区→ドイツD1850地区派遣団

団 長；^{タ ナカ フミ オ}田 中 文 夫 福井南R/C 会員

福 井 市

Fumio Tanaka (64 Years)

Team-Leader

Rent real property

Sponsoring District 2650



Live in Fukui city, corporate advisor of a company, member of Fukui South Rotary club, ex-secretary and ex-president of the Rotary club. Various roles experienced for Rotary district 2650.

Hobbies are reading books on history, a member of Rotary club choir, and play parlor tricks.

団 員；^{カ ガワ ユウ コ}賀 川 夕 子 湖南R/C 推薦

滋賀県甲賀郡石部町

甲賀高分子株式会社 勤務

Yuko Kagawa (30 years)

Sales assistant

Sponsoring RC ; Konan

Shimoda, Konan-shi, Shiga Pref.



Osaka born, live in Shiga prefecture.

As sales assistant with in KOGA Kobunshi Kabushiki Kaisya, the company of dealing synthetic resin products for pack and wrap.

Hobbies are to meet friends on free time and to play tennis, pottery making.

団 員；^{ツ ダ ヒロ ノブ}津 田 浩 伸 京都紫竹R/C 推薦

滋賀県守山市

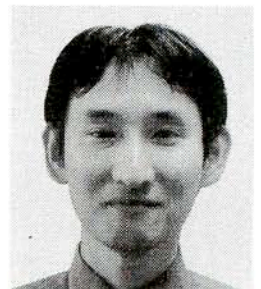
株式会社 関西総合鑑定所 勤務

Hironobu Tsuda (33 years)

Real estate appraise

Sponsoring RC ; Kyoto-Shichiku

Moriyama-shi, Shiga Pref.



Living in Moriyama-city, working for a company of evaluate for real estates.

National qualification for examination of real estate appraiser qualified. Hobbies are to meet friends, playing baseball and reading.

団員：東川景子^{ヒガシカワ ケイ コ} 福井南R/C 推薦

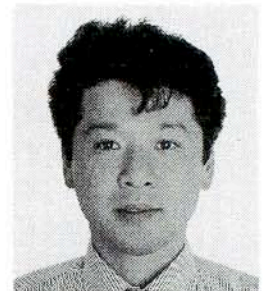
福井県あわら市
福井工業大学 事務局 勤務
Keiko Higashikawa (25 years)
Office worker
Sponsoring RC ; Fukui South
Awara-shi, Fukui Pref.



Live in Awara-shi in Fukui Prefecture. Work for Fukui Institute of Technology. Hobbies are to meet and have chat with friends, watch DVD, traveling and shopping.

団員：森井裕^{モリ イ ユタカ} 福井北R/C 推薦

福井県坂井市三国町
ネットヨタ福井株式会社 勤務
Yutaka Morii (39 years)
Factory service manager
Sponsoring RC ; Fukui North
Mikuni-cho, Sakai-shi, Fukui pref.



Live in Mikuni-cho, with Nets Toyota automobiles deal company.
The first grade Toyota company automobile maintenance technical expert qualified. Hobby is scuba with family.

GSE 研修

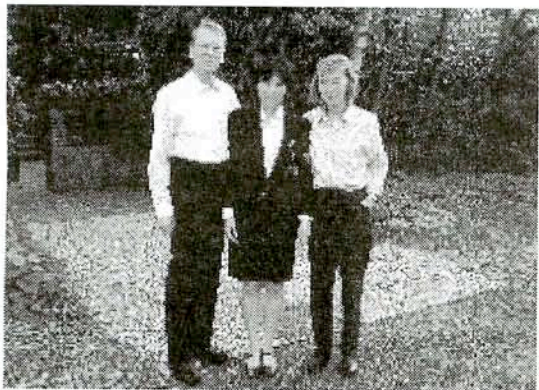
～ドイツで感じたこと～

湖南RC推薦ロータリークラブ／推薦

賀川 夕子



5/15、いよいよ出発の時、期待と不安で私の興奮状態は最高潮でした。期待は、今まで行ったことのない国ドイツで1ヶ月間という時間をかけて生の体験が出来るという好奇心から。不安は、第1にコミュニケーションの問題、ドイツ語はおろか英語さえままならない私がこの1ヶ月間務まるのかということ。そして、第2にホームステイが私にとって初めての経験だったということ。しかし、期待も不安も1ヶ月間、今思えば本当にあっという間のことでした。



ブレマーハーベンのホープスさん宅前にて

地域と気候について

私達は1ヶ月間で北ドイツのニーダーザクセン州とブレーメン州の7つの町を移動しました。まず、この地域を移動して一番感じたのは、何百メートル先までも見渡せるフラットな土地であること。私が、なんて平らで広い所なんだろうと驚きを示すと、ドイツの人達は口を揃えて、「この土地では3日後に誰が来るか分かれている。」と言った。それ程、この地域は山らしい山がなく見渡す限りフィールドでその間にポツリポツリと防風林の木立が見られた。北ドイツはドイツの中で唯一、海に面した地域で、ノースシーから来る海風が絶えず広大な平

野を吹き抜けていた。私達が2番目に訪れた町ヴィットムントでは、特に風の強さを実感した。その風を利用した風力発電の塔に行く先々で見ることが出来た。日本では見ることが出来ない雄大で興味深いこの光景に、私は常に見入ってしまいました。この地域は海よりも水位が低いこともあって堤防と水路が多く見られ、水辺に行く機会も多くあったのだが、そこで感じたのが意外に水が濁っているということ。しかし近くに行っても日本の汚水のような生臭さはなかったので、恐らくこの土地特有のトーフという腐葉土の影響もあるのかと思った。水に関しては、滞在中いくつかの上下水道施設を見学することが出来たが、その工程であまり薬品を使っていないこと最終工程の水が日本のように完全に透明でないことを感じた。私が「まだちょっと色があるじゃない？」と聞くと「色は付いているけど安全だから大丈夫」と言われた。日本とドイツの水処理の意識は少し違うのかなと感じた。

また、私達を驚かせたのは、その気候の変化である。最初の3週間はほとんど雨と風の日が続き、その寒さに悩まされた。通常の5月ではありえない気候だと言われたが、5月の滞在中はほぼ毎日コートが必要なほどで、なんて寒い所だろうと思った。時々、氷が降ったのには本当に驚かされた。5月で



バターソンさん宅にて日本食の手料理に挑戦

これじゃ、1月や2月はどんなことになるんだろうと要らぬ心配までしてしまう程だった。そろそろ寒さに慣れてきた頃に、今度は雨も止み、毎日好天が続いた。

1週間の間に、その気温は20℃程変化した。いわゆる冬からいきなり夏になったのである。海から来る風で、気候が変わりやすいというのは、何となく理解できたが、日本の四季に慣れている私達には冬から夏への変化は思いも寄らぬものであった。日本人とドイツ人の違いは、その気候からもきているのではないかと私は感じた。気候の変化を諸共せず、彼らは大変タフで、よく食べ、よく飲み、よく話した。そして、よく歩いた。



ヴィットムントの送別会にて。蛍の光を歌いました

家と町並みについて

ドイツの家は、その気候に耐えうる為にか大変頑丈に出来ていて、築30～40年は普通で、2番目にステイしたベッカーさん宅は築100年と言っていたので驚いた。古い形を大切にしながら、内装は生活に合わせて自ら改装するのがドイツ流のようである。外観は潮風にも強い赤レンガでほとんどが統一され、三角で急な屋根。重厚な窓は、閉めた状態ならば外気を完全に遮断し、寒い時は家の中は暖かく、暑い時は涼しく保たれる様な構造になっていて、冷暖房なしでも以外に快適に過ごせることに驚いた。冷暖房を過剰に必要としない家の構造自体が、ドイツが環境国となりうる要因であると感じた。また、ドイツの人は古い町並みを非常に大切にする。5番目にステイした町オスナブルクで私達は町の中を歩いて見て回る機会を持つことが出来たのであるが、歩いて見て回ることで特にそのことを強く感じた。オスナブルクの中心部は古くからの城壁都市になっており教会を中心にした放射線状のコミュニティー内は多くの古い建物が残されていた。現存する古い建物は法律で規制され、その持ち主であっても改装

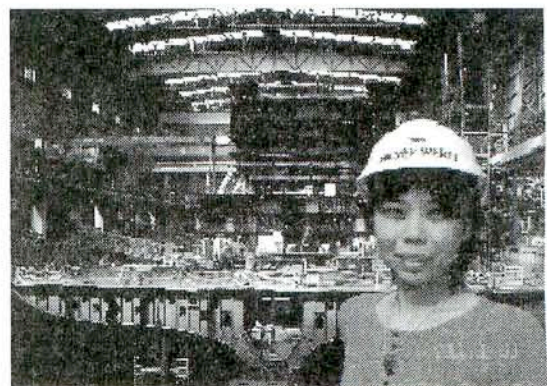
するにはペンキの色一つ役所の指示を受けなければならないとの事であった。新しい建造物には、その建物が町並みにマッチしているかが話題となり、町並みに合わない建物はとかく批判の対象になった。本来ならドイツの町並みは世界大戦時に多くが失われているはずなのに（現にこの滞在中もこの建物は戦争で大半が失われたという言葉をよく耳にした）、私達が歩いた町並みは中世そのもので、というのも建物の再建は古い写真や資料を基に行われており、厳密に再現されていた。その徹底的な町並み保存の意識には感動させられた。そのおかげで、町並みの統一感はすばらしいもので、私達はタイムトリップした様な感覚を味わえた。それが理由かはさておき、私は建物を見分けることが出来ず1時間迷子になった程でした。



ヴィルヘルムスハーベンの中心街にて新聞用の写真を撮影。

ボケーショナルについて

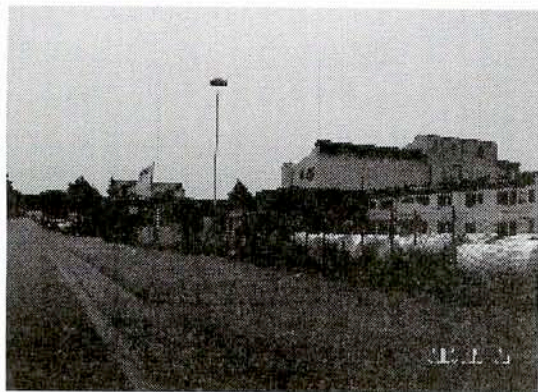
GSE 研修は職業上の研修も兼ねていることもあって、この1ヶ月間でいくつもの興味深い企業を訪問することが出来ました。特に興味を持って見ることが出来たのは、私がポリマー系の梱包資材を扱う会社に勤めていることもあってNORDENIA（ノーデニア）というフィルムのインフレ工場とJULIUS HEYWINKEL（ジュリアス ハイウインクル）と



バーヘンブルクのシップヤードにて。

いうポリマー繊維に塩ビを塗布した膜素材を製造する会社、そして、この地域特有の産業である風力発電の塔を製造販売するENERCON（エナコン）という会社である。

NORDENIAでは自動車関係の保護用フィルムをメインに生産しており、インフレ工程などは、まさに私が勉強していかなければならないもので、日本で以前に見学したことのあるものと製造工程上の名

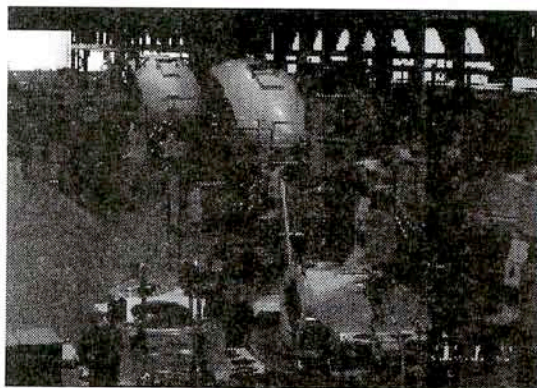


称や製品名が似ているため、その内容がよく理解できた。製造サイズは幅5mまでとかなりの広幅サイズまで可能で、原料は三井や三菱など日本の企業から仕入れているとの事であった。目を引いたのは、その印刷工程と折りたたみ工程である。印刷工程はインフレダイスからそのままつながっておりフィルムを巻取る前に一気に印刷までかけていた。出来あがったフィルムは折りたたみにかけられ、ある一定の四角いサイズにされるのだが、出来あがったものを開いてみるとすでにシートの形にシールと折り込みがされており、工程上の手間を省く設備がよく考えられているなど感じた。工程自体はとてもシンプルで簡単のように思えたが、シールや折り込みに工夫を凝らしているのがよく分った。この工場ではストレッチフィルムやゴミ袋も生産しており、シュリンクフィルムのような強さと張りのあるストレッチは自社開発製品だと言っていた。また、製造するゴミ袋はすべてリサイクル原料を使用するようにしているとの事であった。原料の段階から色分けがきちんとされており、リサイクル原料からであっても白や青のポリ袋の製造も可能なのは、資源の仕分けが行き届いているドイツならではのなのかなと感じた。そして今回、工場内を案内して下さったマーケティング・マネージャーのリーさんは中国の方でこの企業は中国にも工場を持っているとの事でした。ドイツに来て、ほとんどアジア系の人に出会うことがなかったもので、中国の方に出会えて先頭に立って頑張っておられるのを見ると本当にすばらしいなと思

いました。リーさんの丁寧な説明には本当に感謝しています。

JULIUS HEYWINKELでは、主に自動車のファブリック部材やゴムボートやテントの材料や広告用の壁材となるポリマー繊維に塩ビを塗布した膜素材を製造していた。織工程では何十台もの織り機がほぼ無人で動いており、ポリマー素材の糸がすばやく織りこまれて5m幅の原反に仕上がっていく様子には圧倒させられた。また、ここでは今まで見たことのない塩ビの塗布工程を見ることが出来た。熱をかけて液状になった塩ビを織物の上に塗布していくのだが、その工程が意外に手作業も含めた普通状態で行われているので驚いた。今まで日本で聞いてきた話では、塩ビは燃焼する際にダイオキシンを発生するので環境負荷になるとして、その使用が減少傾向にあると思っていたが、ドイツでは他の素材に比べて環境負荷が高いという考え方は無く、加工しやすく耐久性のある素材として意外に多くの部材に使用されている。そして、塩ビ製品はリサイクル可能というのがドイツの考え方のようだ。素材一つでも考え方が違うのには国による多様性を感じた。また、この会社はいくつかの日本の企業とも取引があった。案内して下さった、エブリンさんは日本にステイしていたことがある方でとても楽しく説明して下さいました。日本にもどんどん商品売りこみたいので、Cooltraxという新しい開発商品をPRしてねと言われました。それは木陰のような機能をする商品で、いわゆる膜素材の一部に穴があいていて日光を通すようになっているものです。用途は海辺などの日除けにとの事でした。いかにも木陰の気持ちよいドイツならではの開発商品なのが面白いなと思いました。

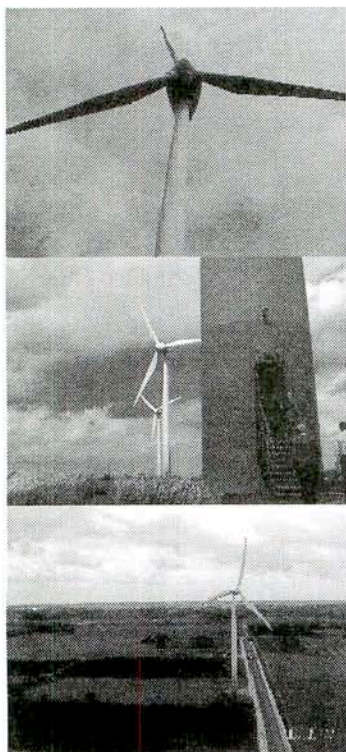
ENERCONは、風力発電の塔の製造と言うことで私の職業とはあまり結びつかないのですが、日本にはほとんど無い企業ということもあって、その工



エナコン：風力発電の回転軸製造工場にて

程のすべてに興味を持って見る事が出来た。この会社はわずか20年でガレージから始まったものが、今では従業員8,000人程の大企業である。それを見ただけでも、ドイツの自然エネルギーに対する考え方はとても進んでいることが分かる。塔の大きさは小さい物でも約30m、大きいものでは80mにもなるので、その製造工程はすべて自動化されているのかと思いきや、意外にもその多くの重要な部分で手作業が取り入れられていた。

ドイツに来て感じたことの一つに彼らが一人一人職人であるということがある。それは学校制度の違いも影響しており、大学に進まずに職業に就いた人に対しては、3年間は1週間おきに仕事をし、他の週はその職業の技術を学ぶ研修を受けることが出来る学校と仕事の中間のような制度があるとの事であった。また、大学に進んだ者については、そのプロフェッショナルを重要視され、彼らは自分の職業について絶大な自身を持っているように感じた。私も何度もプロフェッショナルを聞かれた。そのことも



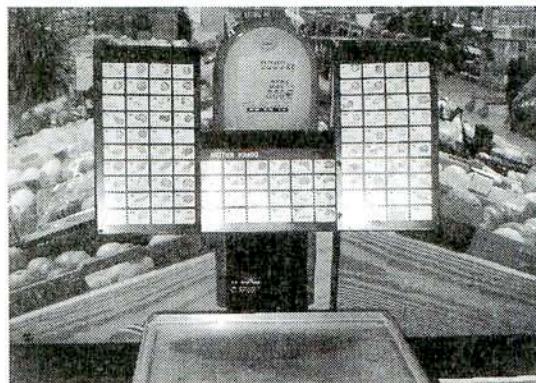
あってなのか、ドイツの企業での重要な工程で機械に頼らない職人の技を見ることが出来た。特にこのENERCONという会社では、形は計算され尽くされているのに工程は職人技を多く取り入れているように感じた。そこで豊田自動車のカンバン方式が採用されているのを発見した時は驚いたが、よいシステムは世界のどこでも採用されるのだと実感した。

また、今まで風力発電は風の力だけに作用されるかと思っていたが、説明を受けて初めて、風の向きや時間帯、立地条件などによって厳密にその動きをコンピューターで制御していることを知った。単純に見えるものほど奥が深いものなのだと感じた。ドイツという国を訪問して、そして、このような会社を見学することができ、これからのエネルギーを考える上でクリーンなエネルギーを使用することは重要な課題であり、それを選んでいくことは私達の役

割であることを強く感じた。

リサイクル大国ドイツ

風力発電と共にドイツといえば、思い浮かぶのがリサイクルの国ということ。確かに、そのリサイクルに対する考え方は進んでいる。ただ思ったのは、ゴミの仕分け方などは日本の方が厳しいくらいなのではないかということ。私の住む地域では曜日ごとにゴミを種類ごとに仕分けして出さなければならぬし、きちんと出していないと持って行ってもらえないということも多々ある。しかし、仕分けしたそのゴミの行方やどのようにリサイクルされるかは不明なことが多い。ドイツではシステム自体が整っているし、個人のゴミは個人の責任で処理するというのが普通ようです。家庭ごとにゴミ回収コンテナがあり回収業者が2週間に1度程の頻度で回収に訪れる。回収ボックスは大きさによって料金が異なり、家庭のゴミの量が少なくなればボックスの大きさも小さいもので済むので住民が支払う料金も少なくて済む。リサイクルに関するドイツと日本の違いは、その根本にゴミの回収に対して個人で支払うか、税金で支払うかの違いがある。個人の責任となればリサイクルに対する意識も高まる。ビン類に対してはデポジット制（課金制）が導入されているので、積極的にスーパーマーケットなどに設置された返却ボックスに持ち込む。古紙に関しても同様で古紙回収日に出せば無料だが、家庭ゴミならば有料。リサイクルに回せば得をするが、逆にまとめて家庭のゴミとして出せば引取り料がかかる。ドイツではシステムが明確な上に、個人個人の意識がエコに向いているのがよく分った。私が電子辞書の電源を入れっ放しにしていると必ずエコと言って電源をOFFにしたお父さん、ビンの回収BOXへの出し方を教えてくれたお母さん、未来の為に原子力は使わないと言っていたお母さん、この滞在中、色々な形でドイツ



野菜やフルーツはやはり計り売りが基本

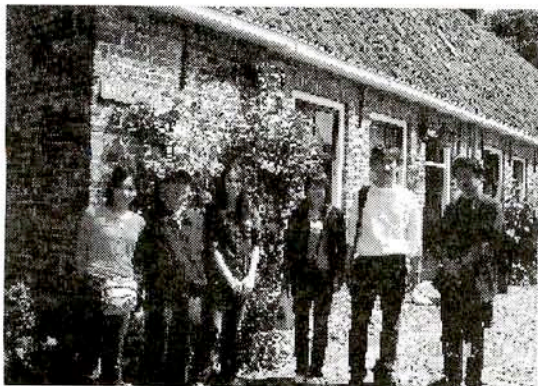


無駄に買わなくて済むから便利。

のエコを感じることは多かったし環境先進国としてやはりドイツは見習うべき所が多いと思う。

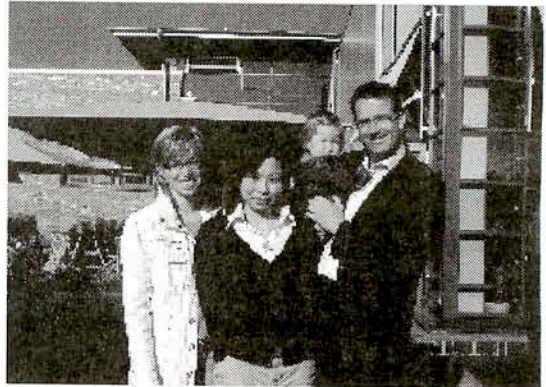
研修を終えて

今回このGSEに参加することができ、笑いあり涙あり様々な体験ができたし、あらためて自分のことや周りの人のことなど色々と考えることができるよい機会になったと思う。この様な機会がなければ、1ヶ月も会社を休んで出かけることもなかっただろうし、ホームステイなんて考えもしなかったと思う。最初は不安だった海外での1ヶ月間のホームステイも家族の方の暖かさを実感し、一期一会ってこういうことなのかなと肌で感じる事が出来ました。毎回毎回別れがたく、どうしてこんなに移動しなければならないのかと思うこともあったけれど、今はこの研修を通して多くの人に出会えた事を本当によかったと思います。出会った全ての人に感謝の気持ちで一杯です。このGSEの研修は普通の旅行では絶対に体験出来ないような経験が出来る興味深いプログラムがたくさんあり、それは多くの方々の暖かな気持ちと努力で成り立っていることをこの1ヶ月間、ひしひしと感じました。多くの方の力を借りながら、ほんの少しだけかもしれませんが自分の幅が広がったように思います。



オランダへ半日旅行

今後は、私がこの研修で得たことを少しずつでも返していけるように得た知識を周りの仲間と共有していけたらと思っています。そして、得た知識をより深め自分の成長につなげて行くことが課題です。



オスナブルクのアンカ・ダイマン&アンドレアス・クラマー夫妻とベーカーリー前にて。(ドイツでは夫婦別姓も普通)

G.S.E ドイツ派遣を 終えて



京都紫竹ロータリークラブ／推薦

津田 浩伸

1. はじめに

2005年の8月頃、「1ヶ月ほどドイツに行ってみないか」という話を当社社長より頂きました。枕が変わると寝つきが悪くなる私が、不安を感じながらも、「ハイ、行きたいです」と即座に答えたのは、今後の自分を成長させる切っ掛けにもなると思ったからです。そしてこの与えられた機会が、これほど有意義なものになるとは、この時思ってもみませんでした。

この報告書では、GSEプログラムを通じてドイツで体験したことに基づき、「訪問した地域全般について」、「ホームステイでの体験」、「職業研修について」の3点につき主に述べたいと思います。



ブレーメン空港に到着し、温かい歓迎を受ける

2. 訪問した地域全般について

今回私達は、北西ドイツ「ニーダーザクセン州」及び「ブレーメン州」の7RCを訪問しました。

ニーダーザクセン州は、北側を北海に、西側をオランダに面しています。地勢はほぼ平坦で、都市郊外には農地、放牧地、原野が広がり、長い直線の道路が整備され、イメージとしては北海道のようでした。郊外は勿論、都市内にも緑が多く、美しい街が

多かったことが印象的です。彼らもそれを誇りにしているようでした。緑の多くない日本の都市とは対照的でしたが、狭いエリアに人口が密集する日本では仕方のないことかもしれません。都市の景観や住環境への意識は、日本人のそれよりも高いと思われ、貴重な観光資源を持つ京都で仕事をする私にとっては、都市開発と景観保全の調和について、改めて考えさせられるものでした。

この地域の気候は、緯度の割には温暖な「西岸海洋性気候」に分類されますが、私達が訪問した時は、運悪く寒く雨が降り続きました。事前に気候をインターネットでチェックし衣類を準備していたのですが、見事に外れてしまい、当初の20日間は非常に辛い日々が続きました。その後は一転して晴天の暑い日が続きました。日本からも含めたこの劇的な気候の変化に体調を崩してしまったのが残念です。この地域は海に近く一年を通して風が強いこともあり、数多くの風力発電機が見られました。風力発電機トップメーカーのENERCON社を訪問した折、発電機のプロペラが日照の妨げにならないよう、一定時間稼働を制御したり、発電機そのもののカラーリングが後の人々に嫌われないよう景観に合うように工夫している、と担当の方から説明を受け、環境や景観に対する意識の高さを感じられました。ドイツの環境に対する意識の高さを表すものとして、缶ビールと瓶ビールの価格の違いが挙げられます。同じ容量であっても、リサイクルがしやすい瓶ビールは、アルミ缶の製造に大きな電力を要し、且つ、瓶よりもリサイクルにコストを要する缶ビールよりも税金が低いため、価格が異なるのだそうです。このため、缶ビールを口にしている人は殆ど見ませんでした。

当該地域の経済・産業としては、訪問した地域が



この地域でよく見られた風景

北海に近いこともあり、港湾関係が産業の中心で、その他食品加工、造船業、エネルギー関連、宇宙科学技術等多彩です。港湾に関しては、北海沿岸にブレーマーハーフェン、ハンブルク、オランダのロッテルダム等の巨大な港湾都市があり、それぞれ激しい競争状態にあります。さらに、軍港として栄えてきたヴィルヘルムスハーフェンでは巨大コンテナポート建設計画が着手段階にあり、北海沿岸エリアの港湾競争はますます激しくなることが予想されます。

各地域のロータリアンの皆さんは「今は経済状況が芳しくない」と口を揃えるように言っていました。出会った方々は、高い失業率と手厚い社会保障、増え続ける公的部門の債務、出生率の低下、労働時間の延長を求める経営者側と更なる短縮を求める労働組合との関係、高い保育料などの子育て問題等を話してくれました。ドイツ国内は日本同様に難しい国内問題を抱えているようでしたが、彼らの考え方が今後の日本に与える影響は大きいと思われます。

EU内はほぼボーダレスで、オランダへは我々でもノーチェックで国境を越えることができました。オランダに近いパーペンブルクに滞在しましたが、この町は巨大旅客船の造船業により発展した町で、水路と煉瓦造りの住宅が美しい田舎町といった印象です。しかし、こんな平和な町で、麻薬（ドラッグ）が問題になっているそうです。何故なら、オランダではマリファナ等のいわゆるソフトドラッグに対して寛容な政策を採っており、比較的簡単に入手出来るため、オランダで流通しているドラッグがドイツ国内にまで流入している、との話でした。EU全体と加盟各国の内政問題については、色々と難しい問題が多いようです。

ドイツと日本の物価の比較について、時々訊ねられました。私はドイツの方が幾らか高いとの印象を受けました。為替レートとの関係もありますし、消費税が原則16%であることも影響しているでしょう。



オランダとの国境

来年には消費税が19%に引き上げられるそうです。帰国前日にブレーメンのマクドナルドでビックマックの価格をチェックしましたが、約3ユーロ（約450円）でした。日本では280円（約2ユーロ）ですから、今のユーロはやや高いとの印象を受けました。

この他、オスターホルツRC滞在中に訪れたWorpswede（ヴォルプスヴェーデ）や、オスナブリュックには多くの芸術家が住んでおり、町の人々は芸術に対する理解があり、芸術にお金も使い、特にオスナブリュックの町では芸術を大切にしているとの印象を受けました。

3. ホームステイでの体験

今回のプログラムで、私達は合計7軒のお宅にホームステイさせていただきました。子供達が独立し今では夫婦二人で生活している家庭、5歳から1歳ぐらいの小さな子供がいる家庭、中高校生ぐらいの子供がいる家庭、牧師さんの家庭と、様々な家庭にお邪魔しましたが、どの家庭もゲストである私に最大限の配慮をして下さいました。温かく受け入れて頂いたホストファミリーの皆様には感謝申し上げます。

ホームステイ先では、その日に体験した事に対する感想や、家族・仕事等のパーソナルな事柄、さらには両国の社会・経済・教育・文化等について話しました。私の英語力が不十分であったため、スムーズな会話と十分な情報交換が出来なかった点は残念ですが、話し相手であるホストファミリーのご協力もあり、良い経験が出来たと思います。この体験を通じて感じたことは、相互理解や国際交流における語学力の重要性と、他国の文化を知り、自国の文化を伝えることの難しさです。今日、本・インターネット等のメディアを通じて他国の情報を入手することは簡単にできます。しかし、そこには伝え手の解釈等が介在しており、本当の事は実際に行ってみて、自分で見聞きし、体験しなければ分からないのでは

ないか、と強く感じました。また、今回の派遣では英語により会話を行いました、日本語を英語に訳し難い場合もあり、簡単ではないと思われました。意外だったのは、日本の皇室について彼らが非常に詳しく、女性天皇にまつわる皇室典範の改正が問題になっている事まで知っていました。聞けば、日本の皇室についてはしばしばニュースになっており、同様にイギリス王室などにも興味があるそうです。



フェアウェルパーティーにてロッジご夫妻と

また、ホームステイ先では、それぞれの家庭の子供との交流が印象的でした。どの家庭の子供もよく躰けられているとの印象を受けました。パーペンブルグでお世話になった牧師のBorghardtさん一家のAmrei、Soren姉弟は、素朴で社交的で優しい子供たちでした。特にAmreiは環境保護を訴える団体に参加し、活動しており、将来の地球環境について真剣に考えている姿に感動を覚えました。

全てのホームステイ先の方が、語学教育や留学の重要性を説かれていたのが印象的です。ブレーメンでお世話になったNoodtさん一家の長男Philipp君に、授業の時間割を見せてもらいました。今年12歳になる彼は、英語を週8コマ（一コマ45分）受けていました。さらに数学の教科書を見せてもらいましたが、この年齢にしては学習内容のレベルが高いとの印象を受けました。聞いてみれば彼は優秀で1学年飛び級したのだそうです。それにしてもレベルが高いと思いました。

ドイツの学校制度は日本のそれとは全く異なります。6歳で小学校に入学し、4年後の10歳には小学校の成績に応じ、次のステップが大きく3つに割り振られるようです。（但し、成績上位であれば、下位の専門職業訓練コースに進むことも可能）つまり10歳でその人の進路を決めなければなりません。Philipp君の場合は大学進学コースとも言うべきGymnasium（ギムナジオン）へ通っていました。

そこでは常に試験の成績が問われているようです。競争を極力させない学校教育を展開する日本とは大きな違いです。またドイツでは、英語を中心とする語学教育の重要性を認識しており、早い段階から英語教育を課し、授業ではreadingのほかにspeakingの訓練も十分行っているようでした。

しかし、ドイツの教育制度にも歪があり、学力レベルはヨーロッパ内でも低いレベルにあり問題だと、教師一家のLübbbersさんが憂いておられたのが印象的です。通訳をして頂いた在独日本人女性の方は、早く進路を決めるために柔軟性が奪われ、将来職を失った後に、次の職を探すのが難しい場合があるとおっしゃっていました。

教育は国家百年の計であるとも言われますが、日本の教育について、もっと様々な議論が草の根でなされてもいいのではないか、とも思われました。

このほか、ドイツ人が議論好き（話し好き）というのはどうも本当のようで、男女問わず話し込んでいる光景をよく見ました。また男女とも非常に歩くのが好きで、さすがゲルマン人だな？と思いました。平気で10kmぐらい歩いたり、ジョギングしたりするようです。



W杯ドイツ初戦勝利に喜ぶボーガードさんファミリー

4. 職業研修について

私は不動産鑑定士として、京都市内で鑑定評価事務所に勤務し、不動産の鑑定評価業務を行っています。今回のGSE派遣では、ドイツの不動産鑑定士Schröderさん宅にホームステイすることができ、また、不動産鑑定士の職場訪問を行うことが出来ました。これは私にとって非常に幸運なことでした。

Schröderさんは、Vocational day（職業研修）の前日に、ある程度の予備知識を教えてくれ、訪問後も私の質問などに夜遅くまで答えて下さいました。また、私を様々な場所に連れて行き、その都度説明をして下さいました。ご婦人も色々とお気を使って下

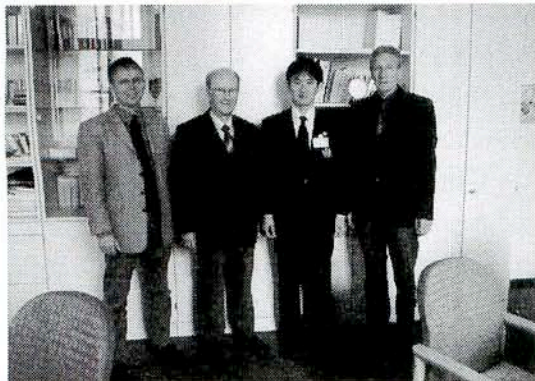
さいました。本当に感謝しております。

ここでは、私の職業に関連のあるドイツの不動産鑑定制度及び北西ドイツ地域の住宅事情について述べたいと思います。

まず、不動産鑑定制度ですが、職業研修ではアウリッヒに在る、日本でいえば特殊法人とも言うべき「GLL」社を訪問しました。そこではTroff氏と、Homes氏の二人の鑑定士に対応して頂きました。Troff氏は評価基準書にあたるような書物の執筆者の一人であり、GLL社の責任者でもある方でした。Homes氏は若手のバリバリの鑑定士というイメージでした。彼らから、ドイツの不動産鑑定評価に関するプレゼンテーションを受けたところ、評価の方法について両国で大きな違いはありませんでした。ただ、土地の価格が高い日本では、土地評価にやや重点が置かれ、逆にドイツでは建物評価に重点が置かれている印象を受けました。

両国で最も異なったのは、実際の不動産取引情報の入手についてです。ドイツでは不動産取引の契約は公証人の前で交わし、公証人を通じて登記されます。鑑定委員会は公証人を通じて取引情報を入手する権限をもっており、全ての売買情報を持っています。反対に、これらの情報を分析し、報告書を作成する義務があります。

これに対し、日本の不動産鑑定士は情報を得るための公的な権限は与えられておらず、専ら任意に提供される情報に依っており、この取引情報の収集に多大な労力と費用を費やしているのが現状です。この点をHomes氏などに説明したところ、ドイツの制度のように当然に売買情報が得られないと、十分な分析が出来ないので、日本では一体どうしているのだ？といった様子でした。不動産の売買情報を口外することを嫌い、情報そのものが貴重な存在になる日本とは全く事情が異なるようです。賃貸借契約については、日本と同様に任意の提供に依っている



GLL社にてドイツ不動産鑑定士の方々と

ようでした。ここでの研修は、非常に興味深い経験となりました。

北西ドイツの住宅事情については、訪問したエリアで且つ実際に見聞した範囲にとどまりますが、概ね以下のようなようです。

石造または煉瓦造が殆どであり、築百年を超える住宅も多く、耐用年数は非常に長いのが特徴で、一度建てれば代々使える財産になるのだ、と言っていました。中古物件を買った場合、建物の維持管理の程度にも依りますが、相当の改築費用を注ぎ込むこともしばしばのようです。

上級クラスの住宅は、広い敷地（500㎡を超えることも多い）に煉瓦又は石造の2階～3階建の住宅が建ち、背後には子供達が遊べる大きな庭があり、住環境は最高です。

普通クラスの住宅は、3階～5階建程度の共同住宅（flat、apartment）等が主流で、共同住宅であっても背後には庭があり、一定の大きさの区画が庭として与えられています。

さらに下のクラスでは、2戸一の狭い長屋住宅（double）等が主流で、庭もさらに狭くなっています。

ステイさせて頂いたお宅はどれも立派な建物に大きな庭を有していましたが、この地域に住む全ての人々の住宅事情が良好なのではなく、環境が良いとは決して言えないものまであり、住宅事情が日本よりも良いか悪いかは、単純には言えないようです。



オスナブルックの高級住宅街ウェストバーク

5. 最後に

一ヶ月間のプログラムを終え、たくさんの人に会い、たくさんの得難い経験させて頂き、今後の私の人生に大きな影響を与えたと実感しております。

訪問先では、お忙しい中、会社あるいは行政機関等のトップクラスの方々に応対して頂き、驚きと同時に大変恐縮でした。

同様にお忙しい中、我々派遣グループの研修が不

自由なく、有意義なものとなるように配慮して頂いた第1850地区GSE委員長、各RCのコーディネーター、ホストファミリーの方々をはじめとする全てのロータリアンの方々には、感謝の気持ちと同時に、彼らの奉仕の精神を強く感じました。

また、この様な素晴らしい機会を与えてくださった第2650地区ロータリアンの方々、様々なサポートをして下さったGSE委員会の方々、推薦して頂いた京都紫竹RCの方々、GSE派遣団の団長をはじめメンバーの皆さん、さらには一ヶ月もの間ドイツに行かせてくれた職場の方々に深く感謝致します。本当にありがとうございました。

G.S.E. 派遣を経て

福井南ロータリークラブ／推薦

東川 景子



私が福井南ロータリークラブの推薦を受け、G.S.Eメンバーとしてドイツに約一ヶ月間ホームステイするという機会に恵まれたことは、本当に千載一遇でした。初めてのドイツ、ヨーロッパ訪問は、期待と不安でいっぱいでした。チームが結成されたのは、2005年9月のことで、それから出発の2006年5月まで、私たちは幾度か会合を行い話し合いました。年齢、職業をも違うメンバーを知るところから始まり、不安を募らせながら関西空港を出発しました。それからの一ヶ月間、見たこと感じたことを報告したいと思います。

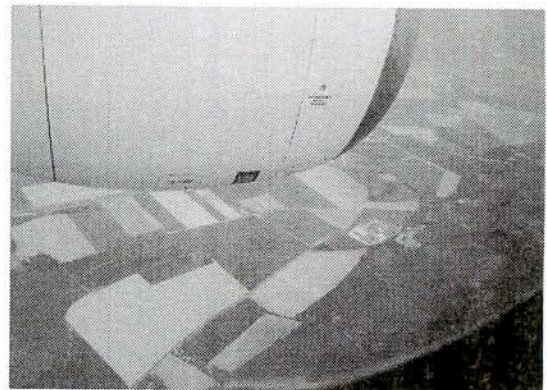


機内からの眺め

後からホストに聞いてみると、ほとんどの区間では制限速度があり、120キロだという。また、ドイツの高速道路は無料である。偶然にも最初に走った区間は、制限速度がない区間だったそうだ。どちらにせよ、日本では200キロもスピードを出さないのが驚きを超えて、私にとって恐怖の体験だった。誤解があるといけないうので付け加えると、住宅街では日本と同様30キロぐらいしかスピードは出さない。

・緑の多さ

飛行機の中でのドイツの第一印象は、緑が多いということである。飛行機の窓からは、街と街との間



機内からの眺め

ドイツ文化

・車のスピード

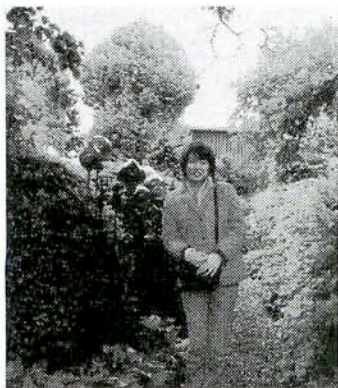
まずドイツのフランクフルト国際空港で乗り換え、ブレーメン空港に着いた。最初のロータリークラブのブレーマファーヘンまでは高速道路を使って移動した。もちろんあの有名な「アウトバーン」だが、スピードがジェットコースターのように速く、怖かった。気になってスピードメーターを覗いてみると、なんと200キロを越えているのである。余計に恐ろしくなって、体が動かなくなりました。



街の風景

を結ぶまっすぐの一本道とその周りにあるたくさんの木が見えた。日本にも山があり木がたくさんあるが、ドイツには街の中にもたくさんの緑がある。一ヶ月、いろいろな高い場所（教会、タワー、ビルなど数知れず）から街並みを見てきたが、どこからみても緑がたくさんあるから驚いた。都市部では、ビルの屋上にも木が植えられていた。一般的に日本は、屋上に空調施設や水タンクがつけられているだろう。

そして、家の庭は日本と比べものにならないくらい広く、きれいな芝生が広がっていた。芝刈りは、日曜の日課だそうです。私がお世話になったホストの玄関先には、必ずといっていいほど手入れされた花や木が植えられていた。ガーデニング専門店も多く、グッズも多彩で観ているだけでも楽しかったです。



ガーデニングショップにて



庭を飾る様々なグッズ

・速い

先程でも書いたが、車のスピードもさることながら歩くのもドイツ人は速い。体格上、日本人よりも大きいからか特にそう感じたかもしれないが、私の小走りの速さで歩く。少しの距離を歩く分にはなんとかついて行こうとするが、これが30分歩くとなるとくたくたになってしまう。そして、食べるのも早い。器用にナイフとフォークを使い、きれいに食べる。ピザもナイフとフォークで食べていたので、

真似て私もその通りにやってみると、ピザ生地がうまく切れないのである。ピザを食べるのにこんなに苦労するとは思ってもみなかった。私の勝手なイメージだが、欧米、西洋人は会話を楽しむ食事スタイルだから、ゆっくりと食事をとるイメージを持っていた。だが、それは誤解だった。実際は、ドリンクの時、食事前後は会話を楽しむが、料理が運ばれてくると食べるのは早いのである。

・洗濯

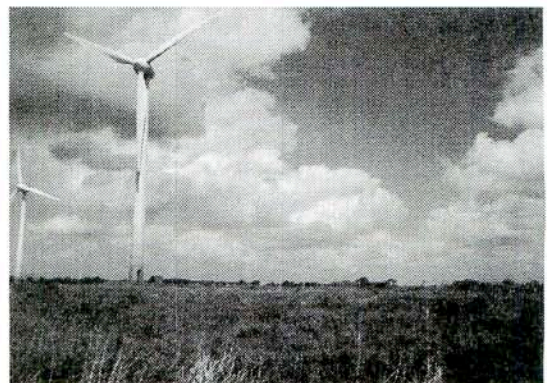
何日かホームステイすると洗濯物がたまってきて、洗濯をしなければならない。そこで、ホストに洗濯機を使わせてほしい旨を伝え、心よく貸してくれ使い方を教えてくれた。説明を聞くとどうやら水の温度を聞いてくるので、私が？とした顔をしていると、ドイツでは洗濯水の温度を決められると言われた。日本では、お風呂の残り水を使わない限り温水で洗濯することはまずない。蛇口からお湯が出てくるシステムなのかな？と思いつつ洗濯をさせてもらった。そして、ドライ乾燥機にかけるのが一般的だ。そういえば、一ヶ月ドイツに滞在して、洗濯物が外に干されているのを見たことがないことに気づいた。天気が不安定なせいかと思ったりもしたが、晴天の日でも洗濯物が外に干されていることはなかった。

職業研修

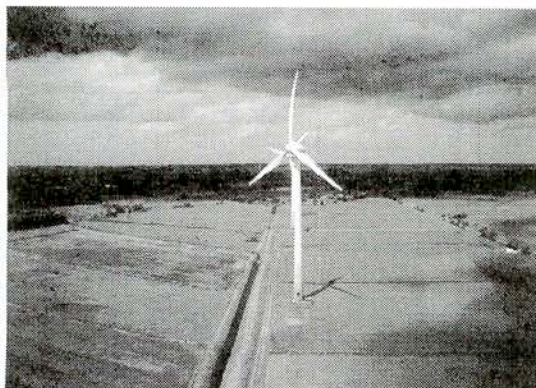
一ヶ月でさまざまな所を訪問したが、印象に残った2つを紹介したいと思います。

・ENERCON (Wittmund - Esens RC)

ENERCONは、風力発電のエアークラフトを造っている会社です。まだ創業20年余りというのに、大きく成長している企業です。



ドイツ国土は平らで風が比較的強いと思いました。その力を電力に換え供給し、自然エネルギーを有効に利用しています。午前、工場内を見学しま



した。あんなに巨大といえるものを意外にも手作業で行っているのには驚きました。工場で働いている人たちは、自分の造っているものに誇りを持って働き、いきいきとしていました。その姿は私にとっても輝いて見えました。午後には、そのエアークラフト内に入り上まで登りました。土台はコンクリートで造られているが、頂上まで階段で上がっていくにつれ揺れはすごいものでした。あいにくの曇り空でしたが、すばらしい眺めで地平線まで見ることができました。この体験は、山の多い日本では経験することができないことだと思いました。

・学校 (Papenburg RC)

まず、ドイツでは学校システムが日本と違う。6歳から日本でいう小学校に4年間行き、朝の8時から昼の13時まで授業がある。午後からは、授業がなく帰宅する。そして、なにより驚いたことは、小学校1年次から英語を勉強することである。母国語の他に、外国語二ヶ国語を学ぶ。英語は必修で、もう一つはイタリア語、フランス語、ラテン語、ロシア語…から選択する仕組みになっている。(日本語はどうも選択枠にないらしい) その後、日本では中学、高校と進むがドイツではその時点で5年・6年・9年間勉強するか決めなければならない。5・6年間勉強する学校は、卒業後仕事に就くコース。9年間コースは、大学へ進学するのが一般的である。日本で大学進学しようとする、入学試験がありそれに合格すると入学できるが、ドイツではその中・高校にあたる9年間の最後に期末試験があり、その結果で大学が決まる。もちろん、その成績が悪ければ選択できる大学(進路)は限られてくる。そのあとは、日本と同じ大学院が2年間ある。大学院へ進んだほとんどの人はあと2年間大学に残り研究を続けるという。そして日本と大きく違う点は、幼稚園は有料で小学校から大学までは無料ということだ。最近では、大学は有料化になる傾向だと言っていた。

この街には、市民学校と大きな職業訓練学校があり施設を見学した。

市民学校は、主に夜間に授業が開講されており昼間は授業が少ない。学生のほとんどは、仕事をしながら学校に通っている人ばかりである。残りは、仕事をリタイヤーした人、他国から移住してきた人である。先生は登録制で約300人いて、受講生がいなければ閉講となる仕組みだ。様々な授業があるが、移民の為のドイツ語講座が人気があり、日本語講座も開講しているそうだ。そして、就職の斡旋も行っていた。この学校の問題点は、街は人口増加にもかかわらず、政府は減税で教育にかかる金額の負担が昔以上にかかるようになってきていると事務の方が嘆いていました。

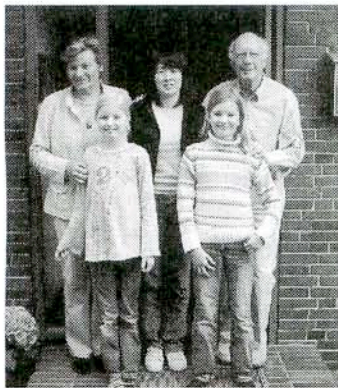
職業訓練学校は、中・高校を卒業してからの18、9歳の若者がたくさんいました。中には、中年層の人もありました。この職業訓練学校は、一日から一年、希望すればもっと長い間勉強することができる全寮制の学校です。この学校では、金融や介護・福祉から芸術まで本当に幅広い分野のことを勉強できる学校でした。また、学校の敷地は広大で、たくさんのワークショップ部屋、教室、コミュニティー広場、学生寮、食堂、温室、お酒を飲むことができるバーや(ドイツでは16歳からビール、ワインを飲むことができ、18歳からブランデーやウイスキーが飲める)湖までもありました。私が見学をした日はぽかぽか陽気で、昼休みに水着に着替え日光浴を楽しんでいる人や湖で泳ぐ人も見うけられました。(海に面しているところが少ないドイツでは、湖で泳ぐことは普通の光景である。)この施設の電気は、すべて敷地内にある太陽ソーラーで賄っていることに驚きました。施設を見学しながら「この(ただの芝生の広場の前で)場所を見て、あなたのインスピレーション、アイディアは?」と何度も聞かれました。このようにここでは個人の意見やファーストインスピレーションをととても大事にし尊重する考えがあることを強く感じました。それと同時に、私は困惑して何も答えることができなく恥ずかしいとさえ思いました。

ホストファミリー

私たちは、7つのロータリークラブ、7つのホストファミリーのお宅にお世話になりました。どの家庭も4日間～5日間と短い期間でしたが、充実した日々を送れたのは私たちに気を遣っていただきおもてなしをしてくれたからに違いありません。

一軒目のホスト、Ippichさんは、仕事で何度か日本に来たことがあり日本料理にとっても興味がありました。特にマザーは、来日したことはないものの日本食を食べてみたかったそうです。常にレストランでの食事で、日本食を作る機会がなかったことはとても残念でした。

二軒目のホストは、老夫妻でした。まず私がホスト宅に着いた時は、息子さんの子供が出迎えてくれました。彼女は大学生で、週末になると祖父母（ホスト）宅へ訪れ、また月曜になると大学があるハンブルグへ帰っていきました。その帰った後に、今度は娘さんの子供が訪れて来ました。老夫婦2人での暮らしですが、孫が来てとてもにぎやかで明るい家だと感じました。娘さんは、お寿司が好きで、大きな町のスーパーでは寿司が売っているらしくよく食べるようです。わさびに似た調味料がドイツにもあり意外にも平気に食していたので驚きました。



Happach 夫妻と孫と一緒に



子供たちと折り紙

三軒目のホストは、共働きで、週に2回お手伝いさんを雇っていました。子供たちに折り紙で鶴やかぶとの作り方を教えました。日本では、折り紙で一番よく知っている折り方は鶴ですが、ドイツでは船でした。しかし、日本ほど折り紙の認知度はなく折り方を教えると喜ばれました。また、緑茶を紹介したところ、渋みが苦手な砂糖を入れるなら飲めると

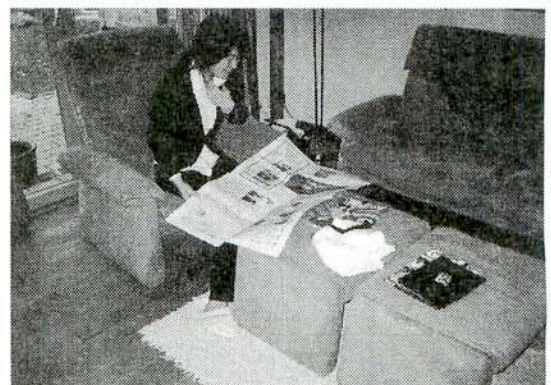
言われました。

四軒目のホストでは、賀川さんと同じホストでした。開業の歯医者をしており、マザーは市議長でした。私たちは協力して、4軒目にしてやっと日本食を紹介できました。炊き込みご飯（レトルト）、うどんとお味噌汁を作りました。ホストは箸を使い挑戦してくれました。うどんを箸でつかむのはどうも難しすぎたようでした。

五軒目のホストは、日本にもGSEプログラムで来たことがある夫婦でした。マザーは日本にとっても興味があり旅行で2度来たことがありました。そして、驚いたことは、日本の新聞を取り寄せてくれたことでした。私たちは、日本の情報が全くといっていい程（テレビでのニュースはドイツ国内、ヨーロッパもしくは世界情勢のことがほとんど）耳に入らなかったもので、本当に感激しました。子供は幼くてまだ英語を話せなかったが、日本語を積極的に覚えようとしてくれ嬉しかったです。そして、国家を歌って欲しいと頼まれ、音痴な私ですが2回披露しました。



子供たちが日本の国旗を持って歓迎



日本の新聞を読む

六軒目のホストは、本屋を経営している家庭でした。マザーの手作りケーキはイチゴがたくさん入っていて甘すぎず、やめられないおいしさでした。作り方を教わっておけばよかったと後悔するほどでした。

最後の七軒目のホストも歯医者の開業医を営んでいました。ホストマザーは、数え切れないぐらい日本に来たことがあり、日本の知識はあり友達もおり日本用の携帯電話も持っていました。こんなに日本のことが好きなドイツ人に会えるなんて私は思ってもみませんでした。ここでも賀川さんと一緒だったので、日本食を紹介することができました。

私がお世話になった1, 2, 6軒目のホストには、障害者がいる家庭でした。しかし、そのいった家庭ほどお互いが助け合い、協力体制で家族内の絆が深かったように思いました。そして、障害者を取り巻く環境が学校やヘルパー、障害者への理解など社会的に築かれていると感じました。

最後に

ドイツでの一ヶ月間は、正直辛かったです。しかし、振り返れば辛かったからこそ今では楽しい思い出となることができたと思っています。それも団長、チームのメンバーの支えがあったからこそだと思います。

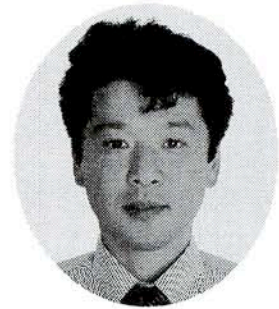
そして、ドイツで日々感じたことは、人の親切です。迷子になった時道を教えてくれた通りすがりの人から、通訳してくれた人、ホストファミリー、私たちのプログラムを考えてくれたコーディネーター、委員長までたくさんの人に親切にいただきました。それと伴に、人との出会い別れがありました。その中で、無償の奉仕を感じ身に余る思いです。

最後になりましたが、GSE委員長をはじめD2650地区のロータリークラブの皆様、私が一ヶ月抜けることで負担をかけるにもかかわらず快く送り出していただいた職場の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

DIARY IN GARMANY

福井北ロータリークラブ／推薦

森井 裕



今回のドイツ訪問でのすばらしい体験を日記形式でホストファミリーとの交流や職業研修、私の感じた事などを順にご報告させていただきます。

5月14日（日曜日）

いよいよ明日ドイツ1850地区へ出発する。最初ほんの軽い気持ちでGSE参加に申し込んでしまった自分が恨めしいと同時にこれから起こる未知の世界への旅立ちにワクワクしている。京都センチュリーホテルにて歓送会を開いて頂きさらに緊張感が高まる。

5月15日（月曜日）

ドイツへ到着！12時間のフライトは長かった。フランクフルトで乗り換えブレーメンに到着する。空港ではブレーマーハーフェンの方達が出迎えて下さった。勉強した最初の実践「挨拶」をする。昨日明石さんに教えて頂いた握手の方法「相手の目を見てしっかりと握手する」なるほど相手の方はしっかりとこちらの眼を見て力強く握手をしてくる。不思議に気持ちが良い。日本人もこの習慣を見習うと良いのに。

空港での歓迎が終わるとすぐ最初のカルチャーショックを受ける事になる。アウトバーンだ。いきなり230km/hオーバーのスピードで疾走する。こちらは失神しそうである。自動車会社に勤務している自分はアウトバーンが制限速度無制限なのはもちろん知っていたし、欧州車が高速安定性にすぐれている事や日本ではあまり交換する事のない部品（ブレーキディスクローター）をブレーキパット交換時に同時に交換する事など知識としては知っていたが、さほど重要とは思っていなかった。しかし聞くのと体験するのとではまったく次元が違う。ハイスピード

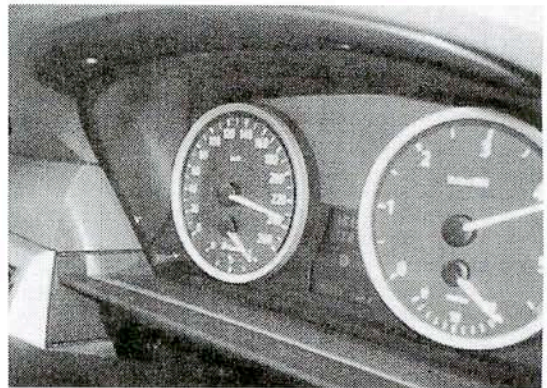


写真1

からの強力なブレーキ性能、走行性の良い固めのサスペンション、少し固めのシートは長距離走行での疲労低減、それらは本当に重要で、必要不可欠な事だったのだ。（写真1は余裕のできた3回目位のアウトバーン走行で撮った写真です。MAX260km/h）

5月16日（火曜日）

グーテンモルゲン！ドイツでの最初の朝ウォルフガングさんの料理した目玉焼きとハムとパンとチーズ、そしてキャロットジュースにコーヒー、ゆで卵は専用の台に載せスプーンで食べる。映画で見た貴族のようだ。

5月17日（水曜日）

今日は最初のボケーショナルデイ。ここは港町であるので自動車の輸出入に関連する施設へ案内して頂いた。広大な敷地にBMWやベンツがぎっしり敷き詰められていたのは圧巻だったが意外だったのは外車が多かったことである。日本ではほとんどが国産車だがここドイツでは国産車（ドイツ車）は約50%のシェアでしかない。「以前はドイツ車ばかりだったが今ではこれくらいだよ」とちょっと残念そ



写真2

うに話していた。日本もそうなる時が来るのであろうか。現状に満足して停滞することのないように常に努力していかなくては。ちなみにドイツでもベンツやBMWは高級車だそうだ。(写真2)

5月20日(土曜日)

ドイツに来てまだ間もないというのに地区大会に出席することになる。ここでドイツのGSEメンバーと交流することが出来た。北ドイツの方言などを教えてもらい大会での挨拶に使うといいよと進められる。結果はベリーグッド。後に地区大会に出席していたロータリアンの方に会うと moin moin! (まいど! みたいな感じだろうか?) とて挨拶してくれる。些細な事だがとてもうれしい。夕方ヴィッテモンドへ移動する。小さな町だがとても美しく活気のある町だ。

5月21日(日曜日)

ランゲオーグ島へ行く。ここは観光地で町並みがとても美しく自動車が走っていない。町には消防車

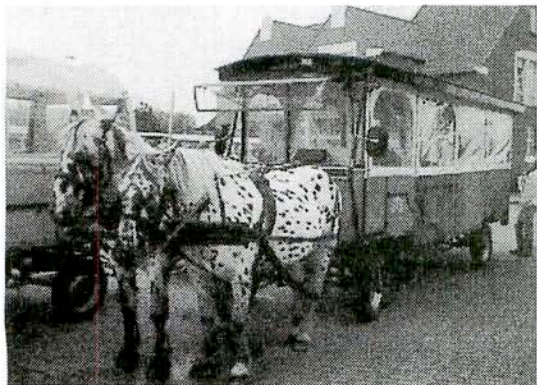


写真3

と救急車以外は電気自動車しかない。後は馬車と自転車、徹底したエコの島だ。(写真3) この島のキャンプ施設を見学させて頂いたがそこで働く人はみなボランティアだと聞かされ驚いた。しかもとても楽

しそうに働いている。環境問題にしてもボランティアにしても義務としてやっているのではなく喜びとしてやっているようだ。日本人とは根本的に考え方が違うようである。彼らは結構日本語を知っていて、「こんにちは」とか「さよなら」と挨拶された。帰り際「さよなら」と合掌されたので「アウフビーダーゼーエン」と手を振ったらみんな一斉に「さよなら!」と叫んでくれた。なんともいえぬ心地よさだ。通訳に来ていたゾンカさんが「いい友達が出来てよかったですね」と言ってくれた。汚れていた自分の心が洗われていく様だ。しかし自転車は疲れた。

5月22日(月曜日)

今日は記念すべき日になった。実は今までホストファミリーの方とあまり親しくなれないでいたのだが、今日やっと仲良くなれることができた。私は英語がうまく話せないことで引っ込み思案になりコミュニケーションをあまり取らずにいたのだ。しかし



写真4

そんな事ではドイツにきた意味がない。家に帰り着替えを済ませると意を決して家族団らんの中に飛び込んでみた。間違った英語でもいいとにかく思いをぶつけてみる。そのうち長男のオーレが切手を見せてあげると持ってきてくれる。絵をみながら「これは象だね ぞう!」オーレ、弟のラスが「エレファント! ゾー!」(ドイツ語でもエレファントなのか)とこたえてくれる。場は即席日独語教室に変わり私には北ドイツ語(?)を教えてくれた。子供たちがペットを見せてあげると言うのでついて行く。子供たちはドイツ語しか話せないのドイツ語でまくしたてるのだが子供の世界に難しい言葉は必要ない。ただ一緒に遊ぶだけで友達になれる。子供達が yutaka! yutaka! と呼んでくれたときはとてもうれしかった。ご主人のウーベさんにドイツの食べ物はどうかと聞かれ「まだソーセージを食べてない」と言ったら出してくれ、ディナーの前だというのに

ビールを飲んでお腹一杯になってしまった。けれどもおかげで例会はとても楽しむことができた。家に帰ると「部屋に戻る？」ではなく「もっとビールを飲むかい？」と聞いてくれた。答えはもちろんja! ウーベさんのアメリカでカウボーイを体験した旅行や、奥さんのモニカさんがハーレーでアメリカ横断した写真を見せてもらい、夜遅くまで語り合う(?)事ができた。ウーベさんがコンペ!(ダチ)と呼んでくれた。とてもうれしい。(写真4)

5月25日(金曜日)

今日からヴィルフェルムスハーフェン。リストイング一家にお世話になる。この家にはリビングにTVがない。お母さんのクリスタさんが家族との時間を大切にしたいからだそうだ。そういえばドイツへ来てTVを見ている姿をあまり見かけない。皆家族との時間を大切にしているようだ。

ご主人のウリさんはBMWに乗っているがエンジンはディーゼルである。ドイツでは地球温暖化に効果の高いディーゼルエンジンが普及してきている。日本では逆にディーセルを締め出す方向にあるがこれは考え方の違いで一概にどうとは言えないが、ドイツの素晴らしいところは車の性能を上げるだけでなく、軽油自体の精製を良くし排出ガス対策を行っていることやバイオディーゼル(植物油)がすでに普及していることである。さすがは環境先進国いろいろな方向から環境問題に取り組んでいる。(菜の花畑は見た目もきれいです)

5月28日(日曜日)

ネイビーミュージアムへ行き戦艦や潜水艦などを見学する。潜水艦の中に初めて入ったが想像していた以上に狭く苛酷な環境だった。ドイツには徴兵制度がありボランティアとどちらか選択しなくてはならない。この制度(経験)についてどう思うか幾人かに尋ねてみたがみんな一様に渋い顔をしながら良い経験だったと答えた。なにか思うところありそうだが、残念ながら私の英語力では詳しく聞くことはできなかった。

5月30日(火曜日)

ベルリン旅行。アウトバーンを5時間かけて移動する。ベルリンの街は思っていたのとは違い東京のような高層ビルが建ち並ぶ大都会ではなかった。しかもあちこちに落書きが目立ち正直なところ美しい町並みとは言い難い。(写真5:地下鉄の駅)地下鉄

の駅などでこの落書きを見ると治安が悪く危険な感じを受けるが、ドイツに住む日本人に聞いたところ



写真5

治安はとても良く夜女性が一人歩きしても危険はないとの事。治安が良いというのはとても素晴らしい事で世界遺産よりも価値があると私は思う。というものの博物館島やベルリン大聖堂、ブランデンブルグ門などはすばらしかった。

6月2日(金曜日)

オスターホルツ地区でのホスト、キャンプ夫妻とはベルリン旅行があったため短い期間でのお別れとなってしまう。ベルリンでお世話になったミハエル夫妻とも短い期間でのお別れになる。(今回の旅行では7家族にお世話になりました)ホームステイの期間が短いとそれだけたくさんの人と知り合えることになるのでそれは素晴らしいことだが、1つの家族とももう少し長く一緒に過ごしたいというのが正直な感想だ。

6月4日(日曜日)

オスナブルク。敬虔なクリスチャンは日曜日は教会へ行きます。私はもちろん初めてで行き先は800年の歴史を持つ聖マリーン教会。歴史ある大聖堂の中で聴くパイプオルガンの音色は何か神々しいものを感じる。だがやはり私は日本人。1時間もすると眠くなってしまった。(神様ごめんなさい)こちらは敬虔なクリスチャンが多いと聞いていたがホストのフランクさんはクリスマスなどのイベントのある日しか来ないと言っていたし、食事の前のお祈りはどこのホストファミリーでもやらなかった。我が家でも祖母は毎日お仏壇におまいりしていたが私達の世代でそうしている人は少ないであろう。どこの国も同じという事だろうか。

6月5日（火曜日）

生まれて初めて馬に乗った。軽く歩くだけかと思っていたが、走らせてくれて人生初の落馬も体験した。歩くのはいいが走るとバランスをとるのが難しくかなり怖い。ここ北ドイツは牛や馬が多く乗馬を趣味にする人が多い。（写真6）

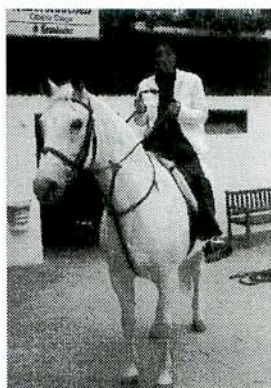


写真6

6月9日（金曜日）

パーペンブルグ。マイヤー造船所の見学に行った。とにかくでかい！この大きさは感動的である。この造船所は町の大事な産業であるが、海から離れたこの場所でこの大きな船を運ぶためには川を掘らなくてはならない。しかし川を掘ると環境破壊につながる。この問題を関係者だけが考えるのではなく町全体でこの問題に取り組んでいる。

6月10日（土曜日）

今日はオランダへ行った。と言っても車で40分ぐらいのところ。国境には看板と開きっぱなしのゲートがあるだけで無人。税関などはない。オランダでは五角形の要塞を見学した。ドイツへ来て歴史的建物をいくつも見学させて頂いたが、必ず出てくる単語がwarであった。人間の歴史とは戦争の歴史なのだとあらためて感じさせられる。私達がここで交流を深めることで悲劇が繰り返されないよう出来ればと思う。話は変わり自転車が趣味のピーターさんはここまで自転車でやってきた。すごいなあと感じていたが夜のパーティーに自分も自転車で行く事になるとは…。

パーペンブルグの人達にはたくさんの日本語を覚えていただいた。パソコンの日本語変換にもかなり興味をそそられたようでパソコン担当の私はいつになく人気者だった。（パソコンが？）ドイツのキーボードもアルファベットの配列が微妙に違っていたり見慣れない文字があったりで興味深かった。

6月11日（日曜日）

ホストファミリーとの別れは何回経験しても切ない。しかし観光旅行では絶対得ることのできないこのすばらしい思い出は一生の宝になるだろう。（写真7）



写真7

6月12日（月曜日）

プログラム最後の土地プレーメン。街は大勢の観光客でにぎわっている。メンバーの中で唯一街中にステイしている私はホストのヘイコさんにくまなく街を案内して頂きちょっと得した気分になる。パンフレットなどでよく見かけるプレーメンの音楽隊の像を見つけたときは、うれしい反面ドイツ旅行の終

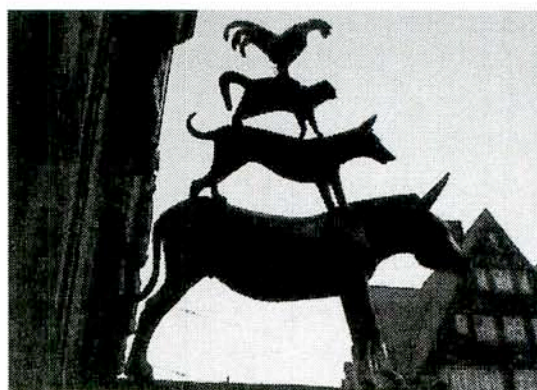


写真8

わりを告げられているかのようにちょっとセンチメンタルになる。（写真8）ここでは多少の自由時間があつたので1人でカフェバーに行きドイツ旅行を振り返ってみた。この旅行中で、私の中にドイツ人の人柄を象徴するエピソードがあつた。私はあるロータリアンの方に市庁舎でトイレのドアを閉めるのを忘れ注意されてしまった。その方はまさにドイツ人といわんばかりの厳格なイメージの方であつたが、ティータイムのときに作法についてメンバーの一人に問いかけていた。「私は昨日なんて教えた？」厳しい口調であつたので緊張してみていると、恐る恐るスプーンを正しい位置に動かしたメンバーをみて「Good!」となんともいえない優しい顔で微笑んでいた。厳格でありながらとてもあたたかい。そんな人達。心温まるシーンだった。

6月14日（木曜日）

今日でドイツの旅も終わり。長いようで短かった1ヶ月間、楽しい事も辛い事もちょっぴり悲しい事もすべてすばらしい思い出だ。アウフビーダーゼーエンドイツェ！ダンケシェーン！

最後に

今回の旅行で強く感じた事はやはり言葉はとても重要であるという事。ホストファミリーやロータリアンの方々にご迷惑をおかけしたのは言うまでもないが、それ以上に伝えたい思いを伝えられないことの悔しさ、ボデーランゲージも電子辞書も心の中からあふれてくる思いを伝えるのにはまったく不十分でした。この悔しさをばねにし言葉を完璧にした後またドイツを訪れたいと思います。

最後になりましたが、私のような者を派遣して頂きました2650地区の皆様、GSE派遣団の皆様、受け入れて下さいましたドイツ1850地区の皆様、暑い日の寒い日のお人柄に甘えてさんざんわがまを言って困らせた私達を最後まで引率して下さった田中団長に心よりお礼申し上げます。

2004⇒2005

研究グループ交換

GROUP STUDY EXCHANGE REPORT

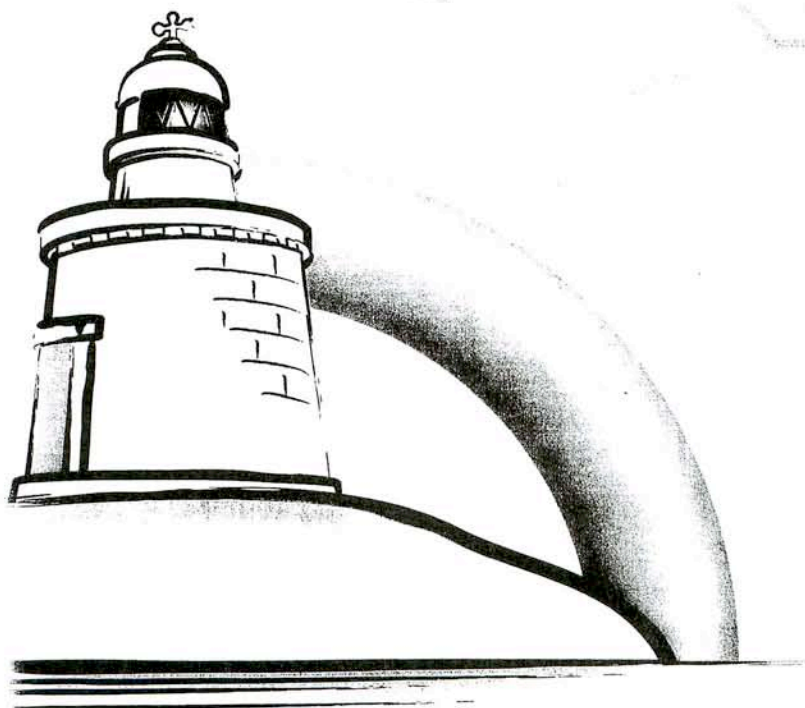
受入報告書

●2004～2005 ⁴THEMA

2004～2005 年度国際ロータリー・テーマ

ロータリーを祝おう

100年の歩み



ロータリーを
祝おう

100年の歩み

ROTARY INTERNATIONAL
DISTRICT 2650 2004～2005

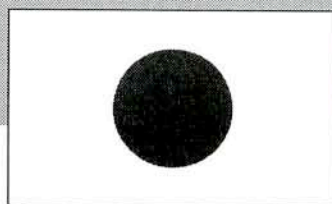
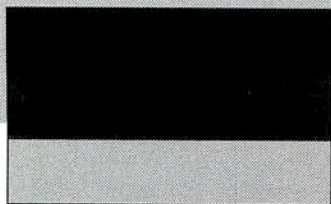
R.I.D.2650⇔R.I.D.1850

受入 2004年10月25日～2004年11月25日

研究グループ交換／G.S.E.

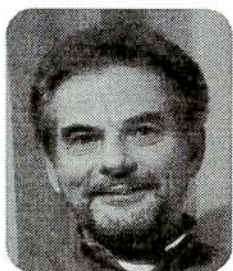
受入報告書

R.I.D.1850 → R.I.D.2650



メンバーの横顔

Team profile and report



Peter Möller (Team-Leader)
ピーター・ミューラー

Peter Möller, 64 years, Superintendent Detective (retired): Born in Gotha (East Germany), I fled from Russian troops to West Germany at the end of World War II. I spent my childhood in and nearby Bremen. I started my police-career 1961 in Bremen and I retired as chief of the criminal police of Bremen. Between 1976 and 1989 I was also Professor for law and police science at the University of Bremen. I participated in a project with Professor Hisao Kato at the University of Tokio. I have been married for 40 years and we have two daughters. Since 1988 I have been a member of the RC Syke and 1993/1994 Club's President, Paul Harris Fellow, 2002-2005 Agent for Rotarian dyslexia programme. My hobbies are sports (tennis, skiing, and sailing) and reading especially books on foreign cultures and historical publications.

ピーター・ミューラーは64歳で、警察署長(退職しました)でした。東ドイツのGothaに生まれ、私は第二次世界大戦後、ロシア人群から西ドイツへ流れてきました。私は、ブレーメンの近くで幼少期を過ごしました。私はブレーメンで1961年に警察の仕事を始めました。そして、私はブレーメンの犯罪警察の長官(部長刑事)として引退しました。1976年から1989年の間に、ブレーメンの大学で法律と警察科学の教授をしていました。私は、東京大学でHisao Kato教授とプロジェクトに参加していました。私は、結婚して40年になり、2人の娘がいます。1988年からロータリーのメンバーになり、1993-1994年のクラブ会長であり、ポール・ハリス・フェローになりました。2002-2005年ロータリーの失語症プログラムの委員です。私の趣味はスポーツ(テニス・スキー・セーリング)そして読書です。特に外国の文化や歴史的な出版物を読みます。



Antje Bresnick (Team-Member)

アンチェ・プレスニック

Antje Bresnick, 27 years, Tax accountant: I spent my childhood in a small village near Cottbus in East Germany. At the age of 16, after I finished school, I moved to Bunde (near Bielefeld). Here I completed a three-year training in a tax office. After working there for three years, I started taking evening classes next to my job for one and a half years. These courses aimed at furthering my professional education in order to become a qualified accountant. In my spare time I like doing yoga, reading and painting. I am very excited about the trip to Japan, because I will get to know the people and their way of life.

アンチェ・プレスニックは、27歳で税会計士です。私は、東ドイツのCottbus近くの小さな村で幼少期を過ごしました。16歳で学校を卒業し、Bielefeldの近くに引越しました。ここの税事務所で3年間トレーニングを受けました。3年間そこで働いた後に、私は、1年半働きながら夜間の授業を取り始めました。これらのコースは、さらに資格のある会計士になるための専門的な教育でした。休日は、ヨガ・読書・絵を描いたりするのが好きです。私は日本へ旅に出ることをとても楽しみにしています。なぜなら、日本の人々・生活様式を知ることになるからです。



Heike Hansjürgens (Team-Member)

ハイケ・ハンスユルゲンス

Heike Hansjürgens, 29 years, Civil Engineer: I grew up on a farm in the countryside in the north of district 1850. After I finished high school, I moved near Hanover in order to study civil engineering at the University of Applied Sciences in Suderburg. During my studies I underwent some practical training and jobs with different building contractors. After completing my studies, I worked for the Department of the Environment in Frankfurt / Oder next to the Polish border. Today, I am a civil engineer in a planning office in the Rotary District 1850. My main task is road construction and water engineering. In my

ハイケ・ハンスユルゲンスは、29歳で土木技師です。私は、第1850地区の北の田舎の農場で育ちました。高校を卒業した後、Suderburgで応用科学の大学で土木技師の勉強をするために、Hanoverに移りました。勉強している間に、私は、異なるコンサルタント事務所でいくつかの実践的な訓練と仕事を経験しました。勉強を終了した後、Oder川沿いのFrankfurtで環境部門で働きました。今日、私はロータリー第1850地区でプランニングオフィスで土木技師をしています。私の主な仕事は、道路建設および水エンジニアリングです。暇なときは、私のスカウティンググループと時間を一緒に過ごしています。

spare time I enjoy spending time with my scouting group.



Gerd Hachmöller (Team-Member)
ゲアト・ハッフミュラー

Gerd Hachmöller, 32 years, Business Officer: I studied economic geography, economics and regional planning at the universities of Marburg and Hanover, and at the London School of Economics. After a six-month stage at the European Commission in Brussels, I wrote my diploma thesis on regional impacts of the single European currency. For about two years I worked in regional science, conducting a research project on divergent regional development of northern German counties, before I changed to the Deutsche Management Akademie in Celle. Since 2002 I am working as the business development officer of the county Rotenburg (Wumme). Most of my spare time is dedicated to my wife and our newborn child, and to my hobbies: singing, basketball, and canoeing in Sweden.

ゲアト・ハッフミュラーは32歳で、ビジネス・オフィサーです。私は、MarburgとHanoverの大学、およびロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで、経済地理学、経済学および地域計画を勉強しました。ブリュッセルの欧州委員会での6か月のステージの後、私は、ヨーロッパ単一通貨の地方にもたらす影響という卒業論文を書きました。約2年間、私がCelleでDeutsche Management Akademieに変わる前に、北ドイツ州で異なる地方の発展に関した調査プロジェクトを指揮しました。2002年から私は、Rotenburg州(Wumme)の事業開発オフィサーとして働いています。暇な時のほとんどを、妻と生まれたての子供に捧げています。私の趣味は：歌うこと、バスケットボール、スウェーデンでカヌーをすることです。



Ansgar Scherp (Team-Member)
アンズガー・シェルフ

Ansgar Scherp, 30 years, Research Assistant in Computer Science: I finished the study of computer science in 2001 with the diploma thesis "process model and development methodology for virtual laboratories". Afterwards I worked for two years at the University of Oldenburg developing methods

アンズガー・シェルフは30歳で、コンピューターサイエンスにおけるリサーチアシスタントです。私は、2001年に「仮想研究室のためのプロセス・モデルや発展の方法論」という卒業論文を書いて、コンピューターサイエンスの勉強を終了しました。その後2年間、Oldenburg大学で仮想研究室のための方法や手段を発展させる仕事をしました。遺伝学

and tools for virtual laboratories. With our laboratory for genetics engineering we won the audience award of the MEDIDA-PRIX contest for media-didactics in higher education in 2002. Since 2003 I am working as a research assistant at the research institute OFFIS on a project called MM4U (Multimedia for you). The aim of this project is to develop a software framework for the dynamic generation of personalized multimedia content.

Within this project I am also writing my PhD thesis. In my spare time I like meeting and visiting friends, listen to good music, and rowing on the nearby-located river.

Introduction

Our GSE-team has been configured at an assessment centre in Ganderkesee in September 2003. The GSE to Japan was about to start in October 2004, so that our team had about twelve month to prepare for the trip. We used the time for collecting information on our host country, producing flyers, business cards, and coasters (as giveaways), as well as buying the proper outfit, including ties in German colors as our "corporate identity". We also had an appointment with a Japanese / German couple that invited us to a Sashimi-Dinner.

After this intensive preparation in our group, we wondered whether we were already "over-prepared", anticipating too many impressions Japan would offer us. However, these concerns proved unnecessary. We were absolutely overwhelmed by the millions of new impressions we saw on our journey. The preparation work was just a sneak view through the keyhole, while the door opened no sooner than October 25th, 2004:

After a warm welcome at Kansai Airport by a

工学のための研究所で、2002年の高等教育におけるメディア教育法のための「MEDIDA-PRIXコンテスト」にて「聴衆賞」を受賞しました。2003年以来、私は、MM4U（マルチメディアをあなたに）と呼ばれるプロジェクトを抱えた研究所OFFISで研究助手として働いています。このプロジェクトの目的は、個人向けのマルチメディア・コンテンツを動的に生成するためのソフトウェアの枠組みを開発することです。このプロジェクトの中で、私はさらに博士号の論文も書いています。暇な時は、友達と会ったり尋ねたり、よい音楽を聞いたり、また近くの川でボートを漕いでいます。

はじめに

私たちのGSEチームは、2003年9月にGanderkeseeにあるアセスメントセンターで誕生しました。日本へのGSEを2004年10月にスタートするために、私たちのチームは、約12か月間かけて旅行の準備をしました。私たちは、ホスト国の情報・飛行計画・名刺そしてちょっとしたしるしとしてのコースターを揃えるのに時間を割き、同様にチームのアイデンティティを表すドイツカラーのネクタイを含め、適切な旅行用品を買い揃えました。さらに私たちは、刺身ディナーに招待してくれた日本人とドイツ人の夫婦との予約もとっていました。グループにおけるこの集中的な準備の後に、私たちは、日本が私たちに提供するであろうあまりにも多くの印象を予想して、既に準備しすぎではないかと思うくらい準備しました。しかしながら、これらのことは、杞憂であると分かりました。私たちは、旅行で見た何百万もの新しい印象に絶対的に圧倒されました。準備仕事はちょうど鍵穴を通して見る試写会のようなのですが、ドアは2004年10月25日になるとすぐに開きました。

奈良東R.C.の代表団による関西空港でのあたた

delegation of R.C. Nara East, we enjoyed a week in the "old emperor's town" Nara, filled with cultural and religious highlights (most impressive: the Todaiji-temple), as well as several delighting social events. In our second host town, Maizuru, we could explore life in a seaport town, marked by shipyards, military and fishery, and located in a breath-taking landscape. Kyoto overwhelmed us with history and tradition. The emperor's palace and various temples, shrines, and other sights were spectacular. The most stirring experience we had in Hiroshima, where our visit in the Peace Museum left a big impression on us. Fukui, located in the far north of Rotary District 2650, was particularly memorable due to the family-like atmosphere with which our host Rotarians shepherded us. The schedule here was well balanced between high tech, e.g., visit to a nuclear power plant and the chip-manufacturer NEC, and tradition, as for example a Wasi-paper manufacture, a pottery, and temples. The most pleasurable time during our journey we enjoyed at the Ryokan-Hotel near Fukui. Welcomed by several women in Kimono, we were guided to our traditional Tatami-suites, changed our clothes in Jukatas, and enjoyed a wonderful hot spring bath, before we were invited to a huge traditional banquet. Thanks to our final host Club in Otsu, we had the opportunity to eat in the original Bavarian Gasthaus "Wurzburg", which amazed us with Sauerkraut and German beer. Further highlights in Otsu were the Aquarium, the University and the city administration.

A big Thank You! to our hosts, who comforted and escorted us in the best possible way. The Rotary clubs we stayed at, organized outstanding programs for us, packed with well-organized and diversified cultural and vocational (and social) highlights.

The Rotary meetings in our host clubs were always very special occasions to us: We were surprised by the scope of these meetings and the wonderful buffets we were offered. Our team had prepared short presentations about different aspects of Germany, like history,

かい歓迎の後に、私たちは、いくつかの楽しい社会的イベントと同様に、文化的宗教的ハイライト(最も印象的: 東大寺寺院)で満たされた古都奈良の一週間を楽しみました。私たちの2番めのホストタウンである舞鶴では、私たちは、造船所・海上自衛隊・漁業そしてはっと思わせるような景色のある港町の生活を調査することができました。京都は歴史と伝統で私たちを圧倒しました。京都御所および様々な寺院、神社および他の光景は壮観でした。広島では私たちは最も感動的な経験をしました。そこで私たちに強い衝撃を与えた平和記念館を訪問しました。第2650地区の最北にある福井での滞在は、ホスト・ロータリークラブ会員が私たちの面倒をよく見てくれるという家庭的な雰囲気により特に忘れがたいものでした。このスケジュールは、原子力発電所・チップ製造のNECへの訪問というハイテク産業と、例えば和紙製造、陶磁器および寺院のような伝統とが非常にバランスよく配置されていました。旅行期間の最も楽しい時間を、福井の近くの旅館ホテルで楽しみました。着物を着た数人の女性によって歓迎されて、私たちは伝統的な畳部屋へ案内され、浴衣に着替え、私たちが大宴会場に招待される前に、素晴らしい温泉風呂を楽しみました。最後の大津唐橋RCのホストのおかげで、私たちは、ザウアークラウト(キャベツ)およびドイツビールで私たちを驚かした「Wurzburg」というオリジナルのバイエルン居酒屋で食べる機会を持ちました。大津のさらなるハイライトは水族館・大学および都市行政でした。

可能な限りの方法で私たちを楽しませエスコートしてくださったホストの方々にとっても感謝しています。私たちが滞在したロータリークラブは、よくまとまり多様化した文化的・職業的(かつ社会的)ハイライトが詰められた、私たちのための顕著なプログラムを組織しました。

私たちのホスト・クラブのロータリー例会は、いつも私たちにとってとても特別な機会でした: 私たちは、これらの会合および提供された素晴らしいビュッフェの機会に驚きました。私たちのチームは、歴史、経済学、芸術およびライフスタイル(例会場の人々はそれから選ぶことができた)といった、ド

economics, arts, and lifestyle, which our audience could choose from. After each presentation, a short discussion followed on the presentation's topic as well as any other aspects of German life, and its differences with Japanese lifestyle. Quite often, we were asked about the relationship of married couples in Germany and whether it was true that German husbands say, "I love you" to their wives on a regular basis. It appeared to us, that this is obviously not common in Japan. Each meeting started with the German and the Japanese national anthems, followed by the Japanese "Rotary song" (which German Rotarians might not even know). Our team performed German folk songs; however, mostly these performances took place at welcome parties and not at the official R.C. meetings.

We discovered that the Japanese really like singing. Next to national anthems and Rotary songs, we learned Karaoke and exercised it at least once a week. After being encouraged by our Rotarian hosts who performed various Japanese songs, we sang titles like "Born to be wild", "Ode to Joy" (Beethoven), or "country roads", which always was a good laugh.

The various vocational studies were generally well balanced and very interesting. Several visits in offices, construction sites, universities, and administrations gave us a deeper understanding of the Japanese working life.

Apart from hundreds of other new impressions, the Japanese food needs special emphasis in this report. We were stunned by the wonderful (though sometimes strange) dishes we enjoyed at various occasions, be it in the Rotary Clubs, at restaurants, or in the host families. It appeared to us, that Japanese food is indeed very different from European. Whenever we tried something new, we would look at each other and wondered whether the food is "oishi" (=tasty) or "healthy". We decided that "oishi" applied for most kinds of sushi, sukiyaki, yakisoba, tempura, and some sashimi. However, tofu, fried eel-bones, and

イツの異なる様相に関する短いプレゼンテーションを準備しました。各プレゼンテーションの後に、短い議論は、ドイツの生活の他の様相および日本のライフスタイルとの違いといったようにプレゼンテーションの話題に続きました。とてもよく、私たちはドイツでの既婚のカップルの関係について、そしてドイツ人の夫が「私はあなたを愛します」と彼らの妻に定期的に言うことが真実かどうか尋ねられました。これは、日本において明らかに一般的ではないと私たちには見えました。どの例会も、ドイツ国歌および日本の国歌で始まり日本の「ロータリーソング」(ドイツのロータリーアンでさえ知らないかもしれない。)が後に続きました。私たちのチームはドイツのフォークソングを披露しました：しかしながら、ほとんどこれらの公演は、歓迎パーティーでそして非公式のR.C.の会合で起こりました。

私たちは、日本人が本当に歌うことが好きであることを発見しました。国歌およびロータリーソングの次に、私たちはカラオケを学習し、少なくとも週に一度それを練習しました。様々な日本の歌を歌ったロータリアンのホストに激励された後に、私たちは、「野生のポルン」「歓びの歌」(ベートーヴェン)あるいは「田舎道」(いつも笑いを伴った)のような歌を歌いました。

様々な職業研修は一般的によくバランスが保たれ、非常に興味深いものでした。私たちは、オフィス・建設現場・大学および官庁といったいくつかの訪問により、日本の働く生活をより深く理解しました。

何百もの他の新しい印象とは別に、日本の食物については、この報告書で特別に強調したいと思います。私たちは、ロータリークラブで、レストランで、あるいはホスト・ファミリーで様々な場合で楽しんだ素晴らしい(時々奇妙ですが)料理に茫然としました。日本の食物は、ヨーロッパとは本当に非常に異なるということが、私たちにわかりました。新しいものを試みた場合は常に、私たちはお互いを見、食品が「おいしい」(味がよい)かあるいは「ヘルシー」かどうかと思いました。私たちは、ほとんどの種類の寿司・すき焼き・焼きそば・てんぷらおよびいくつかの刺身についてはおいしいと思いました。しかしながら、特に健康であるとして私たちに出された豆腐・油で揚げたウナギの骨や生のシーフードなど

certain kinds of raw seafood were described to us as being particularly healthy, but most of us wouldn't put it on the list of our favorite dishes (…that is, of course, except our team leader Peter who dared to eat anything the Japanese cuisine offered).

The following trip diary reports all events, rotary meetings, and vocational studies, while the subsequent personal reviews give account for our individual impressions and life in the host families.

Finally, we want to say thank you to our hosts, who comforted and escorted us during our stay in the best possible way. The Rotary clubs and the host families we stayed at, organized outstanding programs for us, packed with well-organized and diversified cultural and vocational (and social) highlights. Furthermore, we would like to give a special thanks to all our interpreters who were very supportive during our journey.

Trip diary

25.10.2004 After an eleven hours flight from Frankfurt to Osaka we arrived in an early morning and 24 degrees Centigrade at Kansai Airport. However, in our heads, it was still 1.00 a.m., and in particular Antje suffered somewhat from the jetlag. A large welcome committee of local Rotarians, waving the German and a GSE flag, welcomed us. Then, we introduced each other at a welcome coffee at the airport. The Japanese introduction is characterized by a bow, followed by an exchange of business cards.

By bus we were transferred to the ancient capital of Japan, Nara. Japanese traffic was interesting to us, due to left side-traffic and beautifully decorated lorries on the highway. In the afternoon we could relax at the luxurious garden hotel in Nara where the men of our group had their first traditional Japanese bath. This means, first, a proper washing of the body, followed by a (very) hot bath.

は、私たちのほとんどは好きな料理のリストには置きたくなかった。(もちろん出された日本料理をあえて何でも食べた私たちのチーム・リーダー・ピーター以外は、)

後の個人的な回顧録にてホスト・ファミリーにおける私たちの個々の印象および生活を述べますので、次の旅行日記で全ての出来事、ロータリー例会および職業研修を報告します。

最後に私たちは、可能な限りの方法で滞在中私たちを楽しませエスコートしてくださったホストの方々に感謝の意を表します。私たちが滞在したロータリークラブそしてホスト・ファミリーは、よくまとまり多様化した文化的・職業的(かつ社会的)ハイライトが詰められた、私たちのための顕著なプログラムを組織しました。さらに私たちは、旅行期間中援助していただいたすべての通訳の方にも特別に感謝の意を表したい。

旅行日記

25.10.2004、フランクフルトから大阪への11時間のフライトの後、私たちは早朝および摂氏24度の関西空港に着きました。しかしながら、私たちの頭の中は、まだ午前1.00で、特にAntjeは多少時差ぼけに苦しみました。GSE委員会と奈良東RCのロータリアンが、ドイツ国旗とGSE旗を持って、私たちを大歓迎しました。その後、私たちは空港内のコーヒー店でお互いを紹介しあいました。日本人の自己紹介は名刺の交換とお辞儀という特徴を持ちます。

バスで、私たちは日本の古都奈良へ移されました。日本の交通では、私たちはハイウェイ上の左側交通および美しく飾られたトラックに興味を持ちました。午後に、私たちは、最初の伝統的な日本風呂がある奈良の豪華なガーデンホテルでリラックスすることができました。これは、最初に、身体の適切な洗浄を意味し、(非常に)熱い風呂に入ります。

26.10.2004 Our first sightseeing tour led us to Nara Park and the famous Todaiji temple, a huge wooden building with a 15m Buddha statue. We were welcomed by lots of deer, the mascot of Nara, which were freely cruising around the temple district.

We had a special guided tour and had the honor to come closer to the Buddha statue than other tourists. The nose of the statue measures 50cm in diameter, a measure that was reproduced by a hole in a pillar in the temple. Rumor has it, that those who can pass through this hole will see their dreams come true. Ansgar (1.93m) made the effort and passed through the "nose-hole", which made quite an impression on the tourists surrounding us.

Afterwards we enjoyed our first original Japanese lunch, including Sushi, together with a fine glass of Asahi-Beer on tatami mats (Japanese straw floor coverings).

In the afternoon we went to the Kasuga Taisha Shrine, where Peter and the President of R.C. Nara east, Nakahigashi-san, took part in a Shinto ceremony, followed by a Shinto dance performance. Finally, we visited the treasure house in Nara Park and saw Samurai swords and huge historical drums.

It was raining the whole day, although Peter prayed enthusiastically to the Shinto gods. However, in retrospective, the Todaiji temple was the most impressive sight of the week and we enjoyed this first full day in Japan very much. After we had returned to the hotel, our host families picked us up for the first home-stay night.

27.10.2004 On this day, we had our first vocational study at the Kobain Sumi (Ink Stick) manufacture. These ink sticks are used for preparing the ink for traditional Japanese kanji calligraphic writing. Afterwards, we had the chance to test our own Japanese calligraphic skills, while enjoying a cup of traditional green tea.

We then visited an art and handicraft center, where we could try and produce traditional

26.10.2004、私たちの最初の観光ツアーで、私たちは奈良公園および有名な東大寺寺院(15mのブツダの彫像を備えた巨大な木造建築)へ行きました。私たちは、多くの鹿(奈良のマスコットで、寺院地区廻りで自由に散策していた)によって歓迎されました。

私たちのツアーは特別のガイド付きツアーで、他の観光客よりブツダの彫像により接近して見ることができました。彫像の鼻は、直径(寺院の柱の穴によって再生された単位)で50cmです。この穴を通り抜けることができる人々は、彼らの夢を実現することができるでしょうという言い伝えがあります。Ansgar(1.93m)は努力し、「鼻穴(鼻の穴と同じ大きさの穴)」(それは私たちを囲む観光客にすっかり感動を与えた)を通り抜けました。

後で、私たちは、畳(日本の藁で覆われた床)の上でAsahiビールの入った素晴らしいグラスと一緒に、寿司が入った最初のオリジナルの日本のランチを楽しみました。

午後に、私たちは、春日大社(ここでピーターと奈良東R.C.会長の中東さんは、神道式に参加し、神道舞いをしました)へ行きました。最後に、私たちは、奈良公園の宝庫を訪れて、サムライ剣および巨大な歴史的な太鼓を見ました。

ピーターは神道神に熱心に祈りましたが、雨が一日中降っていました。しかしながら、後方では、東大寺はその週の最も印象的な光景でした。また、私たちは日本でこの最初の終日をととても楽しみました。私たちがホテルへ戻った後、私たちのホスト・ファミリーは最初のホームステイの夜のために私たちを乗せて行きました。

27.10.2004、この日私たちは古梅園墨(インク棒)製造で最初の職業研修を行っていました。これらのインク棒は伝統的な日本の漢字「書道」用として使用されます。後で、私たちは、1杯の伝統的な緑茶を楽しんでいる間、自分の日本の書道の腕を試す機会がありました。

その後、私たちはなら工芸館を訪れました。そこで私たちは、杉に伝統的な絵を製作しようと努めることができました。昼食に、私たちは豆腐レストランへ行きました。豆腐は非常に健康によい食品(そ

pictures on cedar wood. For lunch we went to a tofu restaurant. Tofu is a very healthy food, which can be cooked in various different ways. In the afternoon, a visit of the Buddhist Daianji temple was on the agenda. We could participate in a Buddhist ceremony and enjoyed a cup of green tea with the priest and members of the Nara Association of Germany and Japan.

At 6.00 pm we joined the regular Rotary meeting of R.C. Nara East. National anthems and the rotary song were performed and welcome speeches were held. Antje-san gave a presentation about German history, followed by a short discussion about issues concerning the German reunification.

Afterwards, a first class welcome party left a big impression on us. We enjoyed a rich buffet and listened to Koto music. A member of R.C. Nara East even made the effort and welcomed us in German language.

Finally, we performed several songs at the hotel's karaoke bar. First, we sang "born to be wild" by Steppenwolf, then "like a prayer" from Madonna was performed by Heike-san and Antje-san, before the Beatles' "I want to hold your hand" completed the evening.

28.10.2004 In the morning, we visited Sharp Electric Co. Ltd. in Tenri, near Nara. We had a tour through the so-called Memory hall, where learned about various inventions of the company founder and the developments of the last ninety years. The name of the company is derived from the first invention of the founder, the ever-sharp pencil.

Then we went to a "100-yen shop" and a Chinese restaurant for lunch. In the afternoon, we had an extensive study about the Japanese police. Amazing: Even in a police academy, shoes are taken off at the entrance. The prefectures police center traces back emergency calls by the telephone number or the name of house owner, lacking street names and numbers. We also visited a local police station and gave an interview to the local newspaper "Nara Shinbun".

れは様々な異なる方法で料理することができる)です。

午後は、仏教徒大安寺の訪問が議事日程でした。私たちは仏教徒式に参加することができ、一杯の緑茶を、僧侶および奈良日独協会のメンバーとともに楽しみました。

6.00 pmに、私たちは、奈良東R.C.の例会に参加しました。国歌およびロータリーソングが歌われました。また、歓迎スピーチが紹介されました。Antjeさんが、ドイツの歴史に関するプレゼンテーションをし、ドイツの再統一に関する問題に関する短い議論が続きました。

後で、ファーストクラス歓迎パーティーは、私たちに対して大きな効果を残しました。私たちは豊富なビュッフェを楽しみ、琴音楽を聞きました。奈良東R.C.のメンバーはさらに努力し、ドイツ語で私たちを歓迎しました。

最後に、私たちはホテルのカラオケバーでいくつかの歌を披露しました。最初、私たちはステッペンウルフの「born to be wild」を歌い、それからマドンナの「like a prayer」がHeikeさんと Antjeさんによって歌われました。その後、ビートルズの「I want to hold your hand」で夜が終わりました。

28.10.2004、午前中私たちは、奈良の近くの天理市にあるシャープ工場を訪れました。私たちは、会社創立者および過去90年間の開発の様々な発明に関して学んだメモリー・ホールと呼ばれるところを通して見学をしました。会社の名前は、創立者の第1の発明、常にシャープなペンシルに由来します。その後、私たちは、「100円ショップ」とランチをとるため中華料理店へ行きました。午後に、私たちは、日本の警察に関して広範囲な学習をしました。驚くべきことに、警察学校でさえ、靴は入口で履き替えます。県警察学校は、通りの名前や番地なしで、電話番号あるいは家の所有者の名前によって緊急電話を逆探知します。さらに、私たちは地方の警察署を訪れ、地方新聞「奈良新聞」のインタビューに応じました。

最後に、県庁の知事代理が庁舎ホールで私たちを歓迎しました。夜に、私たちは、困難な仕事を行おうとしました：私たちは日本のファースト・フード店で、店の専用の衣類(それらはとてもおもしろかつ

Finally, the deputy chief executive of the prefectures administration welcomed us at the county hall. In the evening we tried to do a difficult job: We grilled chicken in a Japanese fast food station, wearing the shop's professional clothing, which was great fun.

29.10.2004 This day, we visited the "Watashino Shigotokan", an interactive museum for vocational orientation for school children and teenagers. Then we had a walk through a beautiful Japanese style garden. Afterwards, we visited the Nara Graduate School of Science and Technology. In the evening, the R.C. Nara East gave us a warm-hearted farewell party. All of us were very sad to leave our host families, considering the cordiality and friendliness of our hosts.

30.10.2004 Today we left Nara by train. In Kyoto station we met the Rotarians from R.C. Maizuru. We had a lunch and afterwards said Good Bye to the Rotary members of Nara East. Then we took a bus to Maizuru, located northwest of Kyoto at the Japanese coast, and arrived at 15.00 pm at our hotel. On our way, we saw several damages on forests and riverbanks, caused by the typhoon "Tokage" some days earlier. That evening we had a wonderful welcome dinner with Rotarians and our home-stay families of the second week.

31.10.2004 Our first day in Maizuru was very relaxing, since we had free time all day. We used the time for writing our trip diary and made a walk through the shopping mal of Maizuru East in the afternoon. In the evening, we had our first stay at our new home-stay families.

1.11.2004 This day started with a visit to the Mont Goro sightseeing tower, where we had a beautiful view over Maizuru Bay and the mountains around. Then we had a reception at the mayor of Maizuru, who was busy coordinating the repairing of the damage, caused by the typhoon Tokage in the region

た)を着用し、チキンを焼きました。

29.10.2004、今日、私たちは、児童やティーンエイジャーのための職業指導用の対話型の博物館「私の仕事館」を訪れました。その後、私たちは美しい日本風の庭園の中を散歩しました。後で、私たちは、奈良先端科学技術大学院大学を訪れました。夜には、奈良東R.C.は私たちに思いやりのある送別会をしてくれました。私たちはみんな、私たちのホストの真心および友情を考えれば、ホスト・ファミリーのもとを去るのは、とても悲しかった。

30.10.2004、今日、私たちは列車で奈良を去りました。京都駅で、私たちは舞鶴ロータリークラブ会員に会いました。私たちはランチを食べて、奈良東R.C.のメンバーに後でさようならと言いました。その後、私たちは、日本海岸にある京都の北西に位置した舞鶴行きのバスに乗り、ホテルに15.00 pmに着きました。途中で、私たちは、台風「Tokage」によって少し前に引き起こされた森林と河岸上のいくつかの破損を見ました。その夜、私たちは、第2週目のロータリアンとホストファミリーと共に、素晴らしい歓迎夕食会に参加しました。

31.10.2004、私たちが一日中自由な時間を持ったので、舞鶴での1日目は非常にリラックスしたものでした。私たちは旅行日記を書くために時間を費やし、午後舞鶴東のショッピングモールを散策しました。夜は、私たちは新しいホストファミリー宅に泊まりました。

1.11.2004、この日は、五老ヶ岳タワーへの訪問で始まりました。そこで私たちは、舞鶴湾および山並みを一望できました。その後、私たちは、舞鶴市の市長(この人は、10日前にここを通過した台風Tokageによって引き起こされた損害の修理を調整するのに忙しかった)を表敬訪問しました。後で、私たちは、市庁舎の隣の赤レンガ博物館を訪れまし

ten days ago.

Afterwards, we visited the red brick museum next to the city hall. In the afternoon, we had a very interesting guided tour to the Universal Shipbuilding Corporation in Maizuru. Here, military vessels, large bulk carriers, and different kinds of marine and maintenance robots were shown. Then we went to the Kirin Beverage Corporation and got an insight into the production of ice coffee, ice tea, and various juices. In the evening, we attended a private "concert" at the Motoki host family, where two host mothers performed traditional Nogaku and Koto music.

2.11.2004 In the morning, we had a "smelly experience" at the Maizuru fishing corporation, where we saw the processing of fish cake. At the fish auction, 200 different kinds of fishes and shells are sold. At lunch, we attended the regular meeting of R.C. Maizuru. After the national anthems, Heike gave a presentation about German way of life, festivities, and tradition, followed by a short discussion. In the afternoon, we were separated and had our individual vocational studies. In the evening, Gerd and Ansgar went to a hot spring and had their first original so-called Onzen bath in Japan, together with some Japanese Rotarians.

3.11.2004 This morning, we had an extensive boat cruise through Maizuru Bay. At our stop at the entertainment ship El Mar, we took part in a planetarium show, explaining the "man in the moon" by fairy tales. After lunch, Gerd and Ansgar had the possibility to go fishing for a short while. Then we went to the Repatriation Center. In this museum, the fate of the Japanese prisoners of the Second World War was presented. Pier number 2 was the place where the prisoners returned home from Russian working camps.

The last one came home in 1958.

In the evening, we enjoyed for the second time a Japanese karaoke bar. We had a really good laugh together with our Rotarian hosts, who

た。午後に、私たちは舞鶴のユニバーサル造船会社に案内され、非常に興味を持ちました。ここでは、軍事用の船・大きなばら積貨物船そして異なる種類の船舶とメンテナンスのロボットが展示されていました。その後、私たちはキリンビバレッジ株式会社に行き、アイスコーヒー、アイスティおよび様々なジュースの生産過程を洞察しました。夜に、私たちはホスト・ファミリーの元木さん宅でプライベートな「コンサート」を聞きました。そこでは、2人のホストの母親が伝統的な能楽および琴音楽を披露しました。

2.11.2004、午前中私たちは、舞鶴かまぼこ協同組合京都府魚連で「臭い経験」をしました。そこで私たちは、かまぼこの製造過程を見ました。魚オークションでは、200の異なる種類の魚および貝が売られます。ランチは、私たちは舞鶴R.C.の例会に出席しました。国歌の後に、Heikeは、ドイツでの生活・祭典および伝統に関するプレゼンテーションをし、短い質疑応答が続きました。午後、私たちは別れ、私たち個々の職業研修を行いました。夜に、GerdとAnsgarは温泉に行き、何人かの日本のロータリアンと一緒に、日本で最初のオリジナルの「温泉風呂」を楽しみました。

3.11.2004、今朝、私たちは遊覧船に乗って舞鶴湾内をクルーズしました。遊覧船El Marでは、おとぎ話の「man in the moon」の説明を聞きながら、プラネタリウム・ショーを見ました。ランチの後に、GerdとAnsgarは、しばらくの間魚釣りをしました。その後、私たちは舞鶴引揚記念館に行きました。この博物館では、第二次世界大戦時の日本の捕虜の最後の姿が展示されていました。第2 棧橋は、捕虜がロシアで働いたキャンプ地から家へ戻った場所でした。最後の人は1958年に帰宅しました。夜、私たちは2回目の日本のカラオケバーを楽しみました。私たちは、ホストしてくれたロータリアン(彼らは奇妙な服装で派手な日本の歌を歌った)と一緒に本当によく笑いました。私たちのチームは、欧州連合の新しい賛歌、ベートーヴェンの「歓びの歌」を歌いました。

performed brilliant Japanese songs in funny costumes. Our team performed, among others, the new anthem of the European Union, Beethoven's "Ode to Joy".

4.11.2004 On this day, we visited the naval vessel DGG Myoko of the Japanese self-defense force. After a tour through the ship, we had the honor to attend a lunch together with the captain and the admiral. We received a cap with the vessel's name and a group photo as a present by the boat's crew. In the evening, we attended the farewell party of R.C. Maizuru. Due to the extraordinary kindness and the effort of our hosts, we were very sad to leave this beautiful place.

5.11.2004 Early in the morning, we started our excursion to Hiroshima. We left at 7 a.m. our hotel and traveled to Kyoto by train. It was a tearful farewell from our host families. In Kyoto, we met some of the Rotarians of our next Club, Suzaku. We had a Korean lunch and afterwards we continued our journey with the famous Japanese high-speed train Shinkansen to Hiroshima. In contrast to the German Bundesbahn, we could rely on the punctuality of the Japanese Shinkansen and could set the time of our watches on it. Several aspects of this train were amazing: Although we reached a maximum speed of 300 km/h, the train went smoothly. In addition, the trains were remarkably clean and had no graffiti. In the train, we could choose between a Japanese-style toilet and a western style. The ticket inspector was bowing when entering and leaving the coach of the Shinkansen. During our travel, we saw one city after the other, not being able to recognize where one ends and the other starts. Having arrived in Hiroshima, we visited the Miyajima temple area, which was being repaired after damages by the typhoon. From our hotel rooms we had a wonderful view (19th floor) on the lights of the city.

6.11.2004 On this very sunny day, we visited

4.11.2004、この日私たちは、日本の海上自衛隊のイージス艦「みょうこう」を訪れました。船内の見学の後、私たちは艦長と提督といっしょにランチをとる光栄に恵まれました。私たちは、船の乗組員からのプレゼントとして、船の名前が書かれた帽子とグループ写真を受け取りました。夜私たちは、舞鶴R.C.の送別会に出席しました。ホストしてくださった方の特別な親切心と努力により、私たちはこの美しい所を去るのは非常に悲しかった。

5.11.2004、朝早く私たちは、広島への小旅行をスタートさせました。私たちは午前7時にホテルを去り、列車で京都へ向かいました。それは私たちホスト・ファミリーとの悲痛な告別でした。京都では、私たちは、次のホストクラブの京都朱雀R.C.のロータリアンのうちの数人に会いました。私たちは韓国のランチを食べ、その後、広島へ有名な日本の高速列車「新幹線」に乗って旅を続けました。ドイツのBundesbahnとは対照的に、私たちは日本の「新幹線」の正確さを信頼することができ、時計の時間を合わすことができました。この列車のいくつかの様相は驚くべきでした：私たちは300km/hの最高速度に達しましたが、列車は滑らかに進行しました。さらに、列車は著しく清潔で、落書きがありませんでした。列車の中で、私たちは和式トイレと洋式トイレのどちらかを選ぶことができました。「新幹線」の車両に入ったり出たりした時、車掌さんはお辞儀していました。乗車中、私たちは次から次へと都市が消えまた新しい都市が現れる光景を目にしました。広島に着いて、私たちは宮島を訪れました。そこでは台風によって受けた被害場所を修理していました。私たちの泊まったホテルの19階の部屋から、広島のすばらしい夜景を見ることができました。

6.11.2004、とても暖かかったこの日私たちは、

the Atomic Bomb Museum in Hiroshima, which left a powerful impression on us. The individual fate of the various victims, which were told in the museum, gave us a shocking image about the extent of the destruction and the losses of lives. Leaving the museum, each of us had a lump in his/her throat. We walked through the Peace Park, saw the famous A-Bomb Dome, and Peter rang the Peace Bell.

On our way back to Kyoto, we took for the second time the Shinkansen, for a change, the latest model type "700". In the evening, we had a welcome dinner with our new host families in Kyoto.

7.11.2004 We took the chance to see famous Kyoto emperor palace, in a queue with some thousand Japanese visitors. Afterwards, we made an extensive walk downtown in Kyoto, followed by a walk through a very long shopping mall. Here, dried small fishes were offered for snacks or use in soups. These fishes were supposed to be very "healthy" indeed, however, we refrained from buying them. In the evening, we had a nice welcome dinner in a traditional Japanese restaurant. We were offered nice decorated Sashimi, other traditional Japanese food, and loads of beer.

8.11.2004 Once again we had to move with our luggage to our host families. Our first visit for this day was the Horiba Company, which produces various devices for measuring exhaust gases and other purposes. Here, Gerd found out, that his wedding ring contains 69 percent pure gold and 6 percent copper. We had a traditional lunch, which was completed by a medium fried steak, original German beer and white wine. In the afternoon, we visited Japan's largest and oldest Sake brewery, Gekkeikan (360 years old). Sake is a traditional Japanese wine, which is made of rice only (we enjoyed it very much ;-).

9.11.2004 This day was dominated by an extensive sightseeing bus tour through Kyoto.

私たちに強烈な印象を与えた、広島平和記念資料館を訪れました。様々な被災者の個々の展示、それは博物館内で伝えられ、私たちに破滅の大きさおよび生命の損失に関して恐ろしいイメージを与えました。博物館を去って、私たち誰もが、感動で胸が一杯になりました。私たちは平和公園を通り抜け、有名な原子爆弾ドームを見、ピーターは平和の鐘を鳴らしました。

京都へ戻る時、私たちは、2回目の新幹線（最新型「700系」）に乗りました。夜、私たちは京都で新しいホスト・ファミリーと歓迎ディナーを食べました。

7.11.2004、私たちは、約1000人の日本人の見学者の列にまじって、有名な京都御所を見る機会を得ました。後に私たちは、京都の街中を広範囲に歩き、非常に長いショッピング・モールを通り抜けました。ここでは、乾いた小魚が、スナック菓子あるいはスープ用に売りに出されていました。これらの魚は本当に、非常に「ヘルシー」とであると想像がつかしましたが、私たちはそれらを買うことを差し控えました。夜、私たちは伝統的な日本料理店で、すばらしい歓迎ディナーを食べました。私たちは、きれいに盛り付けされた刺身、他の伝統的な日本の食物そしてたくさんのビールをいただきました。

8.11.2004、もう一度、私たちはホスト・ファミリーに荷物を移さなければならませんでした。今日の私たちの最初の訪問は堀場製作所でした。ここでは、排気ガスおよび他の目的物を測定するための様々な装置を生産しています。ここでGerdは、彼の結婚指輪が69パーセントの純金と6パーセントの銅を含んでいることを見つけ出しました。私たちは、ミディアムステーキ、オリジナルのドイツビールおよび白ワインによって完成された伝統的なランチを食べました。午後に、私たちは日本で最大で最も古い酒醸造所、月桂冠(360年の歴史)を訪れました。酒は伝統的な日本のワインで、米のみから作られ、私たちはそれをとても楽しみました。

9.11.2004、この日は観光バスで京都市内を巡りました。京都の翻訳は、市の歴史にもあるとおり、

The translation of Kyoto is "capital metropolis", which corresponds to the city's history, having been the capital of Japan from 784 to 1868. With our Japanese guide, we first visited the Nijo castle. This castle has "whispering floors", which had the function to be an alarm system for the Shogun and his concubines. Then we saw the Golden Pavilion, the imperial palace (for the second time), the Hejan shrine, and the Sanjosangendo temple, which exhibits 1001 Buddha statues. Finally, we visited the Kiyomizu temple, where visitors drink sacred water to fulfill their wishes for beauty, wisdom, or youth. This was a very hot day with 25 degree Celsius.

10.11.2004 On the next day, we visited the Goethe Institute in Kyoto and were welcomed by the director. At lunch, we participated in the local Rotary meeting, enjoyed a western style lunch and a speech by Heike about German lifestyle. In the afternoon, we visited a certified public account (CPA) office and an academy for training of CPAs.

11.11.2004 In the morning, we visited the district court and participated in two legal proceedings. After lunch, we drove to a construction site and saw Kyoto from the underground. Then we were shown a law office and a digital library of judgments. On this, Gerd was participated in a vocational study on his own and saw the prefectures business development office and a technology park. While Gerd had the honor to sit on the same chair, where the emperor was sitting two years ago for the New Year's celebration, Antje and Ansgar sat down on the judge's chairs.

12.11.2004 This day, we traveled by train along Lake Biwa and beautiful mountains to Fukui, our next stop. At the train station a large Rotarian committee welcomed us. On the

784年～1868年まで日本の首都で、「すばらしい主要都市」です。日本人のガイドに案内され、私たちは最初に二条城を訪れました。この城には「ささやく床（うぐいす張り）」があり、将軍および彼の妾の警報装置としての機能を持っています。その後、私たちは金閣寺・京都御所(2回目)・平安神宮および三十三間堂寺院(ここには1001のブツの彫像がある)を見ました。最後に、私たちは清水寺を訪れました。ここでは、美貌・聡明さあるいは若さに対する願いをかなえるため、訪問者は神聖な水を飲みます。この日は摂氏25度の非常に暑い日でした。

10.11.2004、翌日私たちは京都のゲーテ研究所(京都ドイツ文化センター)を訪れ、ディレクター(ドイツ人館長)から歓迎されました。ランチでは、ロータリー例会に参加し、西洋ランチを食べ、ドイツのライフスタイルに関するHeikeによるスピーチを楽しみました。午後に、私たちは、CPAオフィス(会計事務所)とCPA訓練校を訪れました。

11.11.2004、朝、私たちは京都地方裁判所を訪れて、2つの訴訟手続きに参加しました。ランチの後に、私たちは下水道工事現場まで足を運び、地下の京都を見ました。その後、私たちは法律事務所および裁判のデジタル図書館に案内されました。ここでGerdは、彼独自の職業研修に参加し、県事業開発オフィスおよび技術パークを見学しました。Gerdは、天皇が2年前に新年の祝賀のときに座っていた同じ椅子に座るという光栄を得る一方、AntjeとAnsgarは裁判官の椅子に座りました。

12.11.2004、今日私たちは、琵琶湖および美しい山脈に沿って、列車に乗って次の滞在地福井へと向かいました。駅では、たくさんのロータリアンが私たちを出迎えてくれました。この日の夜、私たち

same evening we participated in the regular Rotary meeting of R.C. Fukui Phoenix and Gerd gave a presentation about economic development in Germany.

13.11.2004 The second day in Fukui, we visited the paper manufacture in Madate, where the traditional Wasi paper is produced from bast in a handmade manner. Here, we made our own postcards of Wasi paper. In the afternoon, we were producing pottery in the Echizen ceramics art village. We created different vases, bowls, and individuals arts. (While working with the clay, Peter sprayed his shirt with dirty water, ts ts... ;-). Before we returned home to our host families, we went shopping in a 100 Yen Shop, where Gerd and Ansgar tried out the latest "Christmas fashion".

14.11.2004 Originally, this day was supposed to be our free day, but we changed it to our "family day". In the morning, we were at a dinosaur museum, where we saw exhibits of the Fukui raptor, named after the city of Fukui. For lunch, we went into the mountains and had a Korean style barbeque. In the afternoon, we went to visit the most famous Buddhist temple in Japan, the Eihei-ji. In this temple, many young people study Zen, a special kind of Buddhism. The trees around the temple were the largest we had ever seen. They are round about 500 years old.

15.11.2004 This morning, we participated in a guided tour through the fast breed reactor of the Monju nuclear power plant. This nuclear reactor is mainly used for research purposes to gain experience in the construction of fast breed reactors.

Afterwards, we visited the Taiho optical factory, which produces frames for glasses. Sixty percent of the production is exported,

は、福井フェニックスR.C.の例会に参加し、Gerdは、ドイツの経済発展に関するプレゼンテーションをしました。

13.11.2004、福井の2日目、私たちは、今立町にある越前和紙の里を訪れました。ここでは、伝統的な和紙は、手製のやり方で靱皮から生産されます。ここで私たちは、和紙の独自の郵便はがきを作りました。午後に、私たちは越前陶芸村陶芸の里で陶器を作りました。私たちは異なる花瓶、おわんおよび独自のアートを作成しました。粘土で作業している間、ピーターは汚れた水を自分のシャツにかけました。私たちがホスト・ファミリー宅に戻る前に、100円ショップに買い物に行き、GerdとAnsgarは最新の「クリスマスファッション」を試みました。

14.11.2004、もともとこの日は、私たちのフリーデーでしたが、私たちは「ファミリーデー」に変更しました。午前中、私たちは、恐竜博物館に行きました。ここで、私たちは福井の都市にちなんで命名された福井恐竜の展示を見ました。昼食は、私たちは山に入り、韓国風のバーベキューを食べました。午後には、私たちは日本で最も有名な仏教徒寺院「永平寺」を訪れました。この寺院では、多くの若者が禅(特別な種類の仏教)を学びます。寺院のまわりの木は、今まで見た中で最も大きかった。それらは樹齢約500年です。

15.11.2004、今朝、私たちは敦賀原子力発電所高速増殖炉「もんじゅ」のガイド付きツアーに参加しました。この原子炉は、主に高速増殖炉の建設の経験を身につけるための調査目的で、利用されています。

後に、私たちは、眼鏡フレームを製造している大豊オプティカル工場を訪れました。生産の60パーセントは、例えばRodenstockやEschenbachといったヨーロッパの契約者に輸出されます。遅い午後に、私たちは、寿司レストランの初心者コ

for example, to European contractors like Rodenstock and Eschenbach.

In the late afternoon, we were given a beginners course in a Sushi restaurant and tried our best to make proper and picturesque pieces of Sushi. There, we also learned how to eat the famous and very expensive Echizen crap. For Japanese people (and also for Peter), it is very delicious, to drink sake out of the crap's head.

16.11.2004 This day, we first visited the prefectures police headquarter. More precisely, this was a center for forensic and technical investigation of crime. We also witnessed the detection of lies by a device, measuring body functions (in German: Lugendetektor). In contrast to Germany, the results can be used in Japan to sentence suspicious people. Then we visited the tax office (Finanzamt) of Fukui prefecture. We surprised that Japanese tax offices have a public relations unit to reinforce the attitude of citizens to pay taxes. In addition, the tax offices in Japan have also a consulting and information function to help the citizens to fill out the tax returns.

In the afternoon, we saw a construction site of Asahara Company for sewage pipes. Unfortunately, Ansgar caught a cold the day before and hence took a rest at the bus during the visit at the construction site. Finally, we visited the Nippon Electronic Corporation (NEC) and joined in a speech about environmental friendly production of integrated circuits. This factory reflected our image about Japan, being a location for highly sophisticated high-tech production.

For dinner, we had Yakitori together with our host families and other Rotarians at our hotel.

17.11.2004 At our last day in Fukui, we had the opportunity to go shopping in the huge shopping mal COPA and went to a Chinese restaurant for lunch. The weather was extraordinarily good on this day and we had a relaxing cup of coffee in front of a Starbuck

ースを与えられ、正式できれいな寿司を作るために最善を尽くしました。そこでまた私たちは、有名で非常に高価な越前かにの食べ方を習いました。日本の人々(そしてむろんピーターにとっても)にとって、かにの甲羅で酒を飲むことはとてもおいしいことです。

16.11.2004、この日私たちは最初、福井県警察本部を訪れました。まさにそのとおりで、ここは犯罪の法廷と技術的な調査のための中心でした。さらに、私たちは、身体機能(ドイツ語で Lugendetektor)を測定して、装置による嘘の発見を目撃しました。ドイツとは対照的に、日本では疑わしい人々に判決を下すことに慣れています。その後、私たちは、福井県の税務署(Finanzamt)を訪れました。私たちは、日本の税務署が、税を納付する市民の姿勢を強化するために広報活動ユニットを持っていることに驚きました。さらに、日本の税務署には、市民が税務申告書を書き込むのを手助けする相談窓口および情報の機能があります。

午後に、私たちは、浅原組の下水道の工事現場を見ました。不運にも、Ansgarは前日風邪をひき、工事現場への訪問中バスの中で休息をとりました。最後に、私たちはNEC福井工場を訪れて、集積回路の環境にやさしい生産に関するスピーチに参加しました。この工場は、高度で精巧な先端技術の生産工場として位置しており、日本についての私たちのイメージを反映しました。

夕食はホテルで、ホスト・ファミリーおよび他のロータリアンと一緒にやきとりを食べました。

17.11.2004、福井での最後の日、私たちは、巨大なショッピングセンターCOPAに買い物に行く機会があり、ランチは中華料理店へ行きました。この日天気は非常によく、Starbuck cafeの前でコーヒを飲みリラックスしました。

午後に、私たちは、日本で最古の木造天守閣「丸

cafe.

In the afternoon, we visited the oldest wooden castle in Japan, Maruoka-Jo. This was very exiting, especially for those of us, who were fascinated by the Samurai. Here, we felt like Samurai warriors and enjoyed a nice view from the watchtower on the Fukui valley.

At our way back to Fukui city, we discovered that Heike and Ansgar like Kenkera cookies, but for the rest of the pack they tasted to "healthy". Back in Fukui, a big surprise waited for us. For our last night, we could stay in a luxurious traditional style hotel (Ryokan), where women in Kimono welcomed us. Our "rooms" turned out to be apartments which were composed of four rooms, including our own kitchen and a terrace, providing access to a very beautiful Japanese style garden. The women in Kimono immediately provided us with Yukata, turning us into regular Japanese. Then we had an extensive Onsen bath and felt very relaxed afterwards. Then, we were surprised for a second time: Our Rotarian friends prepared a great Japanese banquet in a big Tatami hall, Ohiroma. We never felt more deeply embedded in the Japanese culture and

tradition. More than 30 people dining in Yukatas, Koto music, a Mai-dance performance by a Rotary member, loads of Sashimi, Karaoke singing and outstanding service by the hotel staff made this evening a very special farewell party for us.

We performed our songs "Dat Du min leevsten bus" and "Die Gedanken sind frei", and expressed our thanks to the host families and the Rotary Club. After the dinner, the President of the Phoenix Rotary Club and Peter made a round and served each guest beer and sake, following a Japanese custom.

The next morning, we enjoyed a Japanese breakfast together with our Japanese hosts and departed from Fukui by bus.

18.11.2004 This day, we traveled to Otsu by Bus. We had a nice lunch with a view on the Lake Biwa. In the evening, Ansgar had his

岡城」を訪れました。ここで私たちみんなは、サムライに魅了され、とてもエキサイトしました。ここでは、私たちはサムライ勇士のようなものを感じて、福井谷の望楼からすばらしい景色を楽しみました。福井市へもどると、私たちはHeikeとAnsgarが「けんけら」という名のクッキーが好きであることを発見しました。しかし、バックの残りについては、彼らは「健康」のために味わいました。福井に戻り、大きな驚きが私たちを待っていました。最後の夜、私たちは、着物を着た女性が私たちを歓迎するという豪華な伝統的ホテル「旅館」に滞在することができました。私たちの「部屋」は、非常に美しい日本庭園へのアクセスを提供する、キッチンおよびテラスを含む4室の部屋から構成された「アパート」であると判明しました。着物の女性は、直ちに私たちに浴衣を持ってきて、私たちを普通の日本人に変身させました。その後、私たちは広い温泉風呂に入り、のちに非常にリラックスしました。それから、私たちには2回目の驚きがありました：私たちのロータリアンの友達は「大広間」という大きな畳のホールで、日本式宴会を準備していました。私たちは日本の文化および伝統で、これ以上深く記憶にとどめるようなことは決して感じませんでした。浴衣を着た30人以上の人の夕食会、琴音楽、ロータリアンによる舞のダンス、多くの刺身、カラオケ、ホテル・スタッフによる顕著なサービス、これらはこの夜、私たちにとって非常に特別な送別会をもたらしました。

私たちは「Dat Du min leevsten bus」および「Die Gedanken sind frei」という歌を歌い、ホスト・ファミリーおよびロータリークラブに私たちの感謝の意を表しました。夕食後、フェニックスロータリークラブの会長およびピーターが、日本の習慣にならって、各ゲストにビールおよび酒を注ぎに回りました。

翌朝、私たちは日本のホストと一緒に日本の朝食を楽しみ、バスで福井を出発しました。

18.11.2004、今日、私たちはバスで大津へ向かいました。私たちは、琵琶湖が見えるところで大きなランチを食べました。夜に、Ansgarは、大津

presentation at the regular Rotary meeting about classical art and culture in Germany. Furthermore, we got to know our host families.

19.11.2004 First, we visited the city hall and collected information about the development of the city of Otsu.

Then, we were welcomed by the mayor of Otsu and discussed the cities' measures to foster economic development in the city. After that, we gained insight into the information system infrastructure of the city.

Our next visit was at the Otsu police office, where, among others, the driving license tests are pursued.

For lunch, we went to a real German restaurant, called "Wurzburg". This restaurant was built by the German partner city of Otsu, Wurzburg, which was a nice surprise for us. We had "Kassler" and "Sauerkraut" and original "Weisbier" for drinks. We were told that the cooks of the restaurant were trained by original Wurzburg cooks, to turn the restaurant's atmosphere into a true German "Gasthaus".

In the afternoon, we visited the Int. Environment Technology Center. Afterwards, we enjoyed a tour through the enclosed Lake Biwa Museum and its aquariums. In the evening, we had our first home-stay in Otsu.

20.11.2004 This day, we traveled to Tsuruga, in order to take part in the Rotary District conference. There, we gave a short presentation about our GSE to Japan so far. In the evening, we participated in a huge Rotary conference dinner and Gerd and Ansgar had once more a traditional hot spring bath.

21.11.2004 On the second day of the Rotary convention, about 3.000 Rotarians attended the assembly. We were surprised by the size

唐橋ロータリークラブ例会で、ドイツにおける古典芸術と文化についてプレゼンテーションをしました。更に、私たちはホスト・ファミリーと知り合えました。

19.11.2004、最初私たちは市庁舎を訪れ、大津市の発展に関する情報を集めました。その後、私たちは大津市長によって歓迎され、都市の経済発展を促進するための都市の手段について議論しました。その後に、私たちは、都市の情報システムインフラストラクチュアを理解しました。私たちの次の訪問地は、とりわけ運転免許証の試験が行われる大津警察署でした。

昼食に、私たちは、「Wurzburg」(ドイツの都市)と呼ばれるまさにドイツのレストランへ行きました。このレストランは、大津とのドイツのパートナー都市、Wurzburg(それは私たちにとって、とても驚きだった)によって建てられました。私たちは「Kassler」と「Sauerkraut」を食べ、オリジナルの「Weisbier」を飲みました。私たちは、このレストランのスタッフがレストランの雰囲気を真のドイツの「居酒屋」風にするために、オリジナルのWurzburgのスタッフによってトレーニングされたと伝えられました。

午後に、私たちはIETC国連環境技術センターを訪れました。後に私たちは、囲まれた琵琶湖ミュージアムおよび水族館を通して旅を楽しみました。夜に、私たちは大津で最初のホームステイをしました。

20.11.2004、今日、私たちはロータリーの地区大会に参加するために敦賀へ旅行しました。そこで私たちは、遠く離れた日本へのGSEに関する短いプレゼンテーションを発表しました。夜に、私たちは、巨大なロータリー地区大会の晩餐会に参加し、GerdとAnsgarは伝統的な温泉風呂にもう一度入りました。

21.11.2004、地区大会の2日目には、約3.000名のロータリアンが会議に参加しました。私たちは、会合の大きさおよび主催者が行なった努力(巨大な

of the meeting and the effort, which the organizers made: A huge stage, two large video screens, and a setting like a television show.

We saw a one-hour presentation about the district's development aid project. Then we had a sightseeing tour to Mikata-Goko, a region at the coast, comprised of five lakes. We climbed a mountain with a funicular, and had an extraordinary nice view on the beautiful landscape, the lakes and the "Ichizen", the Japanese Sea. On this site, some hundred thousands of small locks were attached to the handrail chains, each representing a wish from a visitor.

For lunch we had grilled eel, seamed rice in a traditional Japanese manner. As snacks, fried eel-bones were offered and each of us had the guts to try some.

In the afternoon, we saw the Kehi-Shrine and some of us visited a fish pastry production plant, while the rest took a nap in the bus.

22.11.2004 Back in Otsu, the next morning we visited the "Toray" factory, a lot of different manufacturing plants under one roof. Some branches are worldwide renown.

In the afternoon we got a general view on the activities of the RITS University. Most impressive for us were the nanotechnology with its applicability, the robotic technology, and the information systems.

After sunset we visited the Momiji Shrine and we were deeply impressed about the beauty of the illuminated shrine and the gates belonging to it.

The highlight of the day was the karate performance and the samurai sword performance (katana). We were astonished about the skill of the "samurai-warrior" and the sharpness of the sword, cutting thick tatami-rolls like paper.

23.11.2004 This day was without an official programme, due to a bank holiday. In the morning we had a walk at the lakeside. It was beautiful, pleasant warm, the sun was shining,

ステージ、2つの大きなビデオスクリーンおよびテレビショーのようなセッティング)に驚きました。私たちは地区の開発援助プロジェクトに関する一時間のプレゼンテーションを見ました。その後、私たちは、三方五湖(海岸の地域にあり、5つの湖で構成されている)を観光しました。私たちは、ケーブルカーで山に登り、美しい景観、湖および日本海「Ichizen」という並外れたすばらしい景色を見ることができました。この場所で、訪問者からの願いが込められた、数十万もの小さな岩が手摺りのチェーンに取り付けられました。

昼食に、私たちは伝統的な日本のうな重を食べました。スナックとして、油で揚げたウナギの骨が出され、私たちの誰もが、食べる努力をしました。午後、私たちは気比神社を見、私たちのうちの何人かは魚ペストリー(かまぼこ)生産工場を訪れ、残りがバスの中で昼寝をしました。

22.11.2004、大津に戻って、翌朝私たちは東レエンジニアリング(株)機械工場(一つ屋根の下の多くの異なる製造工場)を訪れました。いくつかの支店は世界的に有名です。

午後に、私たちは、立命館大学の活動に関する一般的な見解を聞きました。私たちにとって最も印象的だったのは、その応用性・ロボット工学および情報システムを備えたナノテクノロジーでした。日没後、私たちはもみじの美しい日吉大社を訪れ、ライトアップされた神社および門の美しさに深く感動しました。

この日のハイライトは、空手およびサムライ剣(刀)の実演でした。私たちは、「サムライ勇士」の技術および紙のような厚い畳一巻きを切断した剣の鋭さに驚きました。

23.11.2004、今日は銀行休業日(祭日)のため、公式プログラムがありませんでした。午前中、私たちは湖畔を散歩しました。それは美しく、心地よい暖かさで、太陽は照り輝き、私たちは琵琶湖で新鮮

and we enjoyed the nice atmosphere at lake Biwa.

In the afternoon we had the chance to buy Jukatas and learned the proper way to tie a beautiful knot with the fabric belt on the back. Unfortunately, that was our last day in Otsu, and we had our last Farewell Party. Sadly, we had to say good-bye to our hosts who had cared for us so well.

However, our Japanese hosts helped us to subdue our sadness with a wonderful meal (here, for the first time, we were served Funa-Sushi!) many drinks, nice music, and a funny interview about our impressions about Japan.

24.11.2004 On this day, Rotarians from the district, led by our good friend Kimura-san, came to see us, brought us to Osaka and to Kansai Airport.

In Osaka we made an extensive shopping tour to buy souvenirs. The lunch we enjoyed that day, was outstanding: We visited an Italian Restaurant in the 36th floor of the Swissotel in the centre of Osaka. While the food was just excellent, the prospect of the metropolis of Osaka was breathtaking. Up to the horizon of each direction we would see only urban area, no trees, and no mountains.

After a walk through downtown Osaka, we took a futuristic looking train to Kansai Airport and entered the Airport Hotel. (It has to be said, the Japanese really know how to supply railroad trains with stylish looks, and that holds true not only for the various shapes of the "Shinkansen".) Before we spent our last night in the hotel, we had one more dinner with our friends from the district. It was a memorable evening indeed. Until late at night we talked about our experiences in Japan, differences to Germany, and how good our hosts shepherd us during our journey in Japan.

25.11.2005 The next morning we took our last Japanese breakfast. It was difficult to fully express our gratitude, to say good-bye, to say how beautiful, how unforgettable the time was

な空気を満喫しました。

午後に、私たちは、浴衣を買う機会があり、後ろの織物ベルトで美しい結び目を作る正しい方法を学習しました。

不運にも、それが大津での私たちの最後の日で、私たちには最後の告别会がありました。悲しいことに、私たちを非常によく世話をしてくれたホストに、さようならを言わなければなりませんでした。しかしながら、私たちの日本のホストは、素晴らしい食事(ここで、初めて、私たちは鮎寿司を食べた!)多くの飲み物、素敵な音楽および日本に関する私たちの印象についての奇妙なインタビューで、私たちの悲しさを吹き飛ばしてくれました。

24.11.2004、この日、木村地区GSE委員長が、私たちに会うために来てくれて、大阪および関西空港へ私たちを連れて行ってくれました。

大阪では、私たちがお土産を買うために、あちこちショッピングに行きました。私たちがその日楽しんだランチはずば抜けていました。私たちは、大阪の中心にあるスイスホテルの36階のイタリアンレストランを訪れました。食べ物がとても素晴らしいのに対して、大阪の中心地の見晴らしははっと思わせるようでした。各方向の地平線まで、私たちは木々や山のない都心部が見えます。

大阪のダウンタウンを通り抜けた後、私たちは、関西空港行きの未来的な列車に乗り、日航関西空港ホテルに入りました。(言っておきたい、日本人は、スタイリッシュな鉄道列車を供給する方法を実によく知っており、それが「新幹線」のいろんな型だけに当てはまるものではありません。)最後の夜をホテルで過ごす前に、私たちはもう一度地区GSE委員会の人たちと夕食を食べました。本当に忘れがたい夜でした。夜遅くまで私たちは日本での経験、ドイツとの違い、そして日本での滞在中私たちのホストがどれほどよくつくってくれたかについて話をしました。

25.11.2005、翌朝、私たちは最後の日本の朝食をとりました。私たちの感謝の意を十分に表現すること、さようならを言うこと、日本がどんなに美しくどんなに忘れがたい時間だったか、そして日本のホ

in Japan, and how great our Japanese hosts organized the whole trip. At 10 past 10 a.m., our plane took off and we started into a very long day, filled with warm memories of a country far in the east.

Team member's individual reports

Report Peter Möller

My first visit to Japan was in 1998. I stayed one week in Tokyo and took part in excursions in and around Tokyo. I was so fascinated by this country that I decided to come back as soon as possible.

In 2003, I got the chance to do so through Rotary. Fortunately we ? the team and me ? had nearly one year time to prepare for our trip. When we started, we were full of theoretic knowledge and anxious to meet the people for real, see the country, experience in the culture, and the way of life.

When we arrived in Japan, we were greeted by several Rotarians who were to become close friends over the next 5 weeks.

Our adventure began in the city of Nara, hosted by the Rotary Club Nara East. Our first night we spent in the luxurious Garden Hotel, where I had my first traditional Japanese bath. While being in Nara, we were taken to many temples and shrines; the most memorable was the Todaiji where we saw the giant Buddha statue. I was also taken to a Karaoke Bar ? for the first time in my life!

The Maizuru Rotary Club was our next host club. Maizuru is situated in a lovely landscape at the coast. We could still see the demolition caused by the last typhoon. I will never forget our visit to the Repatriation Centre; the exhibition and the fact that the last prisoners of World War 2 returned in 1958. During our visit on Mount Goro and through an extensive boats cruise we could admire the beautiful environment, and could see that there is also industry. A big surprise was the visit on the

ストが滞在中どれほど親身につくしてくれたかを言うことは困難でした。午前10時10分過ぎ、私たちの飛行機は離陸し、遠い東の国の暖かい思い出を胸に、とても長い日がスタートしました。

チームメンバーの個々の報告書

ピーター・ミュラー

日本への私の最初の訪問は1998年でした。私は東京に1週間滞在し、都心やその周囲のエクスカージョンに参加しました。私はとてもこの国に魅了されたので、できるだけ早く戻ることを決心しました。2003年には、私が、ロータリーを通じてそうする機会を得ました。幸運にも私たち（チーム、そして私）には、旅行の準備をする期間がほぼ一年間ありました。出発した時、私たちは理論的な知識でいっぱい、人々に会うこと、国を理解すること、文化および生活様式を体験することを切望していました。私たちは、日本に着いた時、これからの5週間親しい友達になるであろう数名のロータリアンによって歓迎されました。

私たちの冒険は奈良市で始まり、奈良東R.C.によってホストされました。最初の夜、私たちは豪華なガーデンホテルで過ごし、ここで最初の伝統的な日本風呂を体験しました。奈良にいる間、私たちは多くの寺院および神社へ案内されました：最も記憶すべきものは、巨大なブツダの彫像を見た東大寺でした。さらに、私はカラオケバーにも案内されました。－人生で初めての経験！

舞鶴ロータリークラブは私たちの次のホスト・クラブでした。舞鶴は、海岸で美しい景観の中に位置しています。私たちは、つい最近の台風によって引き起こされた倒壊の現場をまだ見る事ができました。私は、レセプションセンター(舞鶴引揚記念館)への訪問を決して忘れません：展示品および第二次世界大戦の最後の囚人が1958年に戻ったという事実。五老ヶ岳への訪問および広範囲なボートクルーズの間に、私たちは美しい環境を賞賛し、さらに産業があることを理解することができました。大きな驚きは、日本の海上自衛隊のイージス艦「みょうこ

vessel DGG Myoko of the Japanese Self-defence Force.

Hiroshima was our next destination. I cannot express my feelings in words as we visited the Atom-Bomb-Museum. I was reminded of the 2nd world war in Germany.

Similar devastation, similar misfortune, the same sorrow, the same inferno, terrible! We agreed that all leaders of those countries who possess nuclear weapons should visit this museum. We were also impressed how Hiroshima has been reconstructed during the last 60 years.

Our next host Rotary Club was Kyoto Suzaku. For me, Kyoto is indeed the cultural centre of Japan, where 1000 years as emperor's residence has left its marks. The emperor's palace, various shrines, temples, and other historical buildings gave a deep impression of former times. On the one hand it is a traditional town and on the other a modern one. During our stay the sun was always shining, in my memories Kyoto is the "sunshine city".

With the "Super express train" Thunder Bird, we reached our next destination: The R. C. Phoenix in Fukui. After 3 weeks I thought I could already understand completely the Japanese people, but then I was again impressed anew. In the Onsen Ryokan I felt like I was in a dream: the remarkably good service, the old building, the Rotary meeting with koto music performances, and dance. After the official part of the meeting I had the chance to enjoy individual drinks and small talk with all guests (nearly 50 persons! ... a difficult task.) In addition to our diversified official program we also had family trips to the dinosaur museum, and a grill party in the mountains? very relaxing in a time packed with sightseeing! Finally, I now can help my wife in the kitchen: In Fukui, learned to make Sushi.

Our last stop was the R.C. Karahashi in Otsu. Otsu is situated on the shore of Lake Biwa surrounded by hills; a lovely town, with a historical bridge: the Karahashi Bridge. We

う」を訪れたことでした。

ヒロシマは私たちの次の目的地でした。私たちが平和記念資料館を訪れた時、私は言葉で感情を表すことができませんでした。私はドイツでの第2の世界大戦を思い出させられました。同様な荒廃、同様な不幸、同じ悲しみ、同じ地獄、恐ろしいことです！私たちは核兵器を所有する国々の全てのリーダーが、この資料館を訪れるべきだと思いました。さらに私たちは、ヒロシマがこの60年間で見事に復興したことにも感動しました。

私たちの次のホスト・ロータリークラブは京都朱雀RCでした。私にとって、京都はまさに日本の文化的中心で、1000年もの間天皇の御所が強い影響を及ぼしました。京都御所、様々な神社、寺院および他の歴史上の建物は、前回より深い印象を与えました。一方では、古都であり、そして他方では、現代的な都市です。滞在のあいだも太陽が照り輝き、私の記憶では、京都は「サンシャイン・シティ」です。

特急サンダーバードで、私たちは次の目的地、福井フェニックスRCに到着しました。3週間経って、私はもう完全に日本人々を理解できたと思いましたが、もう一度新たな感動に出会いました。温泉旅館では、夢の中にいたかのように、私は感じました：著しくよいサービス、古風な建物、琴演奏およびダンスによるロータリー例会。例会の公式部分の後に、私は個々のドリンクおよびすべてのゲスト（ほぼ50人！…、困難な仕事）との雑談を楽しむ機会を得ていました。私たちの多様化されたオフィシャルプログラムに加えて、私たちは、さらに恐竜博物館への家族旅行および山でのグリル・パーティーを楽しみ、観光のひと時にとってもリラックスしました！最後に、私は今キッチンで妻を手助けすることができます：福井では、寿司を作ることを学びましたから。

私たちの最後のホストクラブは大津唐橋RCでした。大津は、丘に囲まれた琵琶湖の海岸に位置しており、歴史的な橋「唐橋ブリッジ」を備えた美しい町です。私たちは大津市役所を訪れて、様々な興味の

visited the city administration and had various interesting vocational studies. We also had the chance to go sightseeing in and around Otsu.

Unfortunately, our visit to Otsu was cut short because of our required attendance at the District Conference in Tsuruga.

In Tsuruga we participated in the District Conference. We introduced ourselves, gave a short

presentation and reported our impressions of our stay in Japan. In the evening we met nearly 1000 Rotarians and guests for a Rotarian dinner. I was deeply impressed by the fantastic organisation!

And then came our most difficult moment, our departure. Our Rotarian friends from the district joined us on our way to Osaka and cheered us up with a pleasant evening in the airport hotel where we had a last drink before the flight.

As I look back on this wonderful experience, I am most grateful for the sincere hospitality, the warmth, and more important the constant sense of humour! I particularly enjoyed the opportunity to experience a different culture and never to feel like a stranger, thank you all!

During my stay in Japan, I felt as if I were in a beautiful film that I hoped would never end.

Report Antje Bresnick

My boss is a Rotarian and he asked me, whether I wanted to apply for this GSE-Program.

Immediately I said "Yes". I thought this would be an exciting way to travel to a completely foreign country. I saw this GSE to be a "once in a lifetime" chance. I did not want to let this opportunity pass. I was not just looking forward to sights and culture of your country, but also to the prospect of getting to know the people in a more intense way than as a tourist.

Our team spent almost a year to get prepared for this stay, the country and your culture.

ある職業研修を行いました。さらに私たちは、大津およびその周辺に観光に出かける機会もありました。

不運にも、大津への私たちの訪問は、敦賀の地区大会で私たちの出席が要求されているために、短く切り上げられました。

敦賀では、私たちは地区大会に参加しました。私たちは自己紹介し、短いプレゼンテーションをし、日本での私たちの滞在の印象を報告しました。夜、私たちはほぼ1000人のロータリアンおよびゲストに晩餐会で会いました。私はファンタスティックな構成に深く感動しました!

それから、私たちの最も困難な瞬間(私たちの出発)がきました。地区GSE委員会の友人が、大阪へ行く途中で私たちに加わり、私たちがフライト前に最後のドリンクを飲んだ日航関空ホテルにおいて、楽しい夕食で私たちを元気づけました。

私は、この素晴らしい経験を回顧するとともに、心のこもったもてなし、暖かさ、そしてもっと重要な恒常的なユーモアのセンスに最も感謝します。私は、特に異なる文化を経験し、かつ見知らぬ人のように感じない機会を楽しみました。皆さんありがとう! 日本での私の滞在中、あたかも決して終わらないでと願った美しい映画の中にいたかのように、私は感じました。

アンチェ・ブレスニック

私の上司はロータリークラブ会員で、私がこのGSEプログラムを申し込みたいかどうかを私に尋ねました。直ちに、私は「はい」と答えました。私は、これが完全に外国へ旅行する刺激的な方法になるだろうと思いました。私はこのGSEを「人生で一度きりの」チャンスであると思いました。私はこのチャンスを逃したくありませんでした。私は、日本の風景や文化を期待していたのではなく、観光客としてよりもっと刺激的な方法で人々を知ることができるという見通しを楽しみにしていました。

私たちのチームは、1年のほとんどを、今回の滞在、国および文化のための準備に費やしました。そ

And still, this journey exceeded all my expectations by far. Each Rotary Club spared no efforts, so that this journey to Japan will remain unforgettable for me. Each club surprised us anew, so that every week was thrilling and exciting. We visited temples, for example the Todaiji temple in Nara Park, Eihei-ji temple near Fukui, and the Sanjosangendo, which exhibits 1001 Buddha statues. We saw the emperor palace, the Golden Pavilion, the Nijo castle, and the oldest wooden castle, the Maruoka. These objects of interest left an overwhelming impression with me, especially, because I got such an in-depth view into the centuries of old history in Japan. Not only did we visit many companies, like Sharp, Kirin and Horiba, but also the Lake Biwa Museum and its aquariums, the naval vessel DGG Myoko and the largest and oldest Sake brewery, Gekkeikan. The numerous impressions of each day were so plentiful and exciting that they were almost too much to be processed.

I took much pleasure in our "hands-on" experiences. We made pottery and postcards of Wasi paper and tested our Japanese calligraphic skills. Furthermore we grilled chicken and tried to make sushi. Afterwards we still sat together with our guest Rotarians and their family members and spent a few joyful hours. These two and also all the many other evenings which we spent together, were so very special for me. I had the feeling to spend a cozy and nice evening with friends. I enjoyed this unbelievably friendly and warm atmosphere very much.

I found our excursion to Hiroshima very interesting. The visit to the Atomic Bomb Museum was a must and belonged to this journey. Spending time in this memorial place is more expressive and more informative than everything else that you learn about it at school. I consider it very important that there are such places, so that respect can be paid to the victims. Thank you for this opportunity. Still something else impressed me.

When I entered my hotel room in the evening

して、今回の旅行はすべての私の期待をはるかに超えていました。各ロータリークラブは、日本へのこの旅行が、私にとって忘れがたいものになるように、努力を惜しみませんでした。毎週スリリングでワクワクしたように、どのクラブも私たちを新しいものでびっくりさせました。私たちは、例えば奈良公園の東大寺、福井の近くの永平寺および三十三間堂寺院(ここには1001のブッダの彫像がある)などの寺院を訪れました。私たちは京都御所、金閣寺、二条城および日本で最古の木造天守閣「丸岡城」を見ました。私が日本で何世紀もの古い歴史に深く入り込めたので、これらの興味のあるオブジェクトは、私に圧倒的な印象を特に残しました。私たちはシャープ工場、キリンビバレッジ(株)、および堀場製作所のような多くの企業を訪れただけでなく、琵琶湖ミュージアム・水族館、海上自衛隊のイージス艦「みょうこう」および日本で最大で最も古い酒醸造所「月桂冠」を訪れました。毎日おびただしい数の印象が、とてもたくさんあり刺激的だったので、ほとんどレポートに書き留めることができませんでした。

私は、「実地の」経験の中で多くの楽しみを味わいました。私たちは、陶磁器や和紙の郵便はがきを作り、日本の書道の技量をテストしました。更に、私たちは鶏をグリルで焼き、寿司作りに挑戦しました。後で私たちは、ゲスト・ロータリアンおよび彼らの家族と一緒に座り、しばらくの間楽しい時間を過ごしました。これらの2つ、および私たちがともに過ごしたすべての多くの他の夜もまた、私にとって非常に特別なものでした。私は、友達と居心地のよい素敵な夜を過ごすのと同じような感じを抱きました。私はこの信じられないほど親しみがあり暖かい雰囲気をととても楽しみました。

ヒロシマへのエクスカージョンは私にとって非常に興味あるものでした。平和記念資料館への訪問は不可欠で、この旅行に入っていました。この記念すべき場所で時間を費やすことは、それに関して学校で学習するというような他のすべてより表現できるものでありより有益です。私は、そのような場所があることが非常に重要であると考えます。その結果、犠牲者に尊敬の念を払うことができます。この機会に感謝します。他にもまだ何か、私を印象づけました。夜にホテルの部屋に入り、カーテンを引いた時、私はこの都市のスカイラインが信じられないほど印

and pulled aside the curtains, I found the skyline of this city to be unbelievably impressive. Since we had another hour to spare before dinner, I made myself comfortable in an armchair in front of the window, so that this wonderful picture could make a lasting impression on me. I have never before been in such a large city and, I cannot not say why, but Hiroshima made me feel unbelievably peaceful, no matter which time of the day.

Also the vocational studies were very interesting and worthwhile for me. I learned something about the Japanese tax law and I saw offices of tax accountants and tax offices from the inside. In one of these tax offices was an exhibition of pictures, which were painted by children. These pictures showed what the state uses the taxes for. We were told, that once a year a kind of commemoration week is spent in Japan. During this week the taxpayers are reminded, that the state does not only take the taxes, but also uses it for things that every inhabitant makes use of. The pictures showed police men, streets, and bridges for example.

I know that tax and the use there of is always a topic of discussion in every country, so I think it is a good idea to make its use obvious by reminding people with exhibitions like the one we attended.

The people of this country made the biggest impression on me however. They all were so friendly and cordial, that at no time I felt uncomfortable or like a stranger. A big thanks to the Rotary members, who took time off for us and accompanied us during these days. And thank you very much for the complex organization of the brilliant program.

I want to give my very special thanks to my host families, who welcomed me to their homes as if I belonged to the family. Thank you for the cozy accommodations, the delicious meals, transportation to and from meeting places and the nice gatherings in the evenings. Above all, however, thank you for the confidence and trust put into us ?

象的であると分かりました。私たちは夕食前に少し時間があつたので、私は、ウィンドウの前の肘掛け椅子に腰掛けて快適になりました。その結果、この素晴らしい絵(光景)は私に永続する印象を与えることができました。私は、今までにこのような大都市にいたことはありません、また私は、ヒロシマはその日の時間がどうでもいいと思えるほど、私に信じられないくらい平和なひとときを感じさせてくれたことを言わないわけにはいけません。

さらに、職業研修は私にとって非常に興味深く有益でした。私は、日本の税法についていくつか習い、内側から会計事務所および税務署を知りました。これらの税務署の1つでは、子供によって描かれた絵の展示がありました。これらの絵は、国が何のために税を使用するかを表現していました。私たちは、日本では一年に一度、一種の記念週間があることを伝えられました。今週、納税者は、国が税を徴収するだけでなく、すべての住民が使用するもののために、それを使用するということも気付かせられます。絵は、例えば警察官、道路および橋を表現していました。

私は、税およびその使い道が、どの国に於いてもいつも議論の話題であることを知っています。したがって私は、私たちが参加したときのように、展示品で気付かせる人々によってその使用を明白にすることは、よい考えであると思います。

しかしながら、この国の人々は、私に最も大きな感動を与えました。皆さんとてもフレンドリーで親切であり、不快に感じたり、見知らぬ人のように思ったりすることは一度もありませんでした。滞在中私たちのために時間を割き、共に行動してくださったロータリアンの方々にとても感謝します。そして、輝かしいプログラムの複雑な構成に非常に感謝します。

私は、あたかも私が家族の一員であるかのように、彼らの家に私を喜んで迎えてくれたホスト・ファミリーの方々に非常に特別な感謝の意を与えたいです。快適な宿泊設備、おいしい食事、会場間の送迎および夜の素敵な集いに感謝します。しかしながらまず第一に、あなたの家および心のドアを開くことによって、私たち「全くの見知らぬ人」に安心と信頼を与えてくださったことに感謝します。このことは、

complete strangers ? by opening the door to your homes and hearts. This made it possible for us to experience a completely different culture first hand. I would never have thought it possible to develop closeness in such a short amount of time. This made it difficult for me to say good bye to all of you each and every time.

I am grateful for this unique experience, which I was allowed to make. By communicating my experience to family, friends, colleagues, and other Rotarians at home I have already spread curiosity and interest for your country.

Report Heike Hansjürgens

"Rotary?" ? "Yes, Rotary International!"

"GSE?" ? Yes, Group Study Exchange!"

"Japan?" ? "Yes, I am really going to see Japan ? on the other side of the world!"

"Host Family?" ? "Yes, we are going to stay in private homes with Japanese families."

"So, you are excited?" ? "Yes, I am indeed..."

Before October 2004, nearly everyone in my environment asked me these questions and, being proud to be a team member, I told them everything they want to know (and sometimes a little bit more).

After this exchange, I am frequently asked, "How did you like Japan?"

Not able to answer this question in a short way and describe all my impressions and experiences, everyone who asked me got a different answer.

As for my mother, she was very interested about my hosts:

For me, it was the most important aspect of this exchange to visit private homes and get to know the families.

In each family I learned something new about Japanese lifestyle. For example, you have to change your shoes twice in a Japanese house ? first, entering the house, and second, before

私たちが完全に異なる文化を直接経験することを可能にしました。私は、このような短い時間で親密感が増すことが可能であるとは決して思いませんでした。これは、私がどんな時もいつでもあなた方皆さんにお別れを言うことを困難にしました。

私は、参加することを許されたこのユニークな経験に感謝します。家で家族、友達、同僚そして他のロータリアンに私の経験を伝えることによって、私はもうすでにあなたの国への好奇心および興味を広げました。

ハイケ・ハンスユルゲンス

「ロータリーって？」－「はい、それは国際ロータリーのこと！」

「GSEって？」－「はい、それは研究グループ交換のこと！」

「日本って？」－「はい、私は実際に日本を見るつもりです－世界の反対側の！」

「ホスト・ファミリーって？」－「はい、私たちは、日本の家庭に滞在するつもりです。」

「それで、ワクワクしてますか？」－「はい、私は本当に・・・」

2004年10月の前に、ほとんど私の周囲の誰もが、私にこれらの質問をしました。そして、チームメンバーであることを誇りに思って、私は、彼らが知りたい(そして時々わずかにもっと)すべてを彼らに伝えました。

このエクスチェンジの後に、私は頻繁に尋ねられます。「どのように日本が好きでしたか。」短くこの質問に答えて、かつ私の印象および経験についてすべて述べることはできないので、私に質問した誰もが、違った答えを聞くことになりました。

私の母親に関しては、私のホスト・ファミリーに関して非常に興味を持っていました：

私にとって、家庭を訪問し、かつ家族と知り合うことは、このエクスチェンジの最も重要な様相でした。どの家庭でも、私は日本のライフスタイルに関して新しいものを学習しました。例えば、日本の家では靴を2度履き替えなければなりません。最初は家に入るとき、二度目は洗面所に入る前にといった具合に。最後に、畳の部屋ではどんな靴も履きません。しかしながら、これらの生活の毎日の様子を体

entering the rest room. Finally, in rooms with tatami mats, you don't wear any shoes. However, not only these everyday-aspects of life were shown to me, but also some special things like wearing a kimono, the tea ceremony, a rock concert, traditional Japanese music, origami, kendo, ... All the families, I had the chance to stay with, were wonderful to me.

My dad was interested in another aspect of this trip ? food!

Japanese food ? a complete survey would fill hundreds of pages. For a lot of German people it seemed to be a little bit strange to have rice all day or eat raw fish, but I really enjoyed the Japanese food. Each day, we were offered wonderful menus and, sometimes I didn't even know what exactly was between my chopsticks.

However, back in Germany, I now miss a lot of these things I had eaten in Japan. I also learned a nice gesture during the various Welcome Parties and Farewell Parties: It's very polite to fill the glass of your neighbor at the table, and he or she will be happy to fill yours in return. I think, I will introduce this custom in Germany.

What will I answer to my colleagues?

Each host clubs organized interesting vocational studies for each team member. I visited some building sites and a planning office. In Maizuru for example, my vocational study was a very exciting afternoon. After a short introduction about a new harbor in the Bay of Maizuru, we made a boat trip to the other side of the bay to visit a tunnel under construction. Other vocational studies, not directed to me as a civil engineer, gave me a good impression about the Japanese economy and working life, too.

The first thing I told my grandmother was about the old culture and the wonderful sights we visited during the exchange. Being guests of the Rotary Club of Kyoto, we enjoyed a guided sight seeing tour, where we stepped on chirping floor, watched 1001 golden Buddhas

験できただけでなく、着物を着たり、茶道、ロックコンサート、伝統的な日本の音楽、折り紙、剣道、そして一緒に住む機会のあった全ての家族の人々、これらの特別な出来事もまた私にとって素晴らしいことでした。

私の父親は、この旅行の別の様相に興味を持っていました。－食物です！

日本の食物－完全な調査書は何百ものページになるでしょう。多くのドイツ人にとって、一日中米を食べるかあるいは刺身を食べることが少し奇妙に見えました。しかし、私は実際に日本食を楽しみました。毎日、私たちは素晴らしいメニューを提供され、時々私は、何を箸でつまんでいるのかさえ知りませんでした。しかしながらドイツにもどって、私は今、日本で食べた多くのものを食べそこなっています。私はまた、様々な歓迎パーティーや送別会で、素敵な身振りを習いました：テーブルであなたの隣人のグラスを満たすことは非常に礼儀正しいことです。そして、彼または彼女は喜んで代わりにあなたのものを満たすでしょう。思うに、私はドイツでこの習慣を導入しましょう。

私は同僚に何て答えるでしょうか？

どのホスト・クラブも、各チームメンバーのために興味ある職業研修を企画してくれました。私はいくつかの建築現場およびコンサルタント会社を訪れました。例えば舞鶴では、私の職業研修は午後非常に刺激的でした。舞鶴湾の新しいハーバーに関する短い紹介の後、工事中のトンネルを訪れるために湾の反対サイドへ船で向かいました。他の職業研修（土木技師としての私に向けられたものではないもの）も、私に日本の経済および労働者の生活についてよい印象を与えました。

私が祖母に伝えた最初のことは、古い文化と私たちがGSEの間に訪れた素晴らしい光景についてでした。京都朱雀ロータリークラブのゲストによって、私たちは観光旅行を楽しみました。そこでは、私たちはささやく床（うぐいす張り）を踏みつけ、1001人の金のブッダの彫像を見、日本風の庭園を

and walked through a garden in Japanese style.

Nearly everywhere we had gone, we noticed old and traditional buildings, temples, and shrines. Apart from the medieval times, it was also very interesting for me to learn something about the younger history of Japan, too (Atom Bomb Museum, Repatriation Memorial Museum).

How may I give a short overview about my experiences to a German Rotarian?

During our trip, we stayed in five different towns, were guests of five different clubs and took part in regular club meetings. Together with our dear Rotarians of the club Otsu Karahashi, we traveled to the biggest event in the Rotary Year, the District Conference. I was very impressed by this big meeting of more than 3000 Rotarians in a gigantic hall.

To my brother: You think a lot of Japanese like to use high tech in their every day lives? ? It is true: Nearly everywhere we went, I saw people using mobile phones of the latest fashion. Traveling by car, I always could watch TV or had a look on a navigation system. Finally, I think it was more than coincidence, that all of our team had Japanese cameras.

You think, Japan is a country with many high-tech electronic industries? ? Yes indeed: The Rotary Clubs of Nara and Fukui made it possible for us to have a look on this industry. We visited a plant of the NEC Corporation in Fukui and, near Nara, we had the chance to walk through the Memorial Hall of Sharp Electronic.

Stories for my best friend? Of course she is curious about Japanese clothes?!

For me, it was a little bit strange to see a woman wearing a modern business dress sitting in a train next to a woman wearing a kimono. I learned that a kimono is more than a traditional garb, which the women in former times had worn. It was a very exciting experience to see this style existing next to the modern dresses.

I recognized this coexistence of old and new in

散歩しました。ほとんどどこでも、私たちは行き、古くて伝統的な建物、寺院および神社に注目しました。中世時代は別にして、日本のより若い歴史についてもまた何かを学習することは、私にとって非常に興味あることでした。(広島平和記念資料館、舞鶴引揚記念館)

私は、どのようにしたらドイツのロータリアンに私の経験に関する短い見解を述べることができるでしょう。

旅行中に、私たちは5つの異なる町に滞在し、5つの異なるロータリークラブに迎え入れられ、クラブ例会に参加しました。大津唐橋RCの親愛なるロータリアンと一緒に、私たちは、今年度の最大のイベントである地区大会に出席するため、敦賀に旅行しました。私は、大ホールでの3000人を越えるロータリアンのこの大きな地区大会に非常に感動しました。

私の兄弟へ：あなたは多くの日本人が、日常生活の中でハイテクを使用するのが好きであると思います？－それは真実です：私たちが行ったほとんどどこでも、最新の流行の携帯電話を使用する人々に会いました。自動車で旅行したところ、私はいつもテレビを見たり、ナビゲーション・システムを見たりすることができました。最後に、私は、チーム全員が日本製カメラを持っていたことが、何より偶然の一致だったと思います。

日本は多くの先端技術の電子産業を持った国だと思いますか？－はい、確かに：奈良と福井のロータリークラブでは、私たちがこの産業を視察することができました。福井ではNEC福井工場を訪れ、奈良の近くでは、シャープ工場のメモリアルホールを散策する機会がありました。

私の親友のための話？もちろん、彼女は日本の衣服について知りたがっています？！私にとって、電車の中で、着物を着ている女性の隣に座るモダンなビジネス服を着用している女性を見るのは、ほんの少し奇妙でした。私は、着物が以前女性が着用していた従来の服装を越えるものであることを知りました。モダンな服の隣りに存在するこのスタイルのを見ることは、非常に刺激的な経験でした。私は、日本の多くの場所で、この古いものと新しいものの共存を認識しました。例えば、私が畳に座ってウェブ上でサーフィンした時、あるいは仏教徒僧が名刺を

a lot of situations in Japan. For example, when I surfed in the World Wide Web sitting on tatami, or when I watched a Buddhist monk changing business cards. To see this combination of modern lifestyle and tradition ... all this changed my view to our own traditions in Germany, and their importance in our every day lives.

My boy friend didn't ask anything. (…at first, that is). He was just happy that five weeks had passed by. I think, five weeks were a very short time to get to know Japan, but it was enough time to get a small impression about this amazing country and its inhabitants, and it took my delight to get to know more about it.

And my answer to all the people who made this exchange possible? - THANK YOU!

Report Gerd Hachmöller

The chance to participate in GSE was given to me after my wife and I had moved to Rotenburg (Wümme) and I had started my new job as the business development officer of the county Rotenburg (Wümme). Our new neighbor, being a Rotarian, told me about GSE and asked me whether I was interested. I knew, I would be leaving behind my wife and our newborn son, but I did not hesitate to apply and, furthermore, signed in for the next Japanese language class at the evening school. In retrospective, the first week in Nara was the most impressive time during my stay in Japan, probably due to the fact that everything was new to me and each day seemed to last as long as a week. I will never forget our visit at the Sharp Company, at the leading edge of high tech electronics, or the laugh we had that afternoon in the Yakitori Restaurant. In our second host town, the seaport Maizuru, I particularly enjoyed our visit at the naval vessel JDS Myoko, and the spontaneous visit of the Onsen with Ansgar and our host fathers. Kyoto fascinated me by its long history as the emperor's seat. The emperor's palace and various temples, shrines, and other

交換するのを見た時などです。現代のライフスタイルおよび伝統…すべてのこのコンビネーションを見することで、ドイツで私たちが持っていた伝統的な見解は変わりました。そして、これらの重要性は、私たちの毎日の中で生きています。

私のボーイフレンドは何も聞きませんでした。(…最初は、それはそうです)。彼は、5週間が過ぎたことをとても嬉しく思っていました。私には、5週間は日本を知るのにとっても短い時間だったと思います、しかし、この驚くべき国およびその住民に関して小さな印象を持つには十分な時間でした、また、それに関してもっと知り得ることは私の喜びでした。

このGSEプログラムを可能にしてくれたすべての人々への私の答え? -それは、ありがとう!

ゲアト・ハッフミュラー

私の妻および私がRotenburg(Wumme)に移り、私が、Rotenburg郡(Wumme)の事業開発オフィサーとして新しい仕事を始めた後、GSEに参加する機会が私に与えられました。ロータリアンである私たちの新しい隣人は、GSEのことを私に伝えて、私が興味を持っているかどうか私に尋ねました。私は妻および私たちの生まれたての息子を残して、出発することはわかっていました。しかし私は、申請することを躊躇しませんでした、そしてさらに、夜間学校での日本語クラスのためにサインしました。思い起こせば、奈良での最初の週が、すべてが私にとって未経験で、毎日が一週間と同じくらい長く感じたという事実により、日本での滞在中最も印象的な時でした。私は、シャープ工場の訪問(ハイテク・エレクトロニクスのプロペラの前縁)あるいはその午後のやきとりレストランで出た笑いなど、決して忘れないでしょう。私たちの2番目のホストタウン港町舞鶴では、私は特に、海上自衛隊のイージス艦「みょうこう」への訪問、およびAnsgarと私たちのホスト父親との温泉の自発的な訪問を楽しみました。京都は天皇の権威が長く続いた歴史で私を魅了しました。京都御所と様々な寺院、神社および他の光景は壮観でした。福井では、仏教徒センター、恐竜博物館、寿司バー、伝統的な和紙製造および陶器製造へのエクスカージョンなど、いろいろとすべてが、素敵で気楽な家族旅行の特徴を持っていまし

sights were spectacular. In Fukui, the excursions to a Buddhist centre, a dinosaur museum, a sushi-bar, a traditional paper manufacture and a pottery, somehow all had the characteristic of nice and easy family trips, which I really enjoyed. Furthermore, I will never forget the Onsen Ryokan near Fukui. The wonderful food, the drinks, the remarkable good service and the outstanding music performances we enjoyed that evening were just unbelievable. (With the "outstanding music performances", of course, I refer to the Koto music and traditional singing we witnessed during our dinner and not to our international Karaoke-session later that evening.) In Otsu, I particularly enjoyed the Bavarian Gasthaus "Wurzburg", as well as the visit at the city administration and the nice evenings in the host families and restaurants. The deepest impression in my heart left our visit in Hiroshima. The pictures and exhibits in the Peace Museum, as well as the many stories of individual lots, were unbearably sad. When I left the museum and we rang the peace bell, I was deeply touched about the tragedy, which came upon this city. Back in the beautiful and huge city of Hiroshima, it was hard to believe that only 60 years ago, the whole area was flattened and burned.

Have you seen the TV-movie "Shogun" with Richard Chamberlain in the early 1980's? During my stay in Japan I was reminded quite often on this movie, and, being interested in Japanese history and traditions, I was stunned when my accommodation in my first home-stay family was so traditional Japanese: I was welcomed by my host parents with a green tea which we enjoyed kneeling on the floor, before they offered me a hot bath and put me into Japanese clothing. My room had paper walls, tatami-mats, a futon-bed on the floor, and beautiful Japanese decoration in each corner. In the first night I dreamed of me being "Anjin-san" in the castle of "Toranaga-sama". However, so much more was yet to come: In the following weeks I would see various medieval castles, watch a Samurai-

た。私は実際にそれを楽しみました。更に私は、福井の近くの温泉旅館を決して忘れないでしょう。素晴らしい食物、飲物、著しいよいサービス、および私たちがその夜楽しんだ際立った音楽の上演は、とても信じられませんでした。（「際立った音楽の上演」とは、もちろん、夕食中に見た琴の演奏と伝統的な歌のことで、夕食後のカラオケのことではありません。大津では、特に私は、大津市役所への訪問、およびホスト・ファミリーやレストランでの素敵な夜と同様に、バイエルンの居酒屋「Wurzburg」を楽しみました。

私の心の中に最も深く印象に残ったのは、ヒロシマへの訪問でした。個々の運命の多くの話と同様に、広島平和記念資料館の映画および展覧品も、耐え難く悲しかった。資料館を去り、私たちが平和の鐘を鳴らした時、私はこの都市に起こった悲劇に関して深く感動させられました。広島市の美しい大都市に戻ると、わずか60年前に、全体のエリアが平らになり燃やされたと信じることは困難でした。

1980年代初めのリチャード・チェンバレンのTV映画「将軍」を見ましたか？日本での滞在中に、私は、この映画のことを何度も思い出させられました。そして、日本の歴史と伝統に興味を持ちました。私は、最初のホストファミリーの住居環境が非常に伝統的な日本式だった時、茫然としました。私は、ホストの両親に緑茶で歓迎され、床にひざまずくのを楽しみ、それからお風呂に案内され、私に日本の衣類を着せました。私の部屋は、壁紙、畳敷、床の上に布団そして各コーナーに美しい日本の装飾がありました。初日に、私は、「Toranaga-sama」の城の中の「Anjin-san」になった夢を見ました。しかしながら、まだそんなに多くのものは来ていませんでした。次の週に、私は様々な中世の城を見て、サムライ剣のパフォーマンスを見て、サムライのよろいかぶとと武器を備えた博物館を見て、実際的大名(=サムライ伯爵)の後継者に会います。

sword performance, see museums with Samurai armors and weapons, and even meet a successor of a real Daimyo (=Samurai count/earl).

A hobby of mine, which I obviously share with most Japanese, is singing. We used to sing with our hosts not only at Rotary meetings, but also at the more "informal" meetings later in the evenings, be it in the host families, or at Karaoke bars. Towards the end of my stay in Japan, and after various "training sessions" in Karaoke bars, I was even able to sing a Japanese song from the 1970's ("Sayonara...") together with my hosts. Well, okay... some beer and sake has also been involved in the process.

As for my vocational studies, it proved quite difficult for my hosts to find a match to my profession as a business development officer. In fact, I found out that public administration in Japan, including economic development departments, is organized somewhat different from Germany and its sub-regions. However, thanks to Mr. Akashi from Kyoto, I had the opportunity to talk to governmental bodies in Kyoto who were concerned with economic development in their region. This was a really interesting experience to me and I am deeply grateful to Mr. Akashi to have organized this day for me.

My host families were magnificent! I was welcomed as if I was a member of the family and I am deeply grateful for the great hospitality I enjoyed. I was served a broad variety of delicious food and drinks, and had any comfort I could think of. To me, the Japanese food was one of the most alien features of our host country.

Compared to our team leader, Peter, who ate literally everything the Japanese cuisine offered us, I admit I was a chicken sometimes: Raw octopus, nato or funa-sushi (fermented fish) was not my cup of tea.

My host families also explained various aspects of Japanese culture to me, and the role this culture plays in every day's life in Japan. I had very interesting conversations

私の趣味(ほとんどの日本人と明らかに共有している)は、歌うことです。私たちは、ロータリーの例会だけでなく、夜遅くにホスト・ファミリーの家やカラオケバーのようなもっと「非公式の」ミーティングでもまた、私たちのホストとともに歌うのが常でした。日本での滞在の終わりごろ、そしてカラオケバーの様々な「トレーニング集会」の後、私は、ホストと一緒に1970年代からの日本の歌「さよなら…」を歌うことさえできるようになりました。うーん、そう…ビールと酒もまたプロセスに関係しました。

私の職業研修に関しては、私のホストが事業開発オフィサーとしての私の職業とマッチするものを見つけることは、全く困難であると分かりました。実際、私は、経済開発部門を含む日本の公共機関が、ドイツおよびそのサブ地方とは違った何かで組織されていることを発見しました。しかしながら、GSE地区委員(京都紫竹RC)の明石氏のおかげで、私には、地方の経済開発に関係があった京都の役所の関係者に話しをする機会がありました。これは私にとって本当に興味ある経験であり、この日私のために準備してくださった明石氏へ深く感謝します。私のホスト・ファミリーはすばらしかった!私があたかも家族の一員であるかのように歓迎され、そして、手厚いもてなしに深く感謝します。私にはたくさんの様々なおいしい食物と飲物が与えられ、私が考えるすべての快適さを持っていました。私にとって、日本の食物はホスト国の最も異なる特徴のうちの1つでした。私たちに出されたすべての日本の料理を文字通りに食べた私たちのチーム・リーダー(ピーター)と比較して、私は、時々鶏だったと認めます:生のタコ、納豆あるいは鮎寿司(発酵させた魚)は、私の好みではありませんでした。

私のホスト・ファミリーはまた、私に日本の文化の様々な様相、およびこの文化が日本で毎日の生活で演ずる役割について説明しました。私は、茶道、性の問題、日本の料理、日本の通信規則、および仏

about the tea ceremony, gender issues, the Japanese cuisine, Japanese communication codes, and the harmony between Buddhism and Shintoism.

Furthermore, I will never forget Hide and Hiro (in my home-stay family in Fukui), who not only shared their computer games but became like brothers to me, or the Nohgaku lesson, which Yasuyo-san gave me in my Nara home-stay family. Good "Kimochi" expresses best the way I felt in the families, and I hope that one day I can pay back some of the hospitality which I enjoyed.

I admit it: I did have some cliches about the Japanese: Diligent, friendly, honest, always in groups... What was not on my list however, but which proofed to be essential characteristics of our hosts: warm-hearted, extraordinary hospitable, individual, and equipped with a good sense of humor.

Taking a more critical perspective on our host county, I must remark: 1.) Why are all the guest slippers in public buildings children size? 2.) I do not think that "Gerd" and "Geld" are the same words. Watch the spelling of the third character. 3.) Personally, I still consider it worthwhile to fry or cook octopus before eating it. 4.) If an animal is dead for more than two years ("funa-sushi"), why don't you let its soul rest in peace!? ;-)

What did I take home from this trip? Three kilograms more (due to the delicious Japanese beer, I suppose), lots of wonderful memories, 5200 pictures on DVD, and a fresh look to my home country: How can we Europeans call ourselves a civilized society without warmed toilet seats and automatic bidets? Why have I always had my bath ten degrees too cool before I came to Japan? Finally: I really need to learn German folk songs! (It is so embarrassing when a Japanese asks you to join him singing the "Lorelei" and you, being a German, don't know the text!)

教と神道の調和について、とても興味ある会話をしました。更に、私はコンピューターゲームと一緒にしただけでなく、私にとって兄弟のようになった「ひで」と「ひろ」(福井でのホスト・ファミリー)を、あるいは奈良のホスト・ファミリーで、「やすよさん」が教えてくれた能楽は、決して忘れないでしょう。いい「Kimochi」は、私が家族の中で感じた状態を最も表現します。そして、私は、いつの日か楽しんだもてなしのうちのいくらかをお返しすることができることを望みます。

私は認めます。私は、日本人に関してある先入観を持っていました。勤勉で、親しみがあり、正直で、いつもグループの中に……。しかしながら、私のリストに載っていなかったもの、しかしそれは私たちのホストの本質的な特性であることを証明しました：思いやりがある、異常なまでの手厚いもてなし、個人的、そしてユーモアのセンスを備えている。ホスト国のもっと批判的なことを話しましょう。私は言わなければなりません：1.)なぜ公共建物の中の客用スリッパはすべて子供サイズなのですか？ 2.)私は「Gerd (ゲアト)」と「Geld (去勢する)」は同じ単語だとは思いません。私のスペルを見てください。3.)個人的に私は、食べる前にタコを油で揚げるか料理することが、時間をかけるだけの価値があるとまだ考えます。4.)動物「鮎寿司」が2年以上の間死んでいるのなら、その魂を安らかに眠らせましょう！?;-)

私はこの旅行から何を家にもって帰ったか？3キログラム太り(おいしい日本のビールのせいだと、私は思います)、多くの素晴らしい思い出 (DVDでの5200もの写真)、および私の故国への新鮮な思い：私たちヨーロッパ人は、暖められた便座や自動ビデのない文明社会を、どのように呼ぶことができます？どうして私は、日本に来る前に、いつもあまりに冷たい10度のお風呂に入っていたのでしょうか？最後に：私は本当にドイツのフォークソングを習う必要があります！(日本人が「ローレライ」を歌って、一緒に歌ってくれるように頼まれ、ドイツ人であるあなたが歌詞を知らない場合、それは非常に困りものです！)

Report Ansgar Scherp

The possibility to participate in the Rotary's GSE programme was given to me by my boss. Driven by my expectations and inner nosiness about Japan, I decided to apply for the GSE and felt very pleased, when I was selected to be a member of the team.

In the following twelve month of preparation for this trip, I gained a lot of knowledge about Japanese habits and way of living. I signed in for a Japanese language class at the evening school, where I tried myself in learning some Hiragana and later some Katakana character. I also gained first practical experiences with eating typical Japanese food (sushi and sashimi) by using chopsticks.

After this extensive preparation, I felt very happy, when we finally arrived in October 2004 in Japan and our exchange began. Straight from the beginning of our trip, we were visiting breath-taking sights. Most impressive to me were the Todaiji temple in Nara, sightseeing at Mt. Goro in Maizuru, the emperor's palace garden, golden pavilion, and Nijo castle with its "whispering floor" in Kyoto, the Maruoka castle and Eiheiiji temple in Fukui, and last but not least the illuminated Momiji shrine in Otsu.

For my professional experience, we visited the Graduate School of Science and Technology in Nara and the Techno Complex of the Ritsumeikan University in Otsu. We also visited Horiba Co. Ltd. in Kyoto, the computer chip manufacturer Sharp Electric Co. Ltd in Nara and NEC Electric Fukui Factory, and in Maizuru I had a videoconference to some students of the University of Kyoto.

Besides these vocational studies and the visiting of the very impressing sights, the most important aspect of the exchange was to experience the way of life in Japanese families by my own: Sleeping in a traditional Tatami-room on a Futon, taking a hot bath each evening, and waking up in the morning with a friendly "o-hajo gozaimasu" together with an expensively prepared breakfast. This was really an once-in-a-lifetime chance that has

アンズガー・シェルブ

ロータリーのGSEプログラムに参加する可能性は、私の上司によって与えられました。日本に関する期待と内面の欲求に追い立てられ、私は、GSEを申し込むことを決定し、私がチームのメンバーに選ばれた時、非常に喜びました。

この旅行のための準備の12か月間で、私は、日本の習慣および生活様式に関する多くの知識を得ました。私は夜間学校で日本語クラスに入り、そこで、私は平仮名と後に片仮名を学習しました。さらに私は、箸を使って典型的な日本の食物(寿司と刺身)を食べるという最初の実地の経験をしました。

この広範囲な準備の後、私たちが日本に2004年10月について到着し、私たちのGSEが始まった時、私はとても幸せでした。私たちの旅行は始めから途切れがなく、私たちははっと思わせるような光景を訪れていました。私にとって最も印象的だったのは、奈良の東大寺、舞鶴の五老ヶ岳から見た景色、京都の京都御所の庭、金閣寺、「ささやく床（うぐいす張り）」のある二条城、福井の丸岡城と永平寺、そして最後に大津のライトアップされたもみじの美しい日吉大社でした。

私の専門の経験については、私たちは、奈良の先端科学技術大学院大学、および大津の立命館大学のテクノコンプレックスを訪れました。さらに、私たちは京都の堀場製作所、奈良のコンピューター・チップ・メーカー、シャープ工場、及びNEC福井工場を訪れました。そして舞鶴では、京都大学の何人かの学生達とテレビ会議を行ないました。

これらの職業研修およびとても印象的な名所への訪問に加えて、GSEの最も重要な様相は、私自身が日本の家庭の中に入って生活様式を経験することでした：伝統的な畳の部屋で布団を敷いて寝ること、毎晩熱い風呂に入ること、そして親しく「おはようございます」と挨拶し合い、贅沢に準備された朝食で朝を迎えること。これは、本当に私たちに与えられた人生で一度きりのチャンスでした。また、私はそれを絶えず楽しみました。

been offered to us and I enjoyed every single *day and night* of it.

Before the exchange, my knowledge about Japan was mainly shaped by movies like "Shogun", "Last Samurai", and "Lost in Translation". After gaining a direct insight into the Japanese culture by the GSE programme, I feel a lot of things confirmed, e.g., the hospitality of the Japanese people is tremendous, the general development and implementation of technology is very high (home entertainment, car navigation systems, speaking elevators, doors open automatically almost everywhere), and the food is sometimes very strange. However, in regard of the food for example, I was very surprised how tasty it is and that I liked almost everything. Consequently, at the end of the exchange, I got 3 kilos more to bring home ;-). I also admire how humorous the Japanese people are. They always like to laugh and to make jokes to each other. I really liked that very much and wish, that German people would do that also.

Unfortunately, I cannot write down all of my single impressions during the five weeks in Japan, because this would will an entire book. Hence, I like to point out some flashlights in the following:

Some of you wondered that I really got trough the Buddha's "nose" in Nara. But I'm honest: In the end of the trip I wouldn't be able to do this anymore due to my extra kilos ;-). I also enjoyed grilling chicken on my own at the Yakitori restaurant very much. I wear the shop's clothes for cooking at home now. In Maizuru, I went out for dinner to a sushi restaurant with my host family and tried for the first time to make sushi on my own. However, I still try to persuade my girlfriend to share this skill with me ;-). The visit to the Atom-Bomb-Museum in Hiroshima (which I think should be mandatory for everyone who does such a trip to Japan) left a very unsettling and distorting impression on me. I can only repeat Peter's two words, "Never again!". What still keeps me wondering is what kind of literature my host mother in Kyoto

GSEの前は、日本に関する私の知識は、「将軍」「ラストサムライ」そして、「Lost in Translation」のような映画によって主に形作られました。GSEプログラムによって日本の文化に対して直接の洞察力を得た後は、私は、多くのことを確認しました。例えば、日本の人々のもてなしはすさまじい、技術の全般的な開発および完成度は、非常に高い(ホーム・エンターテインメント、カーナビ、エレベーター・ドアは自動的にほとんどどこでも開きます)、また、食物は時々非常に風変わりです。しかしながら例えば食物に関しては、私は、何ておいしく、ほとんど何でも好きになったことにとっても驚きました。従って、GSEの終わりには、3キロ以上太りました。さらに私は、日本の人々はなんてユーモアがあるのだろうと感心します。彼らはいつも笑い、冗談を言い合うことが好きです。私は本当にそれが大好きで、ドイツ人もまたそうするように、しゅーと鳴ります。

不運にも、これは完全な本でしょうから、私は日本での5週間の一人の印象のすべてを書き留めることができません。従って私は、いくつかのポイントを下記に記します。

あなた方の何人かは、私が奈良で実際にブツダの「鼻穴(鼻の穴と同じ大きさの穴)」を通り抜けたことに驚きました。しかし、私は正直です:旅行の終わりには、私は、余分な脂肪のために(太ったために)これをもうすることができないでしょう;一。さらに、私はやきとりレストランで鶏を自分でグリルで焼いて、とても楽しみました。私は今家で、料理するために料理店の衣服を着ています。舞鶴では、私はホスト・ファミリーと寿司レストランへの夕食のために外出し、寿司を自分で作ろうと初めて試みました。しかしながら、私は、この技術を私と共用するように、私のガールフレンドを未だに説き伏せようとしています;一。ヒロシマの平和記念資料館への訪問(私は、それは日本へ旅行するすべての人にとって義務であるべきだと思う)は、私をとっても動揺させ、ゆがめた印象を残しました。私はピーターの2つの単語を単に繰り返すだけです、「二度と起こしてはならない!」。京都の私のホスト母親は、実際にどんな種類の文学を書くのか、また、私の日

really writes and if my Japanese will ever be good enough to read them ;-). The Onsen Ryokan not only left the biggest impression about Fukui on me, but also attracts most of the people's attention when I show our pictures from Japan at home. In regard of this hotel, I totally agree with Gerd: an unbelievable evening. I'm still very impressed about my host father's skill in German language in Otsu and (you could not know that of course) I really like illuminated things, so that besides the beauty of the lake Biwa, I always remember the illuminated Momiji shrine when I think about our last week in Japan.

Also a very special joy for me in Japan was to perform one of my favorite rock songs at the weekly karaoke sessions, the hymn "born to be wild" of the German band "Steppenwolf". A performance which Gerd and I perfected from week to week! :-)

The main reason for me to participate in the GSE programme was to become acquainted with the Japanese culture, habits, and way of living, especially in the families. I also expected to gain some insight into the Japanese working live and to see some of your cultural sights. The schedule of the GSE considered these different aspects in equal measure such that the exchange met my expectations to utter satisfaction.

Therefore, my very personal thanks goes out to all the Rotary clubs that made this exchange possible, to the families, who hosted me and treated me like one of theirs, and especially to the members of the GSE committee and its chairman Kimura-san. I enjoyed my stay in Japan very much and I hopefully will have the chance to visit your country soon again!

Being the last one in the row of these personal reviews, I can only properly conclude this report by assuring you, that this trip will influence our lives in the next couple years ? if not decades ? for sure. I hope that you enjoyed the time we shared as much as we did. Thank you for giving us this extraordinary intercultural experience. Domo arigato gozaimasu!

本語がそれを読むのに十分であろうか、私は未だに不思議に思っています；一。温泉旅館は、私に福井についての最も大きな印象を残しただけでなく、私ที่บ้านで日本で撮った私たちの写真を見せた時、ほとんどの人々の注意をも引きつけました。このホテルに関して、私は、全くゲアトに賛成します「信じられない夜」。私は、未だに大津のホスト父親のドイツ語の上手さについて、とても感動しています。また、(もちろん、あなた方はそれを知ることができませんが)私はライトアップされたものが本当に好きです。その結果、琵琶湖の美しさに加えて、日本での最後の週について考える時、私はいつもライトアップされたもみじの美しい日吉大社を思い出します。

さらに、日本で私にとっての大変特別な喜びは、毎週カラオケで私の好きなロック・ソングのうちの1つを歌うことでした(ドイツのロックバンド「ステッペンウルフ」の聖歌「born to be wild」)。ゲアトと私は、毎週完璧に歌いこなしました！：

私がGSEプログラムに参加するための主な理由は、日本の文化、習慣および生活様式、特に家庭の中で実地に知るようになるからでした。さらに、私は、働く日本人の暮らしを見抜いたり、いくつかの文化的な光景を見ることを期待しました。GSEのスケジュールは、同等の手段でこれらの異なる様相を考慮しており、GSEは満足を口に出して述べるという私の期待を満たすものでした。したがって、私のとても個人的な感謝の意は、このGSEを可能にしたすべてのロータリークラブに、私をホストし、家族の一員のように私を迎え入れてくれたホスト・ファミリーに、そして特にGSE委員会のメンバーおよび木村委員長に捧げます。私は、日本での滞在をととても楽しみました。そして私は、再びあなたの国をすぐにでも訪れる機会が持てるよう望みを抱いています！

終わりにあたって、私は、あなたを安心させてこのレポートを程よく終えられます。この旅行は次の2、3年—そうでなければ数十年間—間違いなく私たちの生活に影響を及ぼすでしょう。私は、あなた方が、私たちが共有した時間を私達と同じくらい楽しんだことを望みます。私たちにこの並外れた異文化間の経験を与えてくれてありがとう。どうもありがとうございます！

奈良東滞在記録

2004年10月25日～10月30日

ホストクラブ
奈良東RC
会長
中東弘京
幹事
北奥雅祥
GSE委員長
萩原隆夫



ホスト会員	メンバー
中東 弘京／土地家屋調査士	Peter Moller／団長
北奥 雅祥／ファーストフード	Ansgar Scherp／団員
黒田 有紀／税理士	Antje Bresnick／〃
上田 洋一／ファッション衣類販売	Gerd Hachmoeller／〃
清水 弘志／印刷	Heike Hansjurgens／〃

スケジュール

10月25日（月曜日）関西空港へお迎え

晴天に恵まれて、午前6時奈良を出発し、クラブ会長、幹事、G.S.E.委員長、クラブ奉仕委員長、国際奉仕委員長、通訳の6名は、バスにて関西空港に向かう、関西空港に7時過ぎ到着、地区委員長の木村 憲一様、地区委員の高辻良成様と合流し、待つこと約一時間で南ゲイトに元気なドイツ1850地区G.S.E.メンバー5名を迎えることが出来ました。お互いの自己紹介や歓迎の挨拶もそこそこにバスにて奈良に出発しました。通訳を通じて、長時間の飛行の労いなど、片言の言葉でコミュニケーションを交わしながら、途中時間があれば大阪城をバスの中から見学しようとしましたが、交通渋滞で余裕がなく、見学を断念、一路奈良に向かい午前11時50分三井ガーデンホテル奈良に着きました。小歓迎会を国際奉仕委員会や奈良東RCメンバー十数名で行い、午後1時よりスケジュールの説明、パワーポイントの器具の点検を行い第一日目を終了致しました。メンバーは夫々の部屋で休養。



10月26日（火曜日）東大寺、春日大社参拝

生憎の雨天、午前9時45分三井ガーデンホテル奈良を出発東大寺に10時到着、住職より東大寺の歴史について説明を受けました。G.S.E.のメンバーは、熱心に質問をして、仏教について興味を示し、宗教について西洋との共通性などを尋ねていました。住職さんも色々な表現で説明していましたが、通訳さんが少し困っていたようでした。大仏様のお膝に登り少し高いところから一般見学者を見下ろしながら

住職さんの説明は続きました。その後館内を見学し柱の穴くぐりなど体験し、見学は終了。

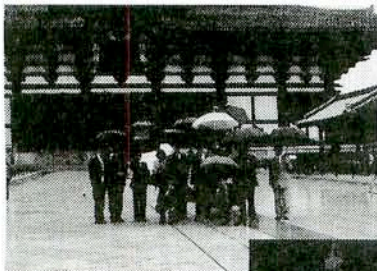
午後0時00分、ロータリーメンバーの食堂で昼食、修学旅行生で混雑していましたが、メンバーの居間を拝借して大変ゆったりしたひと時を持つことができました。

午後1時、春日大社見学、宮司さんの歴史と神道について説明を拝聴しました。ここでも熱心に質問をし、通訳を困らせていましたが、宮司さんのソフトタッチの軽妙な話術で談笑の内に進んで行きました。

昇殿祈祷、巫女さんのお神楽を見学参拝いたしま



した。その後、宝物殿で国宝刀剣を見学し、無事春日大社見学を終了致しました。雨天とはいえ、奈良の一端を垣間見て頂いたと思います。宗教観の違いから只、素通りされるのではと危惧していましたが、住職さん、宮司さんの熱意にも感心しましたが、非常に東洋的な宗教に興味を示され熱心に質問をされていたことには日本人として感激致しました。後、夫々のホームステイ先に向かいました。



10月27日（水曜日）晴れ

午前10時、墨製造・古梅園見学。現在奈良東RCメンバーが社長、創業430年と言う墨製造の老舗、職人による製造過程を見学、途中夫々団員が柔らかい墨を握り締めて、指紋、掌紋入りの世界で唯一の墨を製造いたします。その後乾燥させて、仕上がりとなりますが、地区大会までに仕上がるか懸念していました。（地区大会に間に合って手渡すことが出来ました）。営々として営まれた古来からの製造技術は近代工業化された製造過程と一味違った趣があり、熱心に見学され感心していました。見学後、お茶の点前を頂き、書道にも挑戦、団員の方が夫々、社長さんのご母堂さまのお手本で奈、眞、夢、などを清書され、初めての毛筆での揮毫、見事でした。

午後1時より「なら工芸館」において一刀彫りの鹿や色々な名品を鑑賞し、その後、透かし彫りに挑戦しました。板に台紙を張り台紙に紅葉の葉っぱや、鹿等を描き、その絵を小刀で切り取り、絵の部分の板目が出ている部分に高速でガラスの粉末を吹き付

けると板の木目が浮き出て綺麗な模様となります、残りの台紙の部分はガラスの粉末の直射を避けるので木目は目立たず、台紙を取り除くと自分で描いた絵画が浮き出て見事な作品となります。職人によるとガラス粉末の高速噴射装置はドイツから伝来したと言われましたが、団員は知らなかったようです。

午後3時、日独協会、大安寺を訪問、本堂において河野良文貫主より仏像の説明をうけ、安全祈願のお祈りを受けました。その後庫裏においてお茶の点前を頂き、日独協会の会員がお越しになり、ひと時の談笑を楽しみました。

午後6時歓迎例会

例会後、奈良日独協会長 大安寺河野良文貫主、地区GSE委員長 木村憲一様、同委員 明石好蔵様、坂本克也様、高辻良成様ご臨席の下、GSE委員長萩原隆夫会員の司会で歓迎会が開催されました。

中東会長挨拶

皆さん今晚は、私たち奈良東ロータリークラブ会員一同は、1850地区・ドイツ・プレーメンよりピーター团长以下合計5名のGSEチームをお迎えし、心より歓迎いたします。2650地区・奈良東ロータリークラブから始まり、地区内残り4クラブを訪問され、広く日本の文化、伝統にふれ、日本を満喫して頂きたいと思います。

GSEチームリーダー

ピーター・ミュラー氏挨拶

親愛なるロータリアン並びにご出席の紳士淑女の皆様、今晚は、私は、ドイツ1850地区より参りました、このチームリーダーでピーター・ミュラーと申します。私達は、私達のガバナーと地区からの友好と感謝の気持ちを皆様にお伝えします。今回の訪問を実現させていただいた皆様の好意、ご尽力に対し、お礼を申し上げます。来年は、貴方がたのGSEチームを私達がホストとして受け入れさせていただきます。私達メンバーの紹介に先立ち、ドイツのロータリーについての情報をお伝えしたいと思います。ドイツは、14地区866のロータリークラブに43,000人のメンバーがいます。200あまりのクラブには女性会員もいて、ドイツロータリーのトータルでは約1,100名の女性が参加しており、その数はもっと増えると思われます。若者達は外国に行き、その文化や人々に接する機会を与えることの重要性を認識し、私達の地区はGSEプログラム、短期青少年交換プログラムなどの学生交換をドイツで最も多く行っている地区であります。1972年より私たちはGSEプログラムを開始し、これまで受け

入れ、送り出しともで70人以上の若者がこのプログラムに参加したと聞いております。そして、今回、私たちは日本の文化と貴方方の生活を実際に体験できることを楽しみにしております。

国際奉仕委員長 北山 勘解由挨拶

Guten Abend.

Ich mochte Sie sehr herzlich in Nara willkommen heissen.

Ich heisse Kageyu Kitayama, der Beauftragter des internationalen Dienstes ist. Während meines Studiums hatte ich Deutsch gelernt, aber da ich keine Gelegenheit habe, es zu sprechen, vergass ich vieles.

Ich bedachte Deutschland vor zehn Jahren mit meiner Familie.

Ich war voller Bewunderung, die sch?ne Natur, die alten Hauser und Schl?sser. Und die Menschen waren so nett.

Nara war die Hauptstadt in Japan vor eintausenddreihundert Jahren. In dieser Stadt gibt es eine Menge sehr berühmter, historischer Sehenswürdigkeiten.

Todaiji Tempel und Kasuga Taisya Schrein, welche wir gestern bedachten, geh?hren dazu.

Die Firma Scharp, welche wir morgen besuchen werden, ist welt beruht in der elektronischen Industrie.

Wir hoffen, dass es Ihnen in Nara gefällt.

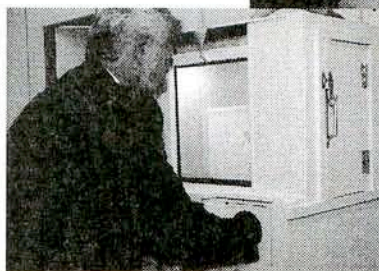
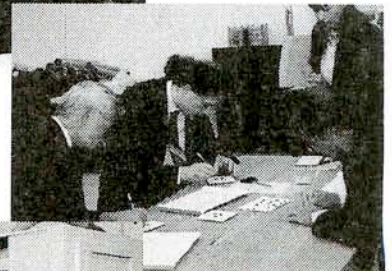
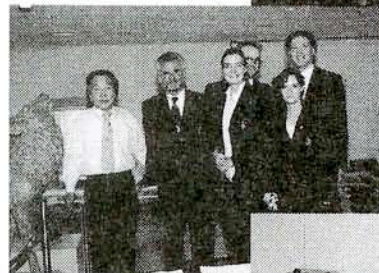
(独文概要；今晚は、皆様をご歓迎申し上げます。私は国際奉仕委員長の北山勘解由と申します。学生時代にドイツ語を習いましたが、話す機会がありませんでしたので、多くを忘れています。10年前家族とドイツを訪問し、自然の美しさ、家々やお城の美しさに驚嘆しました。人々は大変親切でありました。

奈良は1300年前日本の首都でありました。歴史的に見るべき貴重な物が沢山あります。昨日訪れた東大寺や春日大社もその一つです。明日予定している会社シャープは世界的に有名な電気産業です。我々は、奈良を楽しんで下することを期待します。) GSE受け入れ歓迎会に際し、日独協会、河野良文会長様には、お忙しいところご出席いただきました。本日午後はGSEの皆様と大安寺を訪問させて頂き、おもてなしをうけました。また、5名様の方を紹介していただきました、ありがたく御礼申

し上げます。地区GSE木村憲一委員長様、GSE委員明石好蔵様、坂本克也様、高辻良成様にはGSE受け入れについて色々ご指導とお世話になり、本日は大変お忙しいところご出席いただき有難く御礼申し上げます。通訳をお願いしています上田賀代子様、東浦加代子様、松村洋子様、小田富美子様、八木一巳様にはボランティアでご協力頂いております。本当に有難うございます。本日は上田様と、東浦様が出席して下さいます。ホームステイの家族の皆様には大変お世話をお掛けしています、心から御礼申し上げます。メンバーの方々にも色々お世話をお掛けしています、御礼申し上げます。なお、今後3日間をよろしく願いまして、ご挨拶とさせていただきます。

午後8時30分

カラオケ大会；三井ガーデンホテル奈良6階カラオケルームにおいて、ドイツの団員による、ドイツ民謡や合唱などを拝聴し、私たちは日本の演歌を披露いたしました。約一時間楽しい交歓会を催しまし





10月28日（木曜日）

午前10時 工場シャープ見学

晴天、シャープ奈良支店第3営業担当課長 奥村繁様のお出迎えを受け、工場内見学、前身の早川徳治様創業による早川シャープペンシル工場は、東京において関東大震災によって、壊滅的打撃を受け、東京を去り、関西にて、ラジオ生産から、電子レンジ、電卓生産などを経て、近代エレクトロニクス工業へと発展した過程について説明を受けました。誠実をモットーにして消費者のニーズに応えながら、お客様本位に心がけ3年先10年先を見越して全員で取り組んでいます。年代を追っての製品を見ながら説明を拝聴いたしました。

昼食、中華料理を頂く。団員は毎回のことですが、手を合わせ「戴きます」と合唱をしていました。終われば「ご馳走様」と唱えていました。食後、団員の希望により100円ショップを見学する。ドイツにも良く似た店があるとのことでした。

午後1時 警察学校を見学、中谷 光 校長先生のご案内で授業風景、生徒の個室などを見学し、体育館にて合気道、武術、警棒による逮捕術の実習を見学。午後3時、県警本部見学、指令室等を見学、各種OA機器が配列され、110番通報すればたちどころに通報者の住所、住宅名が判明し、近くのパトカーに通報して現場に急行を要請する、仕組みが手にとるように分かりました。また、交差点の様子が指令室のディスプレイに写し出されて監視することができる。ドイツでは交差点の映像は善良な個人の映像が写る危険がありプライバシーの関係で写せな

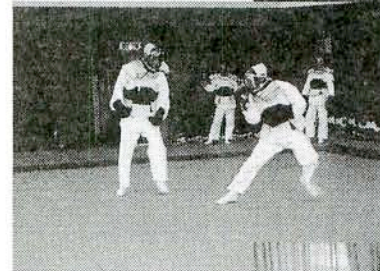
いといわれていました。

奈良県庁訪問、県会本会議開催中で知事様を訪問することはできませんでしたが、橋本弘隆奈良県出納長様のお出迎えを受け、奈良県の行政についての説明を受けました。

午後3時30分、奈良駅前交番見学、交番業務に就いて説明と意見交換を行った。この際、奈良新聞社編集部 女性記者 吉村和泉様の取材があり、GSE全般について説明する。

午後6時 焼き鳥パーティ

北奥会員経営の備長扇屋（焼き鳥居酒屋）にて調理場で全員、焼き鳥を焼き、自前の焼き鳥でクラブメンバー、ホストファミリーも加わりパーティ開催、賑やかなひと時となりました。





10月29日（金曜日）

午前10時、晴れ 職業奉仕委員会と共催で私の仕事館を見学営業部 調査役 南部 勝 様の館内の説明があり、探索ゾーン、暮らしを支える各種多様な職業や仕事の組織プレーを体感する職業世界との出会い。

体験ゾーン、モノづくり、サービスといった様々な仕事の世界を体験する。

歴史、未来ゾーン；暮らしを支えてきた人々の働き方がどのように変化したか未来の仕事がどのようにあるかを考察する。

建設機械オペレータを体験；案内係り女子が偶然ドイツ・プレーメンで住んでいた方でコミュニケーションがスムーズにゆきました。

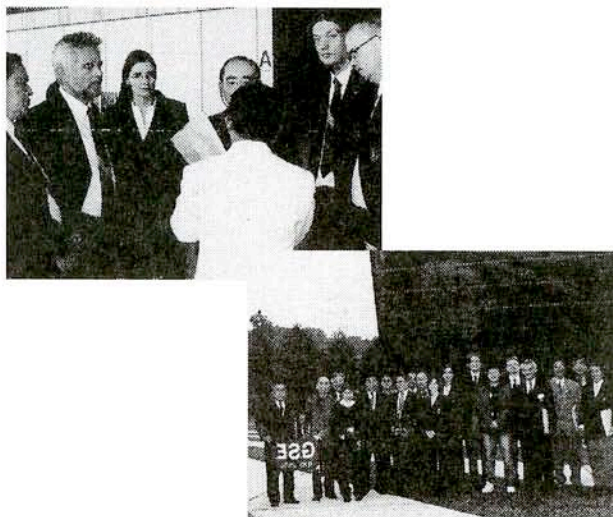
午後1時30分

日本庭園散策

自然を利用した人工の日本庭園、清流に紅葉の影を写し、鯉の魚鱗を眺めながらの散策は心の安らぎを覚えました。

午後3時 奈良先端科学技術大学院大学見学広報・情報管理室の対応にて大学概要の説明を受け、情報科学研究室において山澤先生よりコンピュータやロボットが外界を見る技術と視覚情報処理全般について説明をうける。複合現実、全方位視覚センサーについて講義をうける。私達には難解なところでしたが、アンスガー・シェルプさんは専門的に質問し協議をしていました。本日で、研修はすべて終了。この後アインシュタインの壁画を背景に全員集合写真を撮り、帰路につきました。

午後6時 花小路においてサヨナラパーティを開催



10月30日（土曜日）

午前10時、近鉄京都線で京都にむかい、午前11時30分京都駅北口ルネサンスビル4F 「京いち」にて昼食、舞鶴ロータリークラブ様に事務引継ぐ。

萩原GSE委員長の司会で舞鶴RCとの引継ぎ会を開催

舞鶴RC会長；小西 剛様、幹事；池田 正様、GSE委員長；喜多栄一様、元木 専様、今安茂也様、通訳様の6名、GSE団員；5名、奈良東RC；4名出席

奈良東RC中東会長 挨拶、

奈良における研修無事終了致しました、GSEの皆様にはお疲れ様でした、皆様と一緒に過ごせたこと大変誇りに存じます。この後研修が残っています、お体に気をつけて研修の成果を期待しています。

奈良東RC 国際奉仕委員長 挨拶

One week has passed since we met you. I have to say good-bye. It was pleasant for us to have studied with you. Thank you for your friendship and your sincerity. We and Nara-east rotary all members hope you are going to have good time in Maiduru. Would you please remember nara. "onegaisimasu"

GSE 団長 挨拶

奈良東ロータリークラブの皆様、一週間の研修有難うございました。皆様の友情に感謝申し上げます。今後の研修で色々なことを学んでゆきたいと思っています。本日引き継ぎの会を開催していただいたことに対し、舞鶴RCに方々、奈良東RCの方々に御礼申し上げます。



ホストファミリーから一言

GSE受け入れ報告

中東 弘京・紗和子

私達家族は、ドイツGSE団長ピーター・ミュラー氏をホストファミリーとして3日間受け入れをしました。短い期間ではありましたが、純日本建物の我が家での滞在は本当の日本文化に触れて頂いたと思っています。床の間付畳敷きの和室、日本式朝食、夕食としたところ団長は、大変感激されたようで、二度日の来日にもかかわらず日本の本来の生活に触れられ私達の生活の様子を見ていただいた事により、より日本への理解を深められたと思います。

奈良東ロータリークラブとしては、2度目のGSE団員受け入れ（前回はオーストラリア）で、団員各員が英語を話されたこともありスムーズな受け入れが出来ました。地区内受け入れクラブの最初のクラブでありクラブ会員は多少緊張しましたが、私達クラブ全員が真心を持って団員に接したことにより日本のロータリークラブを知っていただくとともに、奈良東ロータリークラブ独自の歓迎方法により、ロータリークラブを介して日本とドイツの友好を深めたものと自負しています。

ホストファミリーから一言

G・S・E体験

黒田 有紀・小夜子

ロータリークラブの例会から帰った主人から「今度、ホストファミリーになるよ!」と言われ「えっ!!」と驚いて話を聞く。それもドイツの方との事。英語も満足にできない我が家で務まるかと、最初は少し心配しましたが、本来、のん気な人間の集まりの我が家。まあ、何とかなるでしょ!と思い直し、息子が買ってきてくれたドイツ語入門会話と英会話の本をパラパラめくりながらその日が来るのを不安混じりに待っていました。

さて、いよいよ当日。「アンチェさんと今から一緒に帰るよ!」と電話があり、ドキドキしながらご対面!大柄な人を想像していたら、小柄でとてもきれいな方が来られ安心。それから時間の経つのも忘れて自己紹介、家の説明など、身振り、手振りと片言英語。ドイツ語の本を見ながら、お互い解らない所は笑いでごまかし…お琴の演奏体験や地図や写真を見ながらアンチェさんの故郷ドイツ、ブレーメンの話でとりあえず初日を無事終了しました。

次の日からは、日中は見学で忙しくされていたので、朝と夜だけでしたが、ドイツでの生活の事やボーイフレンドの事などいろいろ楽しく聞きました。一週間はあっという間で、最後の日はや遅くまで話をしてしまいました。別れの時には、親が実の娘を旅に出す気持ちでお互いに涙がポロリ。

今回、外国の人とお互い言葉が違っても解りあえるという事を、実感することができました。先日、プレゼントが着いたとお礼の手紙が来て、楽しかった思い出の日々を思い出しております。

本当にいい経験をさせて頂き、人生の貴重な思い出と喜んでおります。

ホストファミリーから一言

GSEのホームステイ受け入れして

上田 洋市

ゲルト・ハフミューラー君という好青年の来宅は一陣の涼風が吹きぬけたような、爽やかな心地を残して終わりました。

家内と娘の通訳で5日間を楽しく過ごせました、通訳つきという言葉の壁の障害もなんのその、身振り手振りで意思の疎通が図れたのは、我ながらまだまだ若いと改めて確認できた次第です。

ゲルトは役人と聞いていましたが、中小企業の営業に向いている様な感じの、ひょうきんな、感じの良い男の子で家内と娘とも相性が良く、娘の教える能まで、分かっているのかどうか一生懸命真似て踊っていました。

受け入れ出来るのが5人という事で、異文化交流を楽しみたい方が大勢おられた中、幸せな時間を頂けた事を感謝しています

ホストファミリーから一言

GSEを迎えて。

北奥 雅祥・佐容子

GSEを迎え、幹事としてGSE委員会に協力するためにも、ホストファミリーに応じました。受け入れ会議にも参加しておりましたので、不安はありませんでした。いや、ないと気楽に思っていたのですが、その時が迫ってきて家内から食事メニューを聞かれたり風呂や寝具のことを細かく聞かれると即答できず、少しずつですが不安になっていったのですが、それは思い過ごしでした。我が家が受け入れたのは、アンスガー・シェルプ君という193センチの長身の青年で、彼は、日本を体験し尽くそうと いろいろなことにチャレンジし、家内の出す日本料理にも果敢に箸をつけてくれ、その上手な箸使いには驚かされました。彼は上手に英語を話すのですが、当方は

片言のブローケン英語です。でも、お互いに一生懸命話すことで、すこしずつ気持ちが通じていきました。

何よりも、記憶に残っているのは、私の経営する「備長扇屋」(焼き鳥居酒屋)でのひと時です。ドイツにはこのようなレストランはないはずと思い、どの様にすれば喜んでくれるか考えました。ただ食べるだけでは面白くありません。私の経営ですから、何でもできます。そこで、彼らにユニフォーム(帽子、シャツ、エプロン)を用意して、それをプレゼントし、そのユニフォームを着てもらい、調理場で自分たちの焼き鳥を焼いてもらいました。この体験に彼らも喜んでくれ、自分たちの焼いた焼き鳥で、パーティーが始まりました。クラブメンバーにホストファミリーも加わって、本当に賑やかなひと時となり、そして、パーティーが終わると、ユニフォーム姿で片づけを手伝ってくれ、このような気さくで心配りのある彼らを本当に“近しい友達”として感じました。

このような国際交流の機会を与えていただいた、GSEというプログラムに感謝すると共にこれからもこのプログラムが続くことを願っています。そして、我が家とシェルプ君の交流も、日本とドイツに遠く離れてはいますが、Eメール(彼から感謝のメールをいただきました。)を使って続けたいと思っています。

ホストファミリーから一言

G.S.Eホームステイの思い出

清水 弘志・久子

私の家には、ハイケ・ハンスユルゲンスさんと言う女性団員がホームステイ致しました。彼女は、非常におしとやかで、遠慮がちなお嬢さんでした。肌着など「洗濯物を洗濯機の中に入れて置きなさい、」と言っても気兼ねをしてく中々入れません。ドイツでは空気が乾燥してべたつかない為か余り入浴はしないようで、お風呂にも入らない日がありました。しかし毎日綺麗な肌着を着用されていました。食事等では礼儀正しく日本の習慣に関心を示し、いろいろと尋ねられました。日本文化には興味を持ち、私

の長女とお茶の点前を熱心に稽古して遅くまで頑張っていました。長女は、2650地区のバスターガバナー、RI元理事 千 玄室さんが、裏千家・前家元であったこと等話していました。

彼女の職業は建設会社の技術者ですが、お仕事と容貌としてのイメージと少し合わない様でしたが、非常に几帳面なところはやはり技術者であると思いました。数年前にオーストラリアからのホームステイをお受けしたことがあります。彼女は欧米型の自由闊達な女性でしたが、今回の方は日本型の清楚なイメージを強く感じました。歓迎会の席でドイツの歴史を説明されていましたが日本と共通するところがあり、私達と何か共感するところがあるように思いました。先日、ハイケさんからドイツの写真や日本で私達と一緒に写した写真をアルバムにして送って来て下さいました思い出を感じながらご活躍されていることと思いますが、今後も何かの形で、お付き合いできたらと思っています。

ロータリー活動の一つの思い出として、いつまでも心に残るように思います。

本当に、皆様のご協力に改めて感謝いたします。
有り難うございました。

ホストファミリーから＝

GSEを担当して

萩原 隆夫

奈良東ロータリーに入会して、初めて目にしたGSE委員会でした。

そして尚、委員長と言う要職でしたので大変困惑しました。

最初、地区のGSE委員会に出席させて頂き、初めて委員会の内容が見えてきたように思いこれは「やるしかない」と決断しました。

それからは、中東会長を始めとして、北山国際奉仕委員長等に助けて戴きながら（10月25日～10月30日）6日間の滞在期間中の行程を作成しながら、これは、メンバー皆様の協力が一番に必要と思い、このGSE受け入れを、奈良東ロータリークラブの今年度一番の行事として実行することを、会長始め皆さんにお願いして、“もてなしの心”をもって行うことを企画致しました。

その結果、ホームステイ宅や行程の参加など、メンバー全員の参加協力を得て無事実行出来ましたことは、私自身大変嬉しく、又新しいふれあいも出来、

舞鶴滞在記録

2004年10月30日～11月5日

ホストクラブ
舞鶴RC

会長
小西 剛

幹事
池田 正

GSE特別委員長
喜多栄一



ホスト会員	メンバー
小西 剛／採石	Peter Moller／団長
池田 正／造園業	Ansgar Scherp／団員
喜多 栄一／機械修理業	Antje Bresnick／＃
元木 専／印刷	Gerd Hachmoeller／＃
深田 邦彦／新聞販売	Heike Hansjurgens／＃

スケジュール

10月30日（土）

- 11:30 京都にて奈良東RCより昼食を取りながら引継
- 13:00 京都出発（バスの車中にてスケジュール説明）
- 15:30 ホテルマール到着
- 18:00 ホテルにてホストファミリーとの夕食会
- 20:00 閉会

いよいよ、当日の朝が来た。会社には一週間出社しないとあってある。

戦争開始である。8時に出発し11時に到着。奈良東RCさんがセットしてくれた「京いち」にて昼食を取りながら引継を行う。

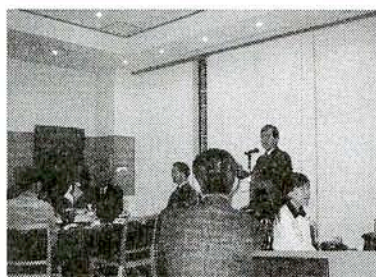
帰りの中、スケジュールの説明やホームスティ先からの質問等を聞きながら、舞鶴に向かう。迎えに行ったメンバーは私を含めドイツ語はもちろん英語もままたぬ人達ばかりで、通訳の内藤さんにはおんぶにだっこ。この方は学生時代にドイツに留学、その後ドイツに憧れて何度もドイツに語学研修されドイツ語は流暢。頼もしい助っ人だ。

6時にホストファミリーとGSE生、通訳をはさんで和やかに夕食会が始まる。最初はお互いに緊張をしていたが、そこは人類皆兄弟、少しづつほぐれていく。食べ物の好き嫌いは個人差があり、日本食に興味を持ち何でもチャレンジする人も居れば、そう



でない人も。只、豆腐やイカ、タコはだめみたいだ。

その日は彼らの疲労を考え早めに切り上げる。



10月31日（日）

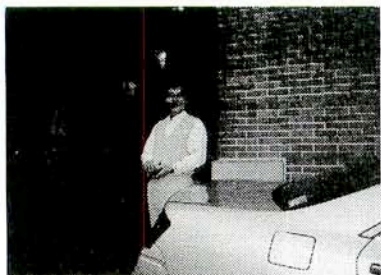
終日、フリータイム

16:00 ホテルよりGSE生をそれぞれのホームスティ先へ

朝、GSE生の事が気になりホテルまで様子を見に行くが、皆さん元気なので夕方迎えに来ますと言いつ残し帰る。

夕方、出迎えるとフロントで彼らは待機していて、荷物を積み込みそれぞれのホームスティ先へ出発。いよいよ始まる。奥様方よろしく。





11月1日 (月)

- 9:30 五老ヶ岳展望タワー
- 10:10 舞鶴東警察署表敬訪問
- 10:30 舞鶴市役所表敬訪問 新聞社プレス発表
- 11:30 市政記念館
- 12:00 昼食
- 13:00 ユニバーサル造船 (株)
- 15:15 キリンビバレッジ (株)
- 16:30 ホームステイ先へ

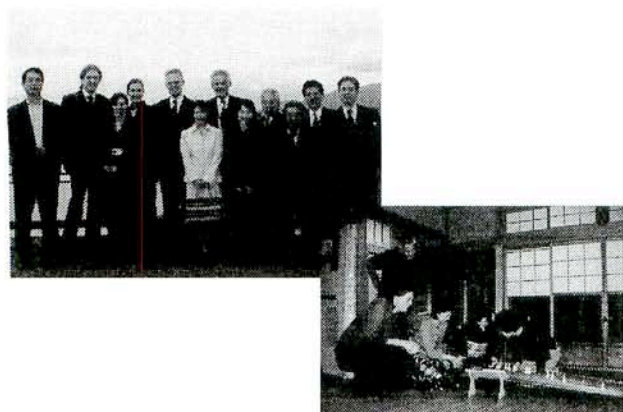
朝一番、近畿百景の一つである五老ヶ岳より舞鶴湾を一望する。この展望は彼らにとって安らぎのひとつになった様です。自国には無い景色との事で、大変良かったと大喜び。この日はスケジュールが過密で大変でしたが充実した一日だったと思います。

午前中、舞鶴では台風23号の被害が甚大で、その対策におおわらの市長との懇談。午後には企業訪問、特にユニバーサル造船 (株) では英語が堪能な技師三人も付いて頂いて、造船及びメンテナンスロボット等の講義を受ける。

専門用語が沢山出てくるので通訳の方も我々もかやの外でした。

夕食の後「邦楽の夕べ」と名を打って、元木宅にて琴、鼓、謡と芸能鑑賞。

その後、アンジェさんが着物姿で琴「さくら、さくら」の練習。短時間で弾ける様になり、皆さんから大拍手。今でも、あの時の彼女の笑顔は私の脳裏に焼き付いています。



11月2日 (火)

- 9:30 かまぼこ工場
- 10:00 京都府漁連
- 11:30 例会出席 (チームプレゼンテーション)
- 14:00 各自V.S先へ
- 17:00 ホームステイ先へ

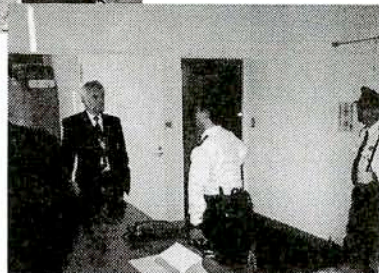
今日は例会出席の日で準備の為、少し早く例会場に行かねばならぬが午前中2ヵ所見学をする。京都府漁連では、魚の競り市を見学した。彼らが言うには、フィッシュオークションである。見学をしながら魚の名前等を尋ねると、日本ではひらめ、かれいは大違いであるが向こうでは、どちらもフライトフィッシュである。国が変わればこんな物かなと思った。

例会のチームプレゼンテーションは、彼らが四つの分野に分けそれぞれの役割を分担していた。当クラブでは家庭と伝統についてお願いをした。

午後はV.Sで五チームに分かれて企業等を訪問した。感想については、別紙添付の通りである。

夕食後、近くにあるスーパー銭湯に行こうという事になってGSE生二人、メンバー三人で出かける。サウナ、水ぶろ等に入りわいわいがやがや。又、記念に写真を撮り大いに楽しんだ。これがほんとうの裸の付き合いだと彼らに説明をした。





11月3日 (水)

- 9:30 船にて舞鶴湾巡り
- 11:00 親海公園にて
- 11:30 プラネタリウム見学
- 12:15 昼食
- 14:00 舞鶴引湯記念館
- 15:30 ホームステイ先へ
- 18:00 ホストファミリー合同夕食会

一日の日には構内から建迫申のタンカーを見学したが、今日は海上から海上自衛隊の艦船と修理中のタンカーを船でそばまで行き見た。あまりの大きさに圧倒され言葉が出なかった様だ。彼らは写真を何枚も撮っていた。

昼食後、男子二人が魚釣りをしたいとの事なので、釣り竿を用意し釣りをしてもらった。残念ながら釣れなかったが、バスの中で彼らは大きな魚を逃がしたとジョークを言ってみんなを笑わせた。

舞鶴引湯記念館では、日本が第二次世界大戦で敗戦し日本兵がソビエトに捕虜され、シベリアで強制労働させられ沢山の人が亡くなったと説明すると、ドイツも同じ様な境遇であったので、熱心に通訳に説明を求めている。

夕食会の後「カラオケ」に行こうと言う事で近くのスナックに行った。準備をしていたのか彼らは、都はるみの「すきになった人」を上手に歌った。それと、欧州が連合になりユーロ圏になったので「ベートベンの第九、歓びの歌」をユーロ圏の歌として歌った。

11月4日 (木)

- 10:30 護衛艦 イージス艦「みようこう」乗艦
艦内にて昼食
- 13:00 フリータイム
- 18:00 さよならパーティー
ホテルマーレ泊

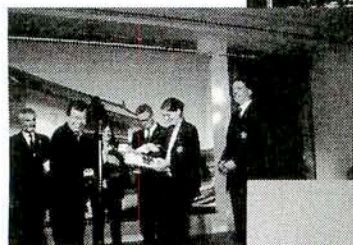
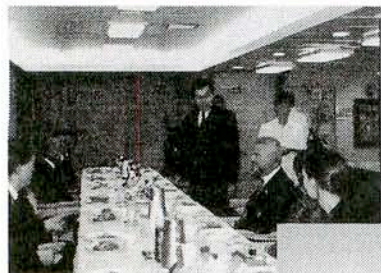
日本の最新鋭イージス艦「みようこう」に乗艦。

このイージス艦は、索敵範囲は800キロにおよび、音速の目標も簡単に探知、撃墜してしまう。洋上においては現状で世界最強の防空兵器。ほんとうにすごいのは米軍とリアルタイムで情報を共有出来る点である。400キロの彼方から敵の攻撃機が飛び立ったという情報を日本のイージス艦が探知すれば、現地の米艦隊にその全ての情報が伝達され米軍の船が敵を攻撃するということである。

甲板にて記念撮影後、艦内を案内してもらい、質疑応答。

お昼は、士官の食堂で艦隊司令官、艦長、士官らと一緒にカレーライス、串カツ、サラダ等を頂く。

夕方、「よさこい踊り」のオープニングで幕が開き、和気藹々の雰囲気の中でさよならパーティーが始まった。今日は、ロータリーのメンバーが沢山来て頂いているので、メンバー、GSE生、通訳の方を挟んで日本の文化やドイツの文化等を話し合っ



11月5日 (金)

7:00 ホテル出発

7:25 JR東舞鶴発 (通訳共4人随行)

9:00 JR京都着

9:30 地区GSE委員会に引継

10:12 のぞみ5号にて広島へ

ホテルまで迎えに行くと、彼らは出発の準備を済ませていた。荷物を車に積み込み東舞鶴駅へ。ホームに上がると、ホームスティ先の皆様が見送りに来ていた。

写真をあげたり、撮ったり、笑ったり、泣いたり、皆様それぞれ一週間の思い出が、走馬燈の様に頭の中を駆け巡っているのではないだろうか。さようなら。

朝が早くて、ホテルでの朝食が間に合わず、駅弁、おにぎり、パン、お茶、牛乳、ジュース等を買って乗車。その中で、彼らが気に入って喜んで食べてくれたのが、クリーム、ジャムの入った菓子パン。朝の食事に気をもんで頂いていた奥様方にもう少し早く分かっていたら教えてあげられたのに。あとの祭り。京都駅にて引継。

雑談の後、「さようなら」と言って、彼らはエスカレータにてホームに消えて行った。Alles Gute! (お元気でご多幸を祈ります)

この後、彼らが健康で行程を無事に終了する事を祈るばかりである。



ごあいさつ

舞鶴ロータリークラブ

会 長 小 西 剛

Guten Tag !!

R.I. D.1850地区ドイツG.S.Eチームのご来鶴を心より歓迎申し上げます。

約1年前、地区よりG.S.Eの受入について打診を受け寝耳に水とばかり検討の末、受入を決定し特別委員会を設置して準備を進めて参りました。

当初は、ドイツからのG.S.Eということで言葉や食事の心配もあり、あれこれ思案しましたが、ホームステイ先もスムーズに決定しV.S(ボケイショナル・スタディ)を含め充実したスケジュールを用意する事が出来ました。

このように舞鶴でのプログラムが順調に実施出来ますのも、特別委員会の周到な準備と献身的な努力は無論、全会員の協力、ホームステイを受け入れて頂いたご家族の皆さん、更に舞鶴市、海上自衛隊、研修をお世話になった企業団体、通訳ボランティアの皆さん等々多くの関係者のご協力の賜であり、心より感謝申し上げます。

我々はこの6日間の研修や交流を通して、ドイツをより身近に感じると同時に、ロータリーの国際性と財団プログラムを理解する良い機会であると確信します。

ピーター・ミュラーチームリーダーはじめ4名のメンバーが、先ず健康で舞鶴での滞在が有意義でよい印象の残る6日間となる事を心より祈念致します。

後になりましたが、舞鶴担当として種々ご指導いただいた地区G.S.E委員会の坂本克也様、また資金面でご協力いただいた両丹地区6R.Cに対し心からの謝意を表します。ありがとうございました。



ホストファミリーから一言

ようこそ!! 我が家へ

小西 洋子

「なんとかなる」「なんとかなる」と自分に言い聞かせては緊張をほぐそうとしていた1ヶ月前。これまで国際交流などとは余りかかわりの無かった私にとっては、今回のホームステイ受入のお話は大きな不安を誘うものでした。どうしてもてなせばいいのか、どうコミュニケーションをとればいいのか、食事は…お風呂は……正直なところ、考えれば考えるほど当日が来るのを憂鬱に感じておりました。

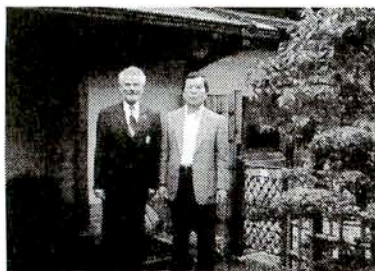
しかし、実際ミューラーさんを自宅に招いてからの数日は事前の不安が何だったのだろうと思えるほど、あっという間に過ぎました。本来ならば、もてなすことに徹しなければいけないはずの私の立場が、ミューラーさんの人柄の良さと話し好きの性格のためか、そう言ったような能動と受動の関係ではなく、楽しい時間を共有する関係へと変わり、後で思い返せば、むしろ私の方が普段味わえないような貴重な体験をさせていただいていたのだと思い知らされます。

先にも述べたとおり、私はこれまで外国人との交流の経験も少なく、ましてやヨーロッパのドイツといえば、ニュースやテレビ番組で見ただけの「はるか遠い国」というイメージしか持っておりませんでしたが、ホームステイという草の根の交流をさせていただいたお蔭で、ぐっと親近感を持つ事が出来ました。これが真の意味での国際交流という事だと感じております。

ミューラーさんも我が家での思い出を良き物として記憶してくださる事を心より祈っております。

最後になりましたが、1年前から特別委員会を設けられ今回のプログラムに取り組んでこられた会員の皆様、本当にご苦労様でした。皆様の努力の甲斐あって、ドイツからの5入のお客様は舞鶴での滞在を十分に満喫されたに違いありません。

今後、益々のご活躍をお祈り申し上げます。



ホストファミリーから一言

ホストファミリーを終えて

喜多 礼子

アンチェ プレスニック 彼女を我が家に迎えてホームステイの感想は“案ずるより生むが易し”諺のおりだった。

初夏頃ホストファミリー役を受ける事が決まった。食事は何を作ろうか? 寝室は、和室か洋室にするか? お風呂や洗濯はどうするのか? 言葉はうまく通じるだろうか? あれこれ気をもみながら、いよいよ当日10月30日が来た。

ウェルカムパーティーで初めて彼女に会って娘と私は、少し緊張しながら自己紹介をした。通訳の人が一緒なので何でも質問をしてみた。彼女は、今回日本に来るために英会話を勉強して来たそうで、私達に合わせてゆっくりと話してくれた。

食事が始まり、食べ物のお好み聞いてみた。肉は好き(特にチキン) 野菜は何でも好き。トマトは毎日食べていると答えてくれた。問題が一つ。彼女はシーフードがほとんど苦手だと言った。(我が家は魚料理が多い) アルコールも苦手でワインをほんの少し飲むくらいだった。ドイツの人はビールが大好きだと思い込んでいた私は、少しおどろいた。

日本に来て初めてトライしたという、箸の使い方があまりにも器用なので感心した。魚のムニエルが出て来たので、この魚の名前は“すずき”だと教えたら“Car (車)”と聞き返した。何と、彼女はドイツでスズキの車に乗っているそうだ。これにもおどろいた。しかし、後で分かったのだが、これがジョークだったので皆でお腹を抱えて笑った。楽しいパーティーは、あっという間に終わりGSEメンバーはホテル泊。私達は家路についた。

翌日31日夕方、主人がホテルにアンチェを迎えに行き、初めて我が家にやって来た。

“ようこそ、いらっしやい!!”と迎えた。夕食は息子達家族も加わって、しゃぶしゃぶにした。鍋に皆が「はし」を入れて食べる作法は大丈夫?と問いたら“ノープロBLEM”と答えてよく食べてくれた。

食後は彼女がドイツから持って来た写真を見せてくれた。ブレーメンの街並み、オフィス、住んでいる部屋、家族やボーイフレンドのものだった。美しいブレーメンの街の写真が特に印象に残った。

彼女は非常に努力家だ。会計士の資格を取る為に、16才で独り立ちし、税の会社に入って働き、夜学で学んだそうだ。今回、GSEに選ばれてとてもラッキーだと話してくれた。

“パソコンを自由に使ってね”とすすめたら嬉こんでくれた。ボーイフレンドと家族からメールが届いていたようだった。

1ヶ月以上、ドイツを離れ毎日GSEのメンバーとスケジュールをこなし、疲れないかと聞いてみた。彼女はこう答えてくれた。

“毎日、沢山の体験と見学をさせてもらいとても楽しい”と。



ホストファミリーから一書

アンスガルさんとの4泊5日

池田 南海

今回ドイツの方のホームステイをお受けするという事で、果たして我が家できちんとお世話することが出来るだろうかと、とても心配でした。いろいろと準備を、と考えるばかりで何も出来ないままそ

の日がやってきました。我が家のお客様はアンスガル・シェルプさんという、私の長男と同年の29才の青年です。ウェルカムパーティーで初めてお会いしましたが、とても優秀という印象を受けました。そのため、又自信がなくなりどうしようと緊張しました。ところが隣に座って食事が始まり、おそろおそろの会話を始めるととても気さくで明るく、私のヘタな英会話にお付き合いしてくださいました。それですっかり気が楽になり、取りあえず私が出れる限りのお世話をしようと思いました。

翌日の夕方、ホテルにお迎えに行き、帰りの車の中でドイツの鉄道の事や日本の新幹線の話をしました。家ではその日の夕食は鍋を用意していて、姉夫婦にも来てもらい5人で楽しく食事をしました。家族やガールフレンドの写真をを見せていただき、ご両親やご兄弟をととても大切にしている気持ちが伝わってきました。又、日本の何に一番興味があるのか聞いてみたら日本語がすばらしいというのです。日本語には、漢字、ひらがな、カタカナ、数字にも漢字がある、それを使いこなすということが驚きのようです。彼との話は私たちにとてもとても興味のあるものでした。

お風呂も心配の一つで、夜に入るのか朝に入るのか（外国人は朝入るものと思っていましたので）どちらがいいですかと聞きますとどちらでもいいとのこと。たぶん日本の習慣をお勉強されていたようで、結局毎晩9時から10時の間に入っていました。毎回しっかりお湯に浸かっているらしく、お風呂上がりはいつも汗びっしょり……。でもとても気持ちがいいと言ってくれてうれしかったです。

朝食もさることながら夕食は何を食べてもらおうかと好き嫌いを聞いてみると、イカとタコ以外は何でもOK! それでまずお肉をと次の日、行きつけの焼肉やさんへ、その玄関でみた下駄箱（昔の銭湯にあった木板の鍵をするようになっている）がとても気に入り、カメラに納めていました。そこで生肉にトライ、全部平らげました。

翌日は彼の希望でお寿司やさんへ、日本のオリジナル寿司バー（ドイツにもすしバーはあるらしい）と大感激、おまけにカウンターの中に入れてもらい、ハッピーを着せてもらいにぎりしました。初体験! もちろんカメラにしっかり納め、自分でにぎったトロを美味しそうに食べました。お店のご主人、女将さん、彼にすてきな思い出をありがとうございました。

家に帰った後、近くの温泉に行かないかと、主人

が聞いてみると意外にも行くとの返事、それならばハッハミューラーさんも誘って見たらと、直接アンスガルさんが電話で誘い、行くことになりました。これもオリジナルオンセン初体験！とっても気持ちよかったです。主人いわく、裸の付き合いが出来たとのこと！！

4泊5日の日程もアツという間に終わり、次のステイ先へと行かれましたが、さすがにお別れの時は寂しかったです。ドイツに帰られても日本のそれぞれの家族を時々思い出して貰えたらうれしいと思います。

私たちにとっても、この5日間は貴重な体験をする事が出来たし、大切な思い出になったと思います。



ホストファミリーから一言

NICE GUY MRゲアトを迎えて

元木 文美子

「ドイツGSEの方を我が家にお迎えする」と聞かされた時は晴天の霹靂。頭に浮かんだのは言葉の壁、生活習慣の違い。しかし少し落ち着いて考えると、折角日本に来られるのだから「日本の生活を楽しんで頂こう」の結論に達し、ドイツ生活の長かった友人の助言を得ながら、身長は182cm程との事でお布団も少し長めに仕立て直したり、献立を考えたりしてお迎えの準備を致しました。1日目の歓迎会でご対面。最初は通訳の方をはさんでの会話でしたが、奈良での話、家族の事など少しずつ打ち解ける事が出来ました。一日目の夜は雷雨が激しく「日本では

怖いものの順番を地震、雷、火事、親父と言います」と言ってしまうと説明に汗ビッショリ。片時も辞書を手離さず言葉の壁を越えようとされる真摯な姿勢に心打たれると同時に自分の横着さを恥ずかしく思いました。彼はとても心優しく、私が仕事を持っている事を気遣い朝食の後片づけやお皿洗い等を手伝ってくれたりもしました。

11月1日は「邦楽の夕べ」として深田信子様のお琴演奏、私の友人の片倉様の小鼓で私が謡「狸々」を謳わせて頂く等で秋の夜長を楽しみました。

この頃になるとお互いにリラックスしてきたように思われ手振り身振りの会話が弾む様になりました。

11月2日の夕食はMRゲアトの希望で献立は天ぷらと決まり、私が材料を調べ、粉の溶き方、揚げ方を伝授してMRゲアトと主人が揚げ役、3人で賑やかに作りました。少し多めに作り3日の市内観光に持って行き皆様に食べて頂きました。

池田家、喜多家と一緒に風呂に行ったりと楽しい思い出づくりが出来ました。始まってしまうと時間はあっという間に過ぎ、いよいよ別れの目が来ました。社員の皆が作ってくれた心尽くしの折り紙を手渡し旅の無事を祈り、涙、涙の別れとなりました。



ドイツGSEの研修生を迎えて

深田 邦彦

私たち家族は、今までアメリカ人、イギリス人、アフリカ・ウガンダ人、台湾人の方たちと何人か交流がありましたが、ドイツの人は初めてで、少し興味があり、今回ホームステイを受けました。

ホームステイとして迎えるのは、ハイケ・ハンスユルゲンス、29歳、土木技師の女性でした。ドイツ語はまったく駄目、でも英語が出来ると聞き、それなら英語は娘に頼ることに少し安心。そうは言うものの初めて会うまで少し緊張気味。会ってみると、とても落ち着いたおしとやかな女性でした。

ホームステイ一日は、コロッケを手伝ってもらい、他に色々とテーブルに並べ、英語、日本語でワイワイと喋りながらゆったりと食事をした。なんとお箸の使い方が上手い、下手すれば日本人の私より上手だったのには驚いた。彼女のことを聞いてみると、ドイツ北部の田舎で生まれ、自宅は農家で、牛を200頭ほど飼っている。また、スキンヘッドのボーイフレンドもいる。休日はガールスカウトと野山を駆け回ったり、サイクリングなどをしているとのこと。

二日目からは、お互いうちとけ会話も弾み、家内は、英和辞典片手に慣れない英語、だが不思議と通じる。面白いものだ。家の中が明るくなり、とても楽しい日が続いた。

この楽しい日も永くは続かず、別れの日が来た。やはり別れは辛く、目からは大粒の涙また涙、中々止まらない。

このドイツGSEの一週間を振り返り、ホストファミリーをさせてもらい、ロータリーの素晴らしさを改めて実感した。



GSEを終えて

喜多 栄一

皆様のご協力によりGSEを無事終える事が出来ました。

地区より予定通り、受け入れプログラムを終え11月25日に帰国の途についたとお礼の報告がありましたので、まずはホッとしています。

今まで、「お陰様で」と言う言葉を、普通に日常用語として、何も考えずに使ってきた。今回この事業を終えて、この「お陰様で」と言う言葉を今、あらためて実感として噛みしめています。

会員、委員会の皆様はもちろん、協力して頂いた各企業他、関係者には心より感謝の気持ちでいっぱいです。

この事業が決まってからの準備期間、又始まってからの一週間、沢山のひととお出会いし人間のすばらしさを体験致しました。

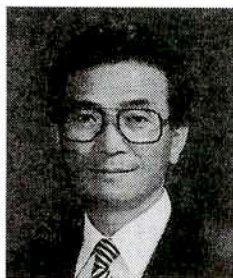
沢山の思い出をGSEの彼らに与えて貰って感謝しています。

「合掌」ありがとうございました。

京都朱雀滞在記録

2004年11月6日～11月12日

ホストクラブ
京都朱雀RC
会長
堀 一行
幹事
佐藤宏信
国際奉仕委員長
奥村昇三



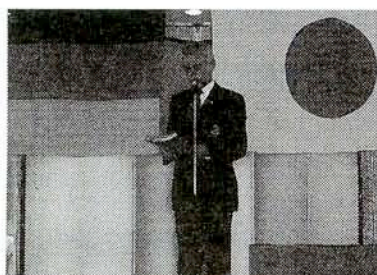
ホスト会員	メンバー
堀 一行／建設	Peter Moller／団長
中西 康博／不動産売員	Ansgar Scherp／団員
上田 昇／情報サービス	Antje Bresnick／〃
奥村 昇三／管設備工事	Gerd Hachmoeller／〃
松林 正高／建築	Heike Hansjurgens／〃

スケジュール

11月6日(土)

- 16:10 京都駅着(タクシー)
- 17:40 ホテルフジタ京都着
- 18:00 ホテルフジタ京都出発(タクシー)
- 18:20 リーガロイヤルホテル着
- 18:30 ホストフアミリー会食
- 20:30 終了
- 21:00 ホテルフジタ京都着(タクシー)

今日からGSEメンバーの受入れとなる。一向は広島から京都入りである。到着後ホテルフジタ京都に直行。その後休憩を取りリーガロイヤルホテルへ向かう。



11月7日(日)

- 18:30 一日自由行動
- 20:30 めん坊にてウエルカムパーティー
- 20:40 終了
- ホテルフジタ京都着(徒歩)本日は休息の

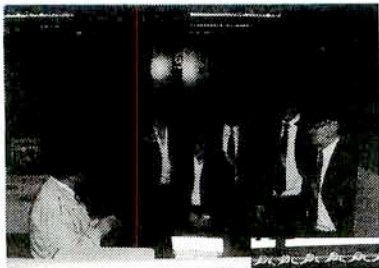
日に当てる。夕方から当会員のめん坊にてウエルカムパーティを開催。

11月8日(月)

- 8:30 ホテル出発
- 9:00 堀場製作所着(自家用車)
- 11:30 堀場製作所出発(タクシー)
- 12:00 昼食
- 13:00 月桂冠着
- 16:00 月桂冠出発(タクシー)
- 16:30 リーガロイヤルホテル着

今日から会社訪問のスケジュールの開始。午前中堀場製作所、午後月桂冠とクラブ会員及び当会員企業を訪問。丁寧な受けいれに感謝。本日の夜からホームスティが始まる。各受入れ先の会員がリーガロイヤルホテルに集合。





11月9日(火)

- 08:00 リーガロイヤルホテル着
- 08:30 一日観光に出発(観光バス)
- 17:30 リーガロイヤルホテル到着

一日観光バスにて京都市内観光、当会員3名同乗。
市内の歴史物の歴史的背景を説明、メンバーに好評。



11月10日(水)

- 9:00 京都ドイツ文化センター着
- 10:30 京都ドイツ文化センター出発(タクシー)
- 11:00 リーガロイヤルホテル着
- 12:30 例会出席

- 13:30 例会終了
- 13:45 ホテル出発(タクシー)
- 14:15 会計事務所着
- 16:30 会計事務所出発
- 17:00 リーガロイヤルホテル着

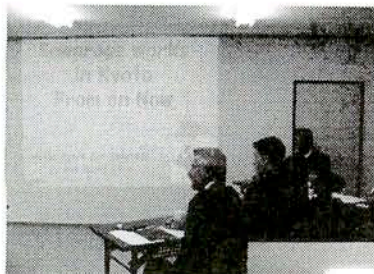
この日は日本で3箇所所在京都ドイツ文化センターを訪問。ドイツ人館長より説明。彼らも京都にこのような施設がある事は知らなかった様に思われる。この時は会員は参加しなかった。終了後例会のホテルに向かう。例会が始まる迄一室でメンバーでのミーティングを行う。例会終了後会計事務所を訪問し、日本の会計システムを学ぶ。会計システムに関して、当クラブの名古会員の紹介で京都産業大学の市田先生より日本の会計システム及び監査制度を説明、質疑応答。



11月11日(木)京都地方裁判所

- 9:00 昼食
- 12:00 京都地方裁判所出発(タクシー)
- 13:00 京都市下水道工事現場着
- 14:00 京都市下水道工事現場出発(タクシー)
- 16:30 法律事務所着
- 17:15 法律事務所出発(徒歩)
- 18:00 サヨナラパーティ会場着
- 18:20 開始
- 20:30 終了
- 20:45 ホテル着(徒歩)

朝ホームステイ先より荷物福井宿泊先へ送る午前中、裁判所訪問。午後京都市の下水道工事の有栖川工事現場を訪問。京都市担当者から京都市の下水道工事の説明、その後工事現場を見学。かなり詳細な質疑応答があった。今日で最後となった。サヨナラパーティーは非常に楽しい時間となった。



ドイツGSEメンバーからのメール

We wish you and your family a Merry Christmas and a happy New Year. We hope 2005 will bring you health, wealth, and satisfaction.

This year was one of the most beautiful of my life and I only could have it with your help. Thank you so much.

I'm looking forward to your GSE Team in 2006, and I will try to do what you did for us.

Your grateful

Peter Moller

Sorry that it took me such a long time to send you an email. However, just one weekend after our return, I had to go on a business trip to Bavaria and had a lot of work to do. I would like to thank you to accompany us during our week in Kyoto. I enjoyed my stay in Japan very much and appreciate the hospitality and kindness of your people. Especially in Kyoto, I got very impressed by the richness of your culture, like for example the Sanjosangendo and Nijo castle. Hopefully, I will have the chance to visit your country again within the next years.

I wish you Merry Christmas and a Happy New Year 2005!

Best wishes

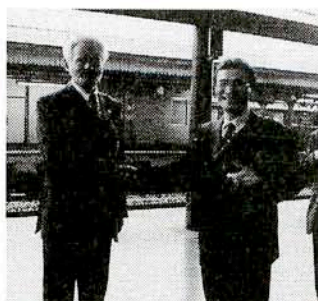
Ansgar

11月12日(金)

9:00 ホテルフジタ京都出発(タクシー)

9:30 京都駅着

10:12 福井へ出発(サンダーバード)



ホストファミリーから一言

「ピーター・ミュラー団長をお迎えして」

堀 一行

11月6日、広島でのエクスカージョンを終えて京都駅に到着されたG. S.Eのメンバー5名を迎えに行つた。今回のG. S.Eチーム滞在期間のちょうど中ほどで少々疲れが出ている時期ではないかと思ひながら迎えに行つたのですが、団長以下5名とも大変元気で、にこやかに新幹線京都駅の改札口へ降りてこられました。

私の家にホームステイされるのは団長のピーター・ミュラーさん、元警察官で、大学でも教鞭をとつておられたとの事で、大変硬そうな人ではと想像しておりましたが、お会いしてみると大変穏やかで、いつもにこやかに、そしてロヒゲをたくわえたとても素晴らしい紳士でした。彼は私より長いロータリー歴を持ち、1993～94年にはクラブ会長も経験されたロータリーの先輩でもあります。

京都滞3日目から我が家にホームステイされ、言葉にはまつたく自信のない我が家ですが、ま、精一杯歓迎すれば何とかなるだろうと思つてお引き受けした訳ですが、やつぱりなかなかうまく意思が伝わらず、結果的にはミュラー団長には大変しんどい思いをさせたのではないかなと思つております。今までにも何度か経験があるのですが、海外の方がホームステイされることは、私自信にも家族にとつても大変刺激があり、勉強にもなることで、大いに期待をしてお迎えをしたわけであります。今回はG.S.Eの団長さんを引受けるということで、我がクラブの現況や活動内容を知ってもらい、又ドイツでのロータリーの状況なども教えてもらうために、ど



うしてもしつかりした通訳が必要になり、歓迎会の時にもお願いしたドイツからの留学生、パトリックさんにホームステイ最後の夜にきてもらい一緒に食事をする事が出来ました。その時にそれぞれの考えている事を充分に話すことが出来、理解しあえたことがとてもよかつたと思つております。時間をさいてわざわざ来てくれたパトリックさんにも感謝したいと思つております。

もう一人今回のG.S.Eメンバー受入れに際し、大変お世話になつた方がおられます。その人は京都にあるドイツ文化センターの山下秋子さんです。G. S.E受入れのための準備をしている中で、奥村国際奉仕委員長がドイツの資料あつめのために、ドイツ文化センターに出向いた時に應對して下さつた山下さんが気持ちよくお手伝いしましょうと言って下さり、スケジュールの大半の通訳をして下さったことが、今回の京都滞在中のプログラムを成功させた最も大きなことであつたと思つています。あらためて感謝申し上げます。

京都朱雀ロータリークラブが創立して12年になりますが、昨年の青少年交換プログラムに引続き、この度のG.S.Eチーム受入れという国際でのプログラムに参加出来たことは、派遣されてこられた団員の方はもちろんのこと、受入れる我がクラブにとつても大変大きな意義あるプログラムであつたと思つております。このプログラムがG.S.E事業本来の持つ目的にかなつた事業としてこれからも永く続いていくことを願つております。



ホストファミリーから一言

ホームステイを終えて

松林 正高

今回私どもではドイツからの29歳の男性を受け入れることになり家族共々緊張と期待を待っており待ちしておりました。短い間ではありましたが食卓を囲み談笑し交流を深めることが出来たことを大変光榮に思います。

彼の中に今は希薄になった日本人の長所” 勤勉さ・真摯さを見、かつて同盟国であった理由がなんとなくわかったような気がします。ドイツ統一後未だ経済は困窮を極めているとのことですが借越ではあります。彼の人間性に明るい出口の兆しを感じました。我々もかつて誇りだった国民性を思い起こさなければと襟を正した次第であります。今回の受け入れは私ども個人としてもロータリアンとしても大変有意義でありました。ありがとうございました。

て驚きましたが、妻が日本の防寒具と説明して、はんてんを着せてあげ、子供たちと記念撮影をしました。3日目の夜、食事に出かけた祇園の創作和食店をたいそう気に入られ、ドイツにも気楽にお酒と食事が落ち着いて楽しめるような店があるといいのに、と言われました。何品か注文して、一皿の料理を皆で分け合うスタイルも彼女にとって新鮮に思えたようで、ドイツに帰ってから家の食事はそのようにしようと言っておられました。

食事の後、家族がそれぞれプレゼントを渡すと、その場で開けてとても喜んでおられました。白川沿いの料亭を写真に収めたりしながら帰途についていると舞妓さんにでくわし、記念撮影をいっしょにしてもらったのに、たいそう喜んでおられました。

帰国されて2ヶ月足らずの年末に、私たち夫婦と息子家族に新年のカードをいただき、元の生活になかなか戻れないと書かれていました。彼女にとって、日本での短い生活はとても印象深いものだったのでしよう。

ホストファミリーから一言

ホームステイを終えて

奥村 昇三

ホストファミリーから一言

アンチエさんと過ごした4日間

中西 康博

昨年11月にロータリークラブを通して、ドイツからホームステイを受け入れることになりました。

我が家に3泊されたアンチエさんは27歳の税理士をされている方と聞いておりましたが、お会いしてみると小柄な可愛らしい方でした。

1日目の夜は、私たち夫婦と息子2人の家族、小さい子供も含めて12人での賑やかな食事となりました。和食を囲んで彼女の家族の話や、故郷を遠く離れて仕事をするようになった経緯、東ドイツ出身の彼女の生活がドイツ統合の後、著しく変わったことなど話がはずみました。

また、現在同居中の恋人について、「最初は自分から声をかけたので、プロポーズは彼からしてほしい」とはにかみながらも、写真を見せてくれました。

ドイツでは11月の初旬には摂氏5度の寒さと思い

今回ドイツGSEメンバーをホームステイで受け入れることになりました。なにせ外国人をホームステイで受け入れることは初めてでどうなる事か不安があり、又ドイツ語は当然無理で英語もどうなるか解らない状態で受け入れとなりました。

その反面、旅行者に対し寝る場所と、食事を世話すれば良いかと思い、なんとかなると思っておりました。

初日、食事に関しては、日本食でOKと言われていたので、特別に考えていませんでした。また彼も儀礼的とおもいますが美味しいと言っていました。また欧米人は非常に表情が日本人からみると大げさと思っており、ドイツ人もそうだと思っておりましたが、なんと物静かで普通でした。これは今回感じたことです。

食事の量も我々より多く食べると思いましたが、これも遠慮か疲れか解りませんが、これも普通でした。

今まで旅行でドイツは行っていませんが日本人だけの海外旅行では理解できない人たちとの交流ができた事に感謝しております。

今回英語、ドイツ語がもう少し知っていれば、もっと意思疎通ができ楽しい時間が過ごせたのではとの思いがありました。しかしながら今からやる気はありませんが。

ホストファミリーから一言

GSE研修生を受入れて

上田 昇

「ドイツ人？ドイツ語？そらあかんわ！」家内にGSEの説明をしたときのそっけない反応から「きよなら！素敵な思い出をありがとう！お元気で！」に変わった瞬間、このプログラムに参加できたことを心からうれしく思い、ホストファミリーをすすめてくれた国際奉仕委員長に感謝しました。

初めて外国人を受入れた我が家にとっては、〈黒船来襲〉のような大騒動で、食事のことやお風呂のことなど、総てにてんやわんやだったのですが、やはり一番皆を悩ましたのが英会話。単語だけの会話に最初はお互いが戸惑っていましたが、2日目ぐらいから慣れも手伝って、85歳の父も楽しそうに一緒に過ごしておりました。

終わってみると、心地よい感動に家族全員が包まれ、「ロータリーって素敵やな」と初めて実感いたしました。

福井フェニックス滞在記録

2004年11月12日～11月18日

ホストクラブ
福井フェニックスRC
会長
黒川照元
幹事
平田好祐
GSE委員長
小澤恵三



ホスト会員	メンバー
黒川 照元／プラスチック製	Peter Moller／団長
平田 好祐／呉服販売	Ansgar Scherp／団員
岡島 輝治／ボイラー販売	Antje Bresnick／＼
早川 雅秀／歯科医	Gerd Hachmoeller／＼
久津見律子／心療内科	Heike Hansjurgens／＼

スケジュール

11月12日（金）

- 11:28 引継ぎ（福井駅）
- 11:40 ワシントンホテル福井にてミーティング
- 14:00 フリータイム
- 18:00 ワシントンホテル福井にて歓迎パーティー（例会）
ワシントンホテル福井泊



11月14日（日）

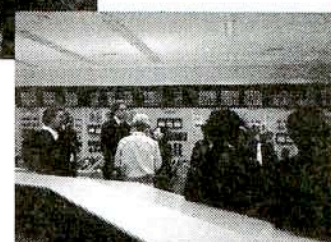
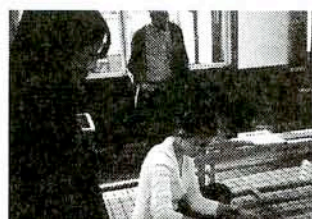
- 終 日 フリータイム
- ホストファミリー全員とバーベキュー
- 恐竜博物館見学
- ホストファミリー宅泊

11月15日（月）

- 09:00 高速増殖炉“もんじゅ”発電所見学
- 13:00 弁当
- 15:00 大豊オプチカル工場見学
- 16:30 寿司屋さんにてにぎり寿司作り体験
当日参加メンバーとホストファミリー全員で宴会
- 20:30 ホストファミリー宅泊

11月13日（土）

- 9:00 越前和紙の里に向けホテル出発 和紙造り体験
- 12:00 廻り寿司にて食事
- 13:00 越前陶芸の里にて陶器作成
- 18:00 ホストファミリー宅泊



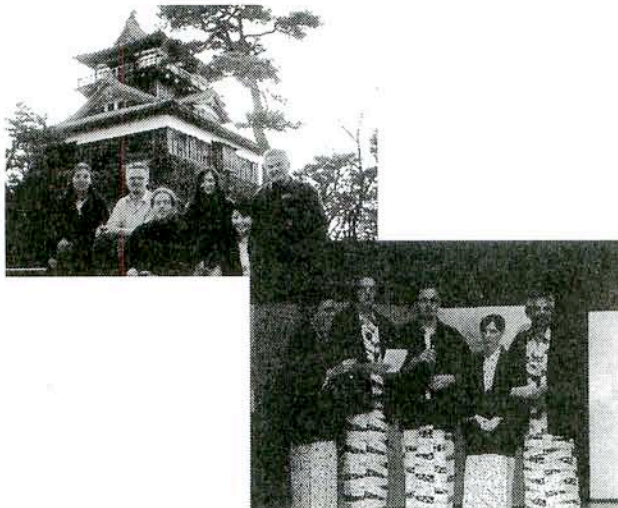
11月16日 (火)

- 09:00 福井県警本部・科学捜査研究所見学
- 11:20 福井県合同庁舎 (税務署見学)
- 12:20 昼食後当会員浅原組下水工事現場見学
- 14:30 移動NEC福井工場見学
- 17:30 ワシントンホテル福井泊
- 18:30 ホテルの焼鳥店にホストファミリーと
参加者集合・宴会



11月17日 (水)

- 10:00 ショッピングプラザ見学
- 12:00 中華飯店にて食事
- 14:00 丸岡城・丸岡城資料館見学
- 17:00 芦原温泉泊・お別れパーティー



11月18日 (木)

- 9:00 バスにて西大津駅へ出発
- 11:39 現地着
- 12:30 大津唐橋RCと昼食を交え合同ミーティング

ホストファミリーから一言

ドイツ・プレーメンよりGSEの お客様をお迎えして

黒川照元・真由美

夕方大きな荷物を持って我が家に、今回のリーダーであるペーター・ミュラーさんと通訳の中田陽子さんがお見えになりました。64歳の元警察官と紹介されていたので少し緊張してお迎えしたのですが、お会いしたら目がとても優しい紳士でしたのでほっと致しました。またその日の夕食は大勢のほうがいい、場が和むと思い早川先生とゲルドさんもお招きし娘を入れて7人でワインやビールを飲みながら和やかな雰囲気でおしゃべりを楽しむ事ができました。ただ福井へいらっしゃるまでに奈良、京都、広島、京都と20日間に渡る長い期間の移動と緊張でお疲れだと思い10時にはお風呂に入って休んでいただきました。毎日10時には休まれたので若いメンバーのチームリーダーとしての責任もあり、顔には出さずとも大変お疲れなのだと思います。翌日には今度は早川先生のお宅にお邪魔してまた食事会をしました。1週間を通して、ペーターさんは「フェニックスRCはあたたかくて一つの大きな家族のようだ…」と言って下さったのが大変嬉しく印象に残っています。帰られてすぐメールでお礼の手紙が届き、こちらからもクリスマスカードをメールで送りました。遠く離れたプレーメンの地にまたお友達ができた事が嬉しく、パソコンのやり取り以上にとても身近に感じられます。何年後かに彼らを訪ねて旅行できる日を楽しみにしております。感謝！

ホストファミリーから一言

GSEプログラム ブレーメンの方々をお招きして

早川 雅秀

当初、どういう方がホームステイにいらっしゃるのか不安でした。食事、言葉、習慣、寝室、お風呂、トイレ、どうすべきか妻と2人で毎日、悩みました。また、小学校6年生の次男の部屋を、急遽ゲストルームに仕立て夜遅くまで掃除をして片付かない我が家を見て夫婦喧嘩もしました。

そんな、こんな、しているうちに受け入れ当日が来ました。JR福井駅でゲアトさんたちを迎えに行き、すばらしい青年たちをみて安心しました。ホームステイ初日、家内が風邪をひき、熱を出したため我が家で夕食がとれず、会長の黒川さん宅へゲアトさんと押しかけました。会長の奥さんには大変お世話になりました。

ゲアトさんは、すぐに我が家の2人の息子と仲良くなり、一緒にジョギングをしたり、ゲームに映画に雑談にお互い楽しそうでした。

ゲアトさんは、礼儀正しく、遠慮深く、私たちの家庭に対してもすごく気を遣っているみたいで返ってこちらが恐縮してしまうくらいでした。

特に印象に残ったのは芦原温泉での例会です。大浴場、浴衣、大広間、ステージ、お膳、大宴会、カラオケ、イッチョライ節、彼ら曰く、「これぞ、日本、これを日本で一番してみたかった」と。カラオケでは、ハードロックにドイツ民謡、演歌に、フォークソング、お琴にギター。もう、踊りまくりの、歌いまくり。日本人のロータリアンもまれに見る大盛り上がりの大宴会でした。

今思うと、すごく短い日々でした。別れの時はやはり辛かった。女性の方は泣いていました。

ホームステイは色々準備が大変だと思いますが世界に友達ができることがすばらしい。

ホストファミリーから一言

ドイツ・ブレーメンよりGSEの お客様をお迎えして

岡島 輝治

突如、家にドイツ人がホームステイで来ると言われ、何をどうしてもてなしするのがよいだろうと「まごまご」するばかりです。いつもの日常生活すればと、簡単に言われますが、そんな事出来ないと色々思いめぐってみても何も出来ていません。日々はだんだん迫っておりましたが、何のアイディアもありません。そうだ「心」いっぱい「体」いっぱいもてなしするより手だてがないと心待ちにしていました。彼は1m97cmのステキなドイツ男性でした。敷き布団は2枚長く敷いて、寝巻きは日本の浴衣を出したら上手に教えなくても着ていました。「心」が入ったもてなしで接すれば何処の国の人でも「心」が通じるものだと教わりました。肌が違っても心は一つです。帰られてからも家中がすがすがしい気分でした。

ホストファミリーから一言

ドイツ・ブレーメンよりGSEの お客様をお迎えして

平田 好祐

まずアンジェの生い立ちをお聞きすると、東ドイツ生まれで西ドイツとの合併前は生活状態その他も今に比べると非常に悪いものだったと言っていました。ところが現在、旧東ドイツ地域の人々は以前の悪い状態を忘れて不平不満を多くの人が言っているそうです。合併のひずみが今出ているように思われます。しかし徐々に解消されると思います。彼女は幼い時に両親が離婚され16才の時には自立しているようでした。税の会社に入り、昼はそこで働き、夜は勉強、1年半夜間授業を受け、税理士の為の修業をしているようです。

このような環境のもとで、人生を過ごしてきたせいか、非常に几帳面で真面目な、周囲に気遣いの出来る素晴らしい人でした。日本人の生活に少しでも

溶け込もうとする気遣いもありましたし、食事も自分が食べる事ができないものには一切手をつけず、入浴においても湯船には入らず、シャワーだけで通し、疲れているにも関わらず私共の家族とのコミュニケーションをとるために夜遅くまで娘や妻との会話に入っていました。

最初、彼女がホームステイするというのでかなり緊張していましたが、彼女があまりにも素晴らしい人だったので、次のホームステイ先に行ってしまうと家族中が寂しくて、家の中にポツカリと穴が開いているような感覚になりました。私達はホストファミリーになったのは、初めてですが、今回のような人だったらまた受け入れたいと思います。

尚、このクリスマスに彼女よりクリスマスカードが送られてきました。日本での素晴らしい体験のお礼とドイツに帰ってからの現実のギャップで少し悩んでいるようです。一度私もドイツに行き彼女と会ってみたいと思っております。

ホストファミリーから一言

ドイツ・ブレーメンよりGSEのお客様をお迎えして

久津見 律子

今年度のSAAを受けた上は、ホームステイを引き受けるのも当然なんだよ、という周囲の雰囲気から圧されて、ホストファミリーを引き受けたというのが実情でした。

我が家ではアメリカ人の子供達をホームステイさせたことがあるだけで、考えてみればヨーロッパから大人のホームステイというのは初めての経験です。GSE受け入れの近づいたある例会の時、他のホスト会員から“ドイツ人は世界一きれい好きな民族だから家は大掃除したよ”と聞かされ、仕事をしながらの手抜き主婦の私は焦ったものの、時すでに遅し。なんとか浴室のカビ取りだけを着手し、当日を迎えることになりました。

我が家に迎えたハイケさんは、29才の女性土木技師さん。物静かで実直そうな印象で、にぎやかなアメリカ人位しか知らなかった我が家にとっては少し戸惑う相手でした。GSE委員長の配慮で、ホームステイ中も初日以外は、夕食をグループ全員でレストラン等とすることにいただき、本当に助か

りました。こちらに夕食作りの時間的、心理的ストレスがかかることなく、7時ごろに帰ってきたハイケさんを囲み、ゆっくり話すことが出来ました。

お互い母国語ではない、英語を介しての会話はかえって親近感が湧いたようで、英語の得意な夫より高2の息子が身振り手振りで話すブローケンな英語の方がうまく彼女には伝わるようで、時間がたつのも忘れてドイツの国情、日本の若者のこと、日本の伝統、互いの家族のことなどを話できました。両親には反抗的な息子の社交性には驚かされましたが、これもハイケさんの人柄に導きだされたのかもしれませんが。ハイケさんが“この家(私達家族)は、ふつうの日本家庭より、考え方が自由みたいに見える。整(息子)や、れい(小4の娘)と接しているとわかる”と言ってくれたのも、何か嬉しい感じがしたものです。(尚、初日の夕食は前日に作っておいたカレーライスとポテトサラダという日本の定番の家庭料理にしてみました。食べてくれたのでホッとしましたが・・・)

あっという間に、しかし怒涛のように忙しく過ぎたGSEの1週間でした。心に残ったのはもてなす私達の苦勞よりも、もてなされる側ドイツGSEメンバーの人達の言葉、行動の端々に見えた気配りでした。ドイツという国民性なのかGSEとい行事の特性なのか、こんなに気配りをしながら日本で1ヶ月を過ごす彼らに感嘆せずにはいられませんでした。

ハイケさんから後日、我が家や福井での写真を取り入れた2005年の手作りカレンダーが送られてきました。いつかドイツで会える日を期してというメッセージ付きでした。

大津唐橋滞在記録

2004年11月18日～11月24日

ホストクラブ
大津唐橋RC

会長 ローターリー財団委員長
奥村好隆 江上克彦

幹事 国際奉仕委員長
森 俊輝 松村和夫

GSE委員長
井野泰雄



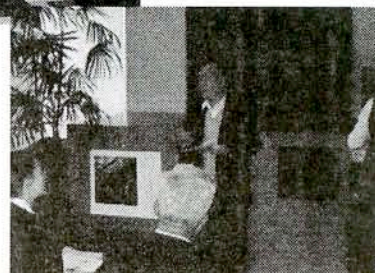
ホスト会員	メンバー
小野 亮／司法書士	Peter Moller／団長
松村 和夫／構造設計	Ansgar Scherp／団員
磯野 靖／宅地設計取引	Antje Bresnick／＼
村田 大作／建機販売	Gerd Hachmoeller／＼
井野 泰雄／仏教	Heike Hansjurgens／＼

スケジュール

11月18日 (木)

- 11:39 JR西大津駅でチーム出迎え
- 12:00 琵琶湖大津館にて福井フェニックスRCから引継ぎ及び昼食
琵琶湖大津館にて
- 14:00 ロイヤルオークホテルにチェックイン
- 16:00 オリエンテーション及びホストファミリー紹介
- 18:00 例会 チームプレゼンテーション「ドイツの文化芸術」
歓迎会

- 12:00 ドイツレストラン ヴェルツブルグで昼食
大津市長表敬訪問
- 14:00 (財)国際湖沼環境委 及びUNEP訪問
- 15:30 琵琶湖ミュージアム見学
- 18:00 各ホームステイ先へ

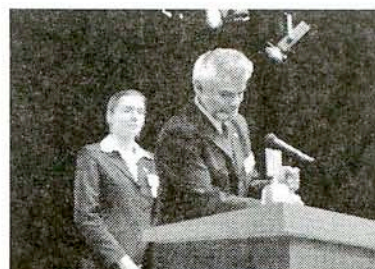


11月20日 (土)

- 9:00 ホテルニューサイチにてチーム打ち合わせ及び昼食
- 13:00 JRにて敦賀へ移動
- 15:30 地区大会第1日後半参加 チーム紹介
- 17:20 RI会長代理歓迎晩餐会

11月19日 (金)

- 9:30 大津市役所 市の地域開発説明の後市長表敬会議
- 10:30 大津市情報政策課 (コンピューター室) 見学
- 11:00 大津警察署見学



11月21日 (日)

- 10:00 地区大会第2日 敦賀エキスカージョン
参加
三方五湖など
- 16:00 敦賀よりクラブ会員とバスで移動
- 18:00 唐橋商工会館着 各ホームステイ先へ



11月24日 (水)

- 10:00 ホテルロイヤルオーク出発
- 11:10 新大阪駅で地区GSE委員長に引継ぎ

11月22日 (月)

- 10:00 東レエンジニアリング(株)機械工場見学
- 12:30 イタリアレストランで昼食
- 14:00 立命館大学 産官学交流推進室
理工学部 及び 情報工学部見学
- 18:00 各ホームステイ先へ



11月23日 (火)

- 9:00 ホテルロイヤルオーク集合 自由時間
周辺散策
- 13:00 井野GSE委員長宅(雲住寺)訪問
呉服店でゆかた購入・着付け練習
- 14:00 ホテルロイヤルオークにて自由時間
- 18:00 ホテルロイヤルオークで送別会



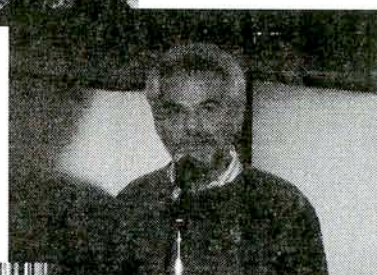
ホストファミリーから一言

GSEドイツチームを我が家に迎えて

小野 鈴江

チームリーダーのピーターから、お礼のメールが届いたのは今月初旬のことでした。「日常を取り戻しましたが、まだ少し日本にいるような気分です。皆さんが私の為にして下さったことは、私の心の一部として、生涯忘れることはありません。心から感謝しています」…と。2650地区で5週間5家族のホームステイ、それは彼らの心の印画紙にどのように写ったのでしょうか?? それはさて置き、当初主人からホスト・ファミリーの話聞いて、私は健康上の理由から実はお断りして欲しいと申しました。しかし、滋賀県の場合、22年に一回の行事と知り、これも何かの縁、22年先に生きてるだろうか? 目が見えているだろうか? 気持ちを変えるには時間は要りませんでした。この機会を私なりに受けさせてもらう決心をしました。ピーターが我が家で過ごした3泊4日、待っている間は、正直いって、すごくプレッシャーでした。言葉や食事が心配でした。以前ドイツ人の学生を預かったことがあります、来る人は違うから毎回は初心です。まして今回は64歳の紳士です。普段着の日本の家庭、ありのままの日本の生活を体験して欲しい。そんな思いで準備に入りました。今回クラブの奥さん方でホストファミリーのサポート隊(?)がそこそこ出来ていた事が救いでもありました。1家族単位で考えると気分的にしんどい事が多すぎます。そこで一泊目はそれぞれの家族で家庭料理でもてなし、2泊目は我が家で焼き焼きとちゃんこ鍋を中心に持ち寄りパーティを計画しました。手の空いてる奥さんと買い物に行き準備もワイワイ楽しく進めました。いよいよ本番、5人のメンバーと主人たちが地区大会から戻ってきて、ブラジルの交換留学生のルーカスも加わり、狭い部屋で大宴会。盛り上がって来たら、いつしか大合唱。もし部屋が広かったらダンスでも始まりそうな雰囲気でした。私の中で、ドイツ人は固い印象があったのですが、非常にフレンドリーでした。気が付いたら、後片付けの皿ふきも手伝ってくれました。3泊目の夜はフストファミリーに協力者も参加して日吉大社の紅葉のライトアップに空手と居合道の見学、日本人の私たちも興味深く拝見しました。メン

バーから質問が次々と飛び出し、片言の英語で果たして正しく伝わったかどうかは不明ですが。そして、庶民的な居酒屋での食事会。ここでも盛り上がる事盛り上がり事。あっと言う間にドイツ・ウィークが過ぎてしまいました。メンバーを受け入れた事によって、関係のご家族や協力頂いた方々と今までに無い連帯感を持ちました。同じ目的を持って、お互い協力しあう事によって、クラブの奥さん達では日頃得る事の無い和が築かれ大切さを感じました。これは一主婦の感想ですが、5週間もの長期間を他のクラブでもどのようにもてなされたのでしょうか?? 彼らと接して、どこのクラブでも至せり尽くせりの大名行列ではと想像してしまいました。もちろん、いろんな体験をされ感激もされたでしょうが、5週間は長すぎると思いました。昼は見学に観光、夜の大半が宴会ではお互い大変だったのではと想像してしまいました。GSEの目的が何なのかが、私の目には見えませんでした。(目が悪いもんで…)クラブの皆様、ボランティア本当に疲れ様でした。このプログラムの真価を問われるのは、これからだと思い、帰国されてからが、本当の意味での国際交流だと私は感じました。



ホストファミリーから一言

小さな国際社会に参加

村田 圭子

私達家族は、アンチェ・プレスニックと言う27歳、税理士の女性のホストをさせていただきました。彼女はベルリンの壁（ドイツ東西統一）が崩壊するまでは、東ドイツで生活をしていて、当時12歳、教育は社会主義に基付くものであったらしく、ロシア語を義務教育で学び、英語は統一後勉強したので上手ではないと話していました。私は、今のドイツの状況や人々の生活、文化、統一後、生活で変わった事や、その時に思った事、色々聞いてみたい事が沢山ありました。興味深い事が身近で聞くことができ大変いい勉強になったと思っています。それと、彼女に何故、訪問国に日本を選びましたかと質問すると、西洋にない特別な文化を持った日本を見たいと思ったという答えでした。来日前の日本人に対する印象では、少し暗くて、厳しい人々が多いとのイメージしていたらしく、各ロータリーを訪問している間に、日本人は明るくて、優しく、その印象が、全然違うものになっていった様です。三日という短い滞在でしたが、私達にとって大変良い経験ができ、小さな国際社会に参加した様な気分になりました。国は違っても、一人の人間として、言葉も大切ですが、それより、気負いせず、分かり合おうとする姿勢が一番必要ではないかと思いました。今後もしチャンスがあれば、国際交流に参加したいと思います。



ホストファミリーから一言

ホストファミリー ハンスユルゲンス・ハイケを迎えて

井野 泰雄

ドイツ1850地区GSEチームの受け入れの委員長を拝命して、11月18日より24日まで全行程同行いたしました。その間、団員のハイケをホストファミリーとしてお引き受けしました。初めはどのように接したらいいのか不安でしたが家内の心強い協力を得、暖かく接することができました。それはハイケがガールスカウトだという事を知り、様々な経験体験アクションを通して共通理解を深めてはどうだろうか。日本のありのままの生活を共にチャレンジできる井野ファミリー風もてなしを考えました。ハイケを迎えた夕方、早速夕食の献立材料を近くのスーパーに家内と一緒に行きました。そこで出会った近所の人との挨拶等、日常茶飯事の生活体験にふれたり、ハイケの好きな飯事の生活体験にふれたり、ハイケの好きな食べ物を取り入れながらのショッピングに目を輝かせながら楽しんでいました。その後、台所でカタコトの会話を通して、いっぱいの手料理を作りながら私の法務の帰りを待っていて、ホッとしたパーティになりました。夕食後は、スカウト仲間である妹も参加し「ハイケ和服チャレンジコーナー」が始まりました。ハイケは初めての着物やたばに目をパチクリしながら美しい和服姿のお嬢様に変身。とってもよく似合っていましたそこで、記念写真をパチリ。ホットするコミュニケーションもとれ、ハイケのドイツの家族の写真をを見せてもらいながらの話、ガールスカウトの話、ハイケの仕事の話など楽しいひとときを過ごしました。身ぶり手ぶりの悪戦苦闘の日々でしたが、ハイケは真面目で礼儀正しく気持ちのわかる優しい女性で彼女の笑顔を見ていると、あっという間の一週間の滞在でした。



ホストファミリーから一言

GSE受入について

磯野ひとみ

我が家に外国の大人の人が滞在されるのは、磯野家始まって以来、初めてのことで、家族で緊張していました。来られる前には、何を用意したらいいのか解らず、小野さんや松村さん、村田さんにお聞きしたり、ドイツについてインターネットで調べたり、食べ物、食器は、寝具はシャワーはいろいろな考えましたが、もう、今のありのままの姿しかないと開き直り、さざえさんのような一家でお迎えさせていただきました。ウェルカムパーティの時は皆さんも一緒だったし、我が家に来ていただいたハッハモラーさんは日本語も少し話されるのでホッとしました。何とかいけると感じました。その時何か食べたいものはありますか？と聞いたら「しゃぶしゃぶ」と言われたので、初日の夕食メニューは決まりました。初日は、まず、PCを使いたいと言われ使っておられたら解らないことがあり、早速、井上昌宏さんに連絡しました。井上昌宏さんは偶然近くにおられたので、すぐ来てくださいました。すぐに問題は解決し一件落着！その後も井上昌宏さんの絶妙なトークも交え楽しく夕食を済ませました。その後、ドイツの写真を見せて頂いたり、前の訪問先でカラオケに行かれたらしく、都はるみの「好きになった人」を教えて！と言われたので、娘とともに歌いました。そして、最後には第九まで歌い、生のドイツに触れさせて頂きました。

2泊目は小野さん宅で皆さんとホームパーティーでとても盛り上がり、すき焼きや鍋やごちそうを用意して頂き、食べたり歌ったりと楽しく、そして、不慣れな私は本当にとても助かりました。

3泊目はまず、日吉大社へ行き紅葉のライトアップを鑑賞し、その後村田さんのご厚意で空手、居合いを見せて頂きました。私自身初めて見せて頂き、剣さばきやその迫力と日本の伝統に感動しました。食事は、居酒屋でちょうど日本に来日されていたスウェーデンのウッラーさん親娘も交えとても楽しく、そして、国際的にすごさせていただきました。最後のさよならパーティでは、また、都はるみを一緒に歌い、とてもなごりおしく、又の再会を約束しました。この滞在を通じて、磯野家は国際化を果た

し、どこの国の人も皆、心通わせれば素晴らしい人間関係ができることがわかりました。まだ、経験不足なのでハッハモラーさんはご不便もあったことと思いますが、私自身とても感動的なものになりました。そして、ロータリーの事業のほんの一部ですが、協力ができ、理解することができました。この事業の関係者の皆様たいへんご苦勞様でした。



我が家への異国のお客さま

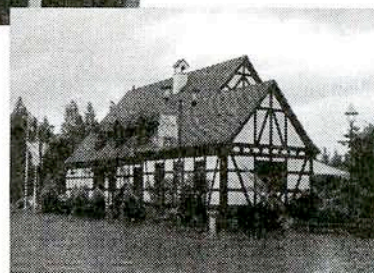
松村和夫 淑子

今、思い返せば夢のような話であり、何度考えても今後もあり得ないような大きな出来事でありました。ドイツ人のお客様アンズガー・シュルプ氏はコンピューター科学研究者で29歳とのこと。物静かで冷静な彼は彼らが泊まっていたホテルから我が家に到着するまでの車の中で、私たちの家族構成、すでに巣立ってしまった二人の息子の仕事のことや私達夫婦の仕事や趣味、日本人のものの考えなどポツポツと質問を始めました。すでに4クラブでホームステイを経験し、日本語や日本文化、日本人の習慣等かなり理解をしていることが会話を通じて感じることができました。そして我が家での最初の夜、彼と三人で夕食の食卓を囲みドイツワインで私達の出会いに乾杯をしてからはもう立派な家族の一員となった彼は自分の仕事や家族構成兄弟のことなどを説明してくれました。思案して思案して練りに練った夕食の献立に彼は随分満足し、美味しい美味しいと褒めてくれましたので私達夫婦は一安心。それまで何をご馳走すればよいのかと夫婦で再三議論していた事がうそのようでありました。つつい気良くして冷蔵庫の中に有った様々な日本食材の数々の試食会??

最初あった双方の緊張は完全に解消し、深夜に及ぶ懇談が…とも思ったものの彼はGSEチームの日報をインターネットで本国へ送信しなければならず、毎夜レポート作成の為彼は持参したノートパソコンに向かわなければならなかったのであります。たまたま他のメンバーよりコンピューターに明るいばかりにその様な役目を持たされており実に気の毒でもありました。いわゆる日本の諺で言うところの「器用貧乏」のクジを引いていたのであります。最初の晩餐は残念ながらかくして早々にお開きとなり、身の丈2mの彼はあちこちで鴨居に頭をぶつけそうになりながら与えられた和室に引きこもりレポートを遅くまで作成していたようでありました。翌朝、隠密の様に音を立てず肅々と台所仕事をしている私達の前に彼は元気良く姿を現し「おはようございます」と日本語と笑顔で挨拶をしてくれました。少し軽い目の朝食を取り、コーヒーを飲みながら今

日と明日の地区大会等のスケジュールの確認を話し合い、玄関前で記念撮影を済ませ、GSEチーム集合場所へ。すでに刈り入れの終えた秋の田園風景と紅葉の山波を彼は興味を示し簡単な質問などしてくれるが、いくら考えても私はドイツの風景のほうが圧倒的に綺麗なはず。しかし彼は鉄塔や電線・広告塔・看板・テレビアンテナなど景観などお構いなしの日本の景観規制制度や美的考えなど自国では有り得ない町並み・風景におそらく東洋の異国を感じていたのかも知れません。極めて繊細で知的な彼は「あれはなんですか?」と日本へ来てから覚えた日本語で目の前の不思議な日本の様々な物に遠慮なく質問してきます。しかしここからが大変なのであります。まず日本語での詳細説明ができず、英語が怪しげな独語の三ヶ国語を混ぜながらの苦戦が始まるのでした。達者な方から見れば滑稽な状況でもあるがこちらは真剣でなんとか要望に応えたいと忘れていた単語まで総動員して何通りかの説明を。後は彼の咀嚼能力が頼みの綱でした。勘の良い彼は手振り身振りの私達の説明を良く聞いてくれて、シンプルな英単語で再確認してくれ意味が通じていることを示してくれた。その時はお互い笑顔で「そっ。そっ。そっ。」と日独共通語で合唱。以後彼は何かあれば私達の顔をみて「そっ。そっ。そっ。」と言って笑顔を見せるようになり、その言葉は彼の口癖とそして私達お互いの合言葉ともなった。彼らドイツGSEチームは私達のロタリークラブを最後に帰国してしまった。しかし私達の心の中は2004年に日本に上陸した今年11番目の台風として随分多くの思い出(影響)と我家でもホームステイが迎えられるという自信を残してくれた。全く嵐のように来て嵐のように去っていった彼らではあったが、今から考えれば大変だったけれど随分楽しかった2004年の良き思い出となった。この様な機会を与えてもらった私達と、GSEを受け入れたクラブと四週間も日本で過ごしたにも拘わらず元気・笑顔で私たちを訪問してくれ、かつ熱心に研修プログラムを消化し、そして私達クラブ開催の歓送迎会、さらに地区大会及び晩餐会などなどの連続した懇親会も笑顔でドイツGSEメンバーは参加してくれました。彼らは、同席のオランダからの御夫妻、偶然当クラブに来た元青少年交換のスウェーデンからの親子、そして当クラブがホストのブラジルよりの交換留学生ルーカス君も加わった大変国際色豊かな歓送迎会を盛り上げてくれました。設立10周年を迎える当クラブにおいて国際奉仕委員長の機会を頂いた事と、私達夫婦にホストファミリーの経験を与えて頂いたクラブ各位

及び我が家で楽しく三日過ごしてくれたアンズガー氏をはじめとするドイツGSEチームに心より感謝いたします。さらにドイツに帰国されたGSEチームの方々にとって実り多い日本滞在であったこと、及び彼らの未来にこの来日GSE体験が大いに活かされることを祈念する次第であります。



研究グループ交換 (G.S.E.) とは

研究グループ交換（Group Study Exchange-G.S.E.）の目的は、異なる国にある2つのロータリー地区の間で、若い事業主や専門職業人によりなるチームを相互に訪問して、国際間の理解と友好の増進を図ることにあります。

このプログラムに参加する2つのロータリー地区は、ロータリー年度中にそれぞれのチームを派遣し、受け入れることになっています。

ロータリー財団は、各チームの往復旅費を支給します。

ホスト地区内におけるチームの食費、宿泊費、旅費などは、ホスト地区のロータリアンが負担します。

G.S.E.チームは訪問旅行中、個人の家庭に宿泊し、その地方の風習暮らしについて直接学びます。受け入れ地区が作成する日程表は、政府・教育・産業分野から福祉・スポーツ・レクリエーションの分野までの経済的・文化的施設を視察する様々な機会を提供します。また職業的関心についても学ぶことができます。

帰国後2ヶ月以内に、このプログラムについての報告書を財団へ送らねばなりません。それは財団が引き続き研究グループ交換プログラムを充実して行くにあたり極めて重要だからです。

チームメンバーの申請について

下記の条件を満たす青年（男女）をクラブが推薦します。

1. 申請時に常勤制で2ヶ年間、一般に認められた実業または専門職業に雇用されていなければなりません。
2. 居住している国の国籍を有し、派遣ロータリー地区に居住しているか、雇用されていなければなりません。
3. 協調的で自己の職業における姿勢が模範的であり、自分の意見を明確に述べることができなければなりません。
4. 2親等以内の親族にロータリアンがあつてはなりません。

THE ROTARY FOUNDATION GROUP STUDY EXCHANGE PROGRAM...

The group Study Exchange program, an educational activity of The Rotary, Foundation, offers a unique person-to-person opportunity for the promotion of better understanding and friendlier relation among the peoples of the world. In general, the program provides grants for the exchange of terms of young business and professional men between paired Rotary in different countries, thus enabling the visiting team to study their hosts' institutions and way of life, as well as to personal acquaintances and exchange ideas.

OBJECTIVES...

The Rotary Foundation Group Study Exchange, as an educational program, is designed to :

- provide to outstanding young business and professional men opportunity for studying and discussion in the concerned,
- further international understanding by allowing men of goodwill to meet, talk and live with each other in a spirit of fellowship so that they may get to know each other's programs and aspirations, and to permit such personal contacts to ripen into lasting friendships and
- involve Rotarians in a specific, practical, and meaningful international service project by organizing educational program for Group Study teams, and providing hospitality for them.

R.I.D.2650研究グループ交換プログラム実施年表 1

年次	西 暦	ガバナー	G.S.E. 委員長	派・受	相手地区	団 長	団 員
昭和 46～47	71～72	野崎 貫一	不破 治	受入	D.640 デトロイト	ヒューアーチャー 三浦総一郎	ケネスM.ゲッツ、トマスG.ゴードン、ジョンC.クレークス、 トーマスF.オコーナー、デイヴィッドA.ウィルソン 佐々木紘之、清水寿一、今阪 尚、藤原郁三、 覚前行成
47～48	73～73	田中 豊	竹上藤一郎	派遣			
48～49	73～74	小田 成就		/			
49～50	74～75	佐藤 裕治	酒井 哲	受入	D.676 テネシー	Pat Canal 酒井 哲	Wayne Gensemer、Tommy Rag Creasy、 Michael Wyane、Mike Jean、John Reed 大江法城、木谷克宏、滝山敏郎、岩井正臣、 惣宇利紀男
50～51	75～76	千 宗室	三浦総一郎	派遣			
51～52	76～77	足立 義雄		/			
52～53	77～78	山口 善造	山口藤兵衛	派遣	D.563 ネブラスカ	小野 修 Monty Charles	新道弘之、松尾秀行、兼定和寛、植田純一、 空閑信勝 Weymouth、Arlen Scott Gangwith、 Gary Lee Garnick、Patrick J.Mallog、 James Michale Meismer、Michael Joseph Taft
53～54	78～79	杉山 嘉一	絹川 浩	受入			
54～55	79～80	久津見 専		/			
55～56	80～81	邊辺 彌藏		/			
56～57	81～82	川島 春雄		/			
57～58	82～83	堀場 雅夫	牧 直次	派遣	D.596 ミネソタ	成田 龍雄 Roland D. Wilsey	堀田良里、小椋、正木 清、宮田 実、 小幡義次、原川 満 Mark.W.Tanning、Paul A.Forgerberg、 Donald Lagoon、Thomas L.Reding、 Tim K.Sehnert
58～59	83～84	財津 晃	成田 龍雄	受入			
59～60	84～85	羽根 實		/			
60～61	85～86	増田 房二	牧 直次	派遣	D.596 サンフランシスコ	前島 健治 Grogory C. Dyer	那須田文与、飯沼武彦、新延 清、 寺井誠一、村田三千夫 Bruce Wick、Stuart Peterson、 Robert M.Schlosser、Davit L.Murphy、 Lawrence Tan
61～62	86～87	佐々木勝順	牧 直次	受入			
62～63	87～88	小谷 隆一	牧 直次	派遣	D.596 アラスカ	前島 健治 Steve Yoshida	上野吉弘、伊達 朗、二宮 彰、須山敏行、 伊藤 博 Joel Gay、Chris Gianotti、Bill Osborne、 Lee Post、Tim Ryan
63～64	88～89	細田 精一	牧 直次	受入			
平成 1～2	89～90	津田佐兵衛	前島 健治	派遣 受入	D.528 ロサンゼルス	安川 昱 Ron Wong	荒川史朗、熊谷浩一、松浦正義、苗村淑子、 吉田祐子 Peter M.Guyer、Daniel Chagolla、Eric Sawyer、 Larry Sidney、John Tylor
2～3	90～91	中野 重宏	前島 健治	派遣 受入			
3～4	91～92	西村治次郎	前島 健治	派遣 受入	D.9500 オーストラリア アデレード	奥本 裕昭 ウェイン・ジャクソン	松田光夫、竹内一志、吉川幸子、 長谷川ゆか、古尾国弘 マーガレット・ハービー、ハザービター、 テニス・ホワイティング、ピーター・リバース、 ブラッドレイ・ファイファー

R.I.D.2650 研究グループ交換プログラム実施年表 2

年次	西暦	ガバナー	G.S.E.委員長	派・受	相手地区	団長	団員
4～5	92～93	林 一彦	前島 健治	派遣 受入	D.1860 ドイツ ハイデルベルグ	徳田 定弘 Hanes J.Baldauf	伊藤辰司、池田律子、高橋英子、松本かつら、隅田憲孝 Christina Buch、Karl Jost、Michel Moltgen、Jurgen Rautert、Andrea Schwark
5～6	93～94	本田 茂	徳田 定弘	派遣 受入	D.3460 台湾 台中	黄 書璋 沈 炎鐘	芦谷美奈子、因幡真佐巳、飯田智子、酒井克子 林 平烘、呉 維棟、王 媚美、張 郁琦
6～7	94～95	二橋 貞雄	徳田 定弘	派遣 受入	D.1670 フランス リール	エドワード・ダニエル・ミラー Michel Traisnel	堀井正光、佐々木美由紀、増田尚男、藪内美加 Franck Bertuzzi、Oliver Butel、Jean-Francois Teneul、Stephane Hachette
7～8	95～96	坂部 慶夫	淡島 洋	派遣 受入	D.4570 ブラジル ブラジリア	森 努 Pedr Augusto Musa Juliao	和田欣也、竹原知子、木本 実、沖田伸江 Dislaine Dos Reis Junqueira、Elizabeth Concalves Do Amaral、Leomardo guerra De Resendes Guedes、Fernando Antonio Lyrio Silva
8～9	96～97	(足高 晋) 中野 重宏	淡島 洋	派遣 受入	D.9710 オーストラリア キャンベラ	八木 春樹 Devid Graham	松浦啓之、長坂浩史、吉村仁志、富永純代 Kevin Stephenes、Marise Ingold、Joanna Campbell、Christpher Cooper
9～10	97～98	山田 三郎	松本 昇	派遣 受入	D.1390 フィンランド ヘルシンキ	淡島 洋 Heikki Tammissalo	鈴木忠司、常田信一、出口草子、植村久子 Petri Roininen、Jouni Vantaala、Jukka-Pekka Haapanen、Sari Hämaläinen
10～11	98～99	宮崎 茂和	松本 昇	派遣 受入	D.1470 デンマーク コペンハーゲン	田中 文夫 Finn Jacobsen	石原みさ子、林家祐子、松井直子、田中秀康、越智基嗣 Finn、Steen、Thomas、Chritian、Helle、Matte
11～12	99～00	大日方弘明	八木 春樹	派遣 受入	D.7350 アメリカ ペンシルベニア	松本 昇 Ronald Keyser	磯野真知子、鶴飼知子、桐山佳久、久内敏克 Eric Lindberg、Jennifer Nachamkin、Launa Kowalczyk、Maece Pancio
12～13	00～01	山崎 時雄	佐野 貞夫	派遣 受入	D.1390 フィンランド	佐野 貞夫 Axel Cedercreutz	村角智恵、三好弘美恵、桜井正寛、西村 徹 Harri Jaakkola、Rami Toivonen、Satu Hanninen、Saara Paljakka
13～14	01～02	西村 二郎	佐野 貞夫	派遣 受入	D.6910 アメリカ ジョージア	正村 嘉規 Von Starkey	品川 勉、今西正樹、大山由城、桒山和誉 Bill Jones、Mary lou Respass、Satu Mullins、Terris Thomas
14～15	02～03	岡村 吾郎	木村 憲一	派遣 受入	D.6080 アメリカ ミズーリ	八木 春樹 Ron Hammel	杉本直人、高楠直樹、藤原恵子 Lori Willamson、Susan Griffith、Matt Reiske、Tom O'Connor
16～17	03～04	福井 正典	木村 憲一	派遣 受入	D.9680 オーストラリア シドニー	坂本 克也 Graham Spong Faicd	柳沢 豊、井上寛泰、稗方攝子、小畑真由美 Debra McKenzie、Kelli Ponting、Seema Khatri、Peter Quirk
17～18	04～05	神谷 保男	木村 憲一	派遣 受入	D.1850	Peter Möller	Antje Bresnisk、Heike Hansjurgens、Gerd Hackmöller、Ansgan Sherp
18～19	05～06	大久保 昇	荒木 一寿	派遣 受入	D.1850 ドイツ ブレーメン	田中 文夫	賀川夕子、津田浩伸、東川景子、森井 裕

R.I.D.2650地区G.S.E.派遣・受入・ホスト年次別抄 ①

年次；96～97（H8～9）

交換地区；D2650⇄D9710（オーストラリアーキャンベラ）					
ガバナー；中野重宏 GSE委員長；淡島 洋 派遣団長；八木春樹					
受入；1997.3.14～4.25・・・派遣；1997.3.10～4.24					
来訪団員	David Graham	Kevin Stephens	Marise Ingold	Joanna Campbell	Christopher Cooper
1997年3月21日～3月28日					
ホストクラブ	勝山R/C	会長；鳥山 清	幹事；和田欽次郎	国際奉仕委員長；中村敬司	
ホスト会員	深谷 桂一	畔川 一	辻 哲雄	松村 孝夫	中村敬一治
1997年3月28日～4月4日					
ホストクラブ	長浜R/C	会長；吉村喜孝	幹事；高山 節二	国際奉仕委員長；平山 正	
ホスト会員	平山 正	鈴木 健市	渡邊 富良	立見 光夫	笹原 俊昭
1997年4月4日～4月11日					
ホストクラブ	京都洛北R/C	会長；西村昭光	幹事；藤井 征	国際奉仕委員長；山本六之	
ホスト会員	山本 六之	橋本 恵	今小路寛真	森田 郁雄	二本柳賢司
1997年4月11日～4月18日					
ホストクラブ	宇治鳳凰R/C	会長；樋口善康	幹事；堀井長太郎	国際奉仕委員長；岩滝捨雄	
ホスト会員	小永井征也	照喜名康行	岩井 智	橋内 憲次	通用頼亮太郎
1997年4月18日～4月24日					
ホストクラブ	桜井R/C	会長；稲田勝人	幹事；池田 利一	国際奉仕委員長；西垣隆司	
ホスト会員	稲田 勝人	堀井 考司	南 明	赤崎 正佳	中野 利一

派遣団員及び主な訪問先	
96年3月10日～4月24日	
松浦 啓之	長坂 浩史
吉村 仁志	富永 純代
キャンベラ ベリーグリフィンR/C ラザーグレイ ボンバーラR/C ショールハイブズ市 カウラ・リートン 他	

年次；97～98（H9～10）

交換地区；D2650⇄D1390（フィンランドーヘルシンキ）					
ガバナー；山田三郎 GSE委員長；松本 昇 派遣団長；淡島 洋					
受入；1998.3.28～4.30・・・派遣；1998.5.12～6.22					
来訪団員	Heikki Tammissalo	Sari Hamalainen	Jouni Vantaara	Petri Roininen	Jukka Pekka Haapanen
1998年3月28日～4月2日					
ホストクラブ	亀岡R/C	会長；大川 勝彦	幹事；松山 茂	国際奉仕委員長；出口 文堂	
ホスト会員	出口 文堂	高橋一二三	長野 烈士	大川 勝	中川 康久
1998年4月2日～4月8日					
ホストクラブ	京都西北R/C	会長；石川 公三	幹事；牧野敬一	国際奉仕委員長；山本 正道	
ホスト会員	木戸 靖	牧野 敬一	石川 公三	藤井 真一	森定 秀夫
1998年4月8日～4月14日					
ホストクラブ	若狭R/C	会長；池田満州治	幹事；石野 保	国際奉仕委員長；山根登美夫	
ホスト会員	川村 次繁	浜詰 二夫	桜本 良夫	中野 貴耀	池田満州治
1998年4月14日～4月20日					
ホストクラブ	水口R/C	会長；大橋 淳一	幹事；岡村俊男	国際奉仕委員長；井用 哲	
ホスト会員	大橋 淳一	岡村 俊男	小川三代治	小西 由一	野田 卓治
1998年4月22日～4月30日					
ホストクラブ	大和高田R/C	会長；松倉 俊之	幹事；甲村侑男	国際奉仕委員長；杉田 博	
ホスト会員	村島靖一郎	橋原 勉	甲村 侑男	杉田 博	栢岡 進

派遣団員及び主な訪問先	
97年5月12日～6月22日	
鈴木 忠司	常田 信一
出口 草子	横村 久子
ヘルシンキ ラハティ・ランミR/C タンペレ・ビルカラ トイヤラ・トゥルク・ ユバスキラ・ロバニエミ ヘイノラ北R/C 他	

（☆詳細は年度別報告書参照。）

R.I.D.2650地区G.S.E.派遣・受入・ホスト年次別抄 ②

年次：99～00（H 11～12）

交換地区：D2650⇄D7350（米国・ペンシルバニア）					
ガバナー：大日方弘明 GSE委員長：八木春樹 派遣団長：松本 昇					
受入：2000.3.21～4.26・・・派遣：2000.4.13～5.26					
来訪団員	Ronald Keyser	Launa Kowalczyk	Eric Lindberg	Marce Pancio	Jennifer Nachamkin
2000年3月21日～3月30日					
ホストクラブ	柏原中央R/C	会長：川俣海淳	幹事：原田 昌和	国際奉仕委員長：斉藤宗男	
ホスト会員	川俣 海淳	小川 丈夫	脇本 弘文	中西 知	原田 昌和
2000年3月30日～4月5日					
ホストクラブ	京都洛東R/C	会長：吉原英男	幹事：北村 光男	国際奉仕委員長：村上好夫	
ホスト会員	吉原 英男	小仲 善朗	北村 光夫	柴田 篤男	梶原 章二
2000年4月6日～4月13日					
ホストクラブ	長浜東R/C	会長：松波征文	幹事：福永 勝彦	国際奉仕委員長：松居繁隆	
ホスト会員	松波 征文	大塚敬一郎	村田 武夫	宮崎 豊	白川 弘泰
2000年4月13日～4月20日					
ホストクラブ	三国R/C	会長：斉藤愛夫	幹事：津谷 隆治	国際奉仕委員長：半澤政丈	
ホスト会員	伊藤 和美	島崎 省三	徳照 貴寿	半澤 政丈	大嶋 一英
2000年4月20日～4月25日					
ホストクラブ	京都西山R/C	会長：伊東一寿	幹事：家原利一良	国際奉仕委員長：田中善行	
ホスト会員	中野 種樹	津田 定明	井澤 豊	伊東 一寿	木下 泰一

派遣団員及び主な訪問先	
00年4月13日～5月26日	
磯野真知子	鶴飼 知子
桐山 佳久	久内 敏克
Hagerstown R/C Keyser R/C Washington FC Chambersburg Altoona R/C Huntingdon R/C 他	

年次：00～01（H 12～13）

交換地区：D2650⇄D1390（フィンランドーヘルシンキ）					
ガバナー：山崎時雄 GSE委員長：佐野貞夫 派遣団長：佐野貞夫					
受入：2001.3.29～4.30・・・派遣：2001.5.2～6.3					
来訪団員	Axel Cedercreutz	Harri Jaakkola	Rami Toivonen	Saara Paljakka	Satu Hänninen
2001年3月29日～4月3日					
ホストクラブ	京都桂川R/C	会長：浅野辰治	幹事：吉田 修	国際奉仕委員長：千田 適	
ホスト会員	出射 靖生	安田 勝	吉田 修	末長 寛	稲掛 英男
2001年4月4日～4月11日					
ホストクラブ	京都田辺R/C	会長：藤本益弘	幹事：田井 甫	国際奉仕委員長：前田利明	
ホスト会員	岡本 良夫	北川 良	織田 敏嗣	木村 良樹	田中安太郎
2001年4月11日～4月17日					
ホストクラブ	五箇荘能登川R/C	会長：布施征男	幹事：中村 康夫	国際奉仕委員長：北川敬造	
ホスト会員	本庄 康孝	本庄 康孝	本庄 康孝	田口 憲治	田口 重次
	西崎 徹心	布施 征男	北川 敬造	上林 庄造	中村 康夫
				中川 浩	
2001年4月17日～4月23日					
ホストクラブ	武生府中R/C	会長：大野武治	幹事：杉田俊一郎	国際奉仕委員長：角 裕幸	
ホスト会員	坂野 宇内	大野 武治	垣内 勝美	岩堀 南郎	辻 里明
2001年4月23日～4月28日					
ホストクラブ	生駒R/C	会長：宿 敏幸	幹事：谷口 清	国際奉仕委員長：安藤 武徳	
ホスト会員	宿 敏幸	坂本 成彦	庄司 悦治	中野総一郎	久保 昌城

派遣団員及び主な訪問先	
01年5月2日～6月3日	
村角 智恵	三好弘美恵
桜井 正寛	西村 徹
Lampäälä-Havas Nokia R/C Tampere-Lielähti R/C Tampere-Pyynikki R/C Ylöjärvi R/C Pihtipudas R/C Jyväskylä R/C Mänttä・Heinola R/C Heinola R/C Lahti-Mukklä R/C 他	

（☆詳細は年度別報告書参照。）

R.I.D.2650地区G.S.E.派遣・受入・ホスト年次別抄 ③

年次：01～02（H 13～14）

交換地区：D 2650⇔D 6910（米国・ジョージア）					
ガバナー：西村二郎 GSE委員長：佐野貞夫 派遣団長：正村嘉規					
受入：2002.4.3～5.1・・・派遣：2002.4.6～5.12					
来訪団員	Von Starkey	Bill Jones	Mary lou-Respesa	Stan Mullins	Terris Thomas
2002年4月3日～4月9日					
ホストクラブ	大和群山R/C	会長：中屋三司	幹事：尾崎勝彦	国際奉仕委員長：稲垣利一	
ホスト会員	中屋 三司	松岡 秀晋	稲垣 利一	今西 康彰	岡島三千夫
2002年4月9日～4月14日					
ホストクラブ	丸岡R/C	会長：西野清志	幹事：前田 章	国際奉仕委員長：下田重道	
ホスト会員	西野 清志	山岸 功	北 昭弘	高嶋 勝美	下田 重道
2002年4月15日～4月20日					
ホストクラブ	びわ湖八幡R/C	会長：川嶋正昭	幹事：野瀬宇一郎	国際奉仕委員長：西川竣治	
ホスト会員	井上 為	野瀬宇一郎	苗村 政光	北村公吏郎	福永 長次
2002年4月13日～4月20日					
ホストクラブ	京都中R/C	会長：橋本史朗	幹事：斉藤栄一	国際奉仕委員長：北ノ坊賢二	
ホスト会員	橋本 史朗	中井 昭典	肥田 白豊	北ノ坊賢二	山田 豊文
2002年4月25日～4月30日					
ホストクラブ	京都城陽R/C	会長：杉山 実	幹事：尾関弥之助		
ホスト会員	加藤 達成	中坊 健一	鹿野 秀雄	山田 雅久	森澤 格

派遣団員及び主な訪問先	
02年4月6日～5月12日	
品川 勉	今西 正樹
板山 和誉	大山 由城
Atlanta, Covington Rome, Gainesville Athens, Pnama, Florida（地区大会） Snellvill, Peechtree-Corners, N.Y San Francisco	

年次：02～03（H 14～15）

交換地区：D 2650⇔D 6080（米国 ミズーリー）					
ガバナー：岡村吾郎 GSE委員長：木村憲一 派遣団長：八木春樹					
受入：2003.3.21～4.21・・・派遣：2003.8.15～9.15					
来訪団員	Ron-hammel	Lori-Williamson	Susan-Griffith	Matt-Reiske	Tom-O'connor
2003年3月21日～3月27日					
ホストクラブ	奈良大宮R/C	会長：楠下重郎	幹事：井上政行	国際奉仕委員長：成田 積	
ホスト会員	潮田 悦男	藤井 正勝	鈴木 浩之	楠木 重樹	徳矢和士郎
2003年3月27日～4月1日					
ホストクラブ	亀岡中央R/C	会長：森 啓一	幹事：古前 極	国際奉仕委員長：廣瀬春輝	
ホスト会員	森 啓一	木戸 伸承	古前 極	安川 隆三	廣瀬 晴輝
2003年4月1日～4月7日					
ホストクラブ	京都紫竹R/C	会長：清水 南	幹事：細見正博	国際奉仕委員長：明石好蔵	
ホスト会員	細見 正博	成瀬日出夫	明石 好蔵	上田 基嗣	裕森 昭郎
2003年4月7日～4月13日					
ホストクラブ	福井西R/C	会長：林 逸男	幹事：岩崎清次	国際奉仕委員長：石川志貴雄	
ホスト会員	林 逸男	五十嵐清人	白崎 治義	石川志喜雄	白崎 建
2003年4月14日～4月20日					
ホストクラブ	甲西石部R/C	会長：川北清満	幹事：山元隆彦	国際奉仕委員長：伊藤 實	
ホスト会員	川北 清満	奥村 増一	長谷川正勝	山元 隆彦	園田 英次

派遣団員及び主な訪問先	
03年8月15日～9月15日	
杉本 直人	高楠 直樹
藤原 恵子	
Kansas city, Sidalia, Jefferson City, Lake Ozark, Mountain view, Springfiels, Belton, Warrensburg,	

（☆詳細は年度別報告書参照。）

R.I.D.2650地区G.S.E.派遣・受入・ホスト年次別抄 ④

年次：03～04（H15～16）

交換地区：D 2650 ⇄ D 9680（オーストラリア・シドニー地区）					
ガバナー：福井 正典 GSE委員長：木村 憲一 派遣団長：坂本克也					
受入：2003.10.20～11.24・・・派遣：2004.2.18～3.30					
来訪団員	Graham Spong Faicd	Debra Mckenzie	Seema Khatri Respesa	Kelli Ponting	Peter Quirk
2003年10月20日～10月27日					
ホストクラブ	奈良R/C	会長：岩崎俊介	幹事：沢井啓祐	国際奉仕委員長：小林敏良	
ホスト会員	長谷川嘉信	有馬 孝清	沢井 啓祐	松山 隆	山尾富士雄
2003年10月27日～11月3日					
ホストクラブ	滋賀湖北R/C	会長：川合 環	幹事：川瀬利弥	国際奉仕委員長：伊藤克美	
ホスト会員	中川 友一	土田 良夫	中村 義則	川瀬 利弥	山本 清蔵
2003年11月315日～11月9日					
ホストクラブ	鯖江北R/C	会長：進士 敏保	幹事：吉田洋一	国際奉仕委員長：高間岑生	
ホスト会員	進士 敏保	小山 泉	今野 利夫	加藤 団秀	酒井 優嘉
2003年11月10日～11月17日					
ホストクラブ	京都八幡R/C	会長：近藤恭弘	幹事：山下晴大	国際奉仕委員長：坂本克也	
ホスト会員	吉岡 正則	辻 富治	真鍋克治郎	畑中 清博	福井 純史
2002年11月17日～11月23日					
ホストクラブ	京都嵯峨野R/C	会長：小林正典	幹事：中川敏逸	国際奉仕委員長：杉本五十洋	
ホスト会員	長谷川善樹	森下 久治	富士森良輔	中島 達治	江後 良平

派遣団員及び主な訪問先

04年2月18日～3月30日

井上 寛康 柳沢 豊
稗方 攝子 小畑真由美

Sydney, blue Mountain,
Manly, Canberra,
Gosford,
Newcastle（地区大会）
Newcastle

年次：04～06（H16～18）

交換地区：D 2650 ⇄ D 1850（ドイツ・ブレーメン地区）					
(2004-05年度) ガバナー：神谷 保男 GSE委員長：木村憲一（受入年度） (2005-06年度) ガバナー：大久保 昇 GSE委員長：荒木一寿 派遣団長：田中文夫（派遣年度）					
受入：2004.10.25～11.25・・・派遣：2006.5.15.～6.15					
来訪団員	peter Möller	Antje Bresnick	Heike Hansjurgans	Gerd Hachmöller	Ansgar Scherp
受入：2004年10月25日～11月25日					
ホストクラブ	奈良東R/V C	会長：中東弘京	幹事：北奥雅祥	国際奉仕委員長：萩原隆夫	
ホスト会員	中東 弘京	黒田 有紀	清水 弘志	上田 洋一	北奥 雅祥
受入：2004年10月30日～11月5日					
ホストクラブ	舞鶴R/C	会長：小西 剛	幹事：池田 正	国際奉仕委員長：喜多栄一	
	小西 剛	喜多 栄一	深田 邦彦	元木 専	池田 正
受入：2004年11月6日～11月12日					
ホストクラブ	京都朱雀R/C	会長：堀 一行	幹事：佐藤宏信	国際奉仕委員長：奥村昇三	
ホスト会員	堀 一行	上田 昇	松林 正高	奥村 昇三	中西 康博
受入：2004年11月12日～11月18日					
ホストクラブ	福井フェニックスR/C	会長：黒川照元	幹事：平田好祐	国際奉仕委員長：小澤恵三	
ホスト会員	黒川 照元	岡島 輝治	久津見律子	早川 雅秀	平田 好祐
受入：2004年11月18日～11月24日					
ホストクラブ	大津唐橋R/C	会長：奥村好隆	幹事：森 俊輝	国際奉仕委員長：井野泰雄	
ホスト会員	小野 亮	磯野 靖	井野 泰雄	村田 大作	松村 和夫

派遣団員及び主な訪問先

06年5月15日～6月16日

賀川 夕子 津田 浩伸
東川 景子 森井 裕

Bremerhaven,
Wittmund-Esens,
Wilhelmshaven,
Osterholz,
Osnabrück,
Papenburg,
Bremen-Neuenlande,
上記の各R/C

（☆詳細は年度別報告書参照。）

R.I.D.2650G.S.E. 委員会名簿

2004～2005年度

氏名（クラブ名）	勤務先所在地・自宅住所	電話・FAX
委員長 木村 憲一 (福井RC)	勤 (株)木村建築事務所 代表取締役 910-0005 福井県福井市大手2-20-15	(0776)23-1957 FAX (0776)23-1948
	自 910-0016 福井県福井市大宮2-3-27	(0776)23-6832
副委員長 長谷川 正勝 (甲西石部RC)	勤 (株)ハセック 代表取締役 520-3252 滋賀県甲賀郡甲西町岩根678-559	(0748)75-2411 FAX (0748)75-1864
	自 520-3242 滋賀県甲賀郡甲西町菩提寺北山1492-474	(0748)74-2056
委員 明石 好蔵 (京都紫竹RC)	勤 高分子計器(株) 代表取締役社長 602-8027 京都府京都市上京区下立売通室町西入東立売町206	(075)414-1411 FAX (075)431-0661
	自 616-8414 京都府京都市右京区嵯峨大覚寺門前八軒町3-22	(075)872-2603
委員 坂本 克也 (京都八幡RC)	勤 (株)坂本克也建築事務所 代表取締役所長 614-8002 京都府八幡市八幡土井108-18	(075)981-5408 FAX (075)981-5490
	自 614-8002 京都府八幡市八幡土井108-19	(075)971-0970
委員 高辻 良成 (長浜RC)	勤 たかつじ商事(株) 代表取締役 630-8114 奈良県奈良市芝辻町4-12-5	(0742)34-5371 FAX (0742)33-9454
	自 630-8114 奈良県奈良市芝辻町879	(0742)27-6096

(委員：アルファベット順)

2005～2006年度

氏名（クラブ名）	勤務先所在地・自宅住所	電話・FAX
委員長 荒木 一寿 (福井北RC)	勤 ユアサ(株) 代表取締役会長 918-8231 福井市問屋2-7	(0776)21-5111 FAX (0776)22-2836
	自 918-8005 福井市みのり2-10-1	(0776)36-2828
副委員長 有馬 孝清 (奈良RC)	勤 キンキ・パートナーズ(株) 代表取締役 630-8104 奈良県奈良市奈良坂町2250-3	(0742)26-3721
	自 601-8104 奈良県奈良市奈良坂町2250-3	(0742)23-3229
委員 明石 好蔵 (京都紫竹RC)	勤 高分子計器(株) 代表取締役 602-8027 京都府京都市上京区下立売通室町西入東立売町206	(075)414-1411 FAX (075)431-0661
	自 616-8414 京都府京都市右京区嵯峨大覚寺門前八軒町3-22	(075)872-2603
委員 岡本 俊夫 (京都洛中RC)	勤 岡本司法書士事務所 所長 604-0974 京都府京都市中京区柳馬場竹屋町上ル4-183	(075)222-0018 FAX (075)231-2637
	自 602-8413 京都府京都市上京区大宮通寺之内下ル東入大北小路東町483	(075)441-3312
委員 坂本 克也 (京都八幡RC)	勤 (株)坂本克也建築事務所 代表取締役所長 614-8002 京都府八幡市八幡土井108-18	(075)981-5408 FAX (075)981-5490
	自 614-8002 京都府八幡市八幡土井108-19	(075)971-0970
委員 笹原 俊昭 (長浜RC)	勤 琵琶倉庫(株) 代表取締役 526-0061 滋賀県長浜市祇園町727-8	(0749)62-1199
	自 526-0053 滋賀県長浜市宮前町11-17	(0749)62-0780

(委員：アルファベット順)

あ と が き

今年度GSEは派遣のみでございましたが、先般帰国報告会に出席し、田中団長以下メンバー4人の報告を聞かせて頂きました。

彼等は各企業に於いて日夜一生懸命仕事に励み、企業の推薦を受けて応募された方々でございいます。各人出発迄はさぞかし自信と不安が交差する毎日であったと思います。

しかし帰国後の彼等は半年前の態度と目付きが大きく変化していた事でした。これ程迄に変わってくれるのかと感動させられた次第です。

そして、どうしてもお話ししておかなければならない事があります。メンバー派遣には、派遣される企業の存在があまり知られていませんが、今般派遣企業である甲賀高分子株式会社様が、立派な社内報を通じ、賀川夕子さんのサポートをされておられました。

社長様を始め企業挙げてのGSE派遣は正にロータリー・企業・派遣メンバーが1つになった瞬間であり、素晴らしい事業の結論となりました。

これらの感動を、ロータリアン皆様にも分かち合えます様に、一度はクラブを抜け出して地区へ出向されるのもいかがなものでしょうか。

一年間本当にありがとうございました。

R.I.D.2650 G.S.E.委員会

有 馬 孝 清

発行者：R.I.D.2650 G.S.E.委員会 発行日：2006年7月



**GROUP STUDY
EXCHANGE REPORT**

**2004
2006**

